第一號樣式

經費請求書

年月日		部局長	支拂店名
住所			拂渡郵便局名
一金	氏名		
科目	款	目金員	裁令年月日及事由
	項	目金員	
會計課長	主計係		
右金員支出スヘシ	支出官	主計係調定	小切手年月日番號
年月日	經費整理簿登記年月日	年月日	第號
支出簿登記年月日			

第二號樣式（用紙半紙）

會計課長印	部局長印	出張者	出發年月日
會計課長印	部局長印	出張者	歸廳年月日
旅費精算書提出年月日及領收印	年月日	年月日	年月日
御用命並ニ出張先地名	裁令年月日	年月日	年月日
出張者官氏名			

第三號樣式（用紙半紙）

旅費精算書

概算受高	金	部局長印
精算高	金	
差引金	可受高 可返高	
但左記明細之通		
精算高	鐵道賃	円
	船賃	円
	車馬賃	円 里
	日當	円 日
	宿泊料	円 夜
	食卓料	円 夜
	日額	円 日
內訳		円
右ハ		
出張中旅費精算書面之通相違無之候也		
局課名		
年月日　官氏名㊞		
支出官官氏名宛		

旅費日途金請求內訳

表書金額	一金	
內訳	日當	円
	宿泊料	夜
	車馬賃	里
	日額	日
	鐵道賃	
	船賃	
	食卓料	
鐵道賃	船賃	內訳
備考		

記

月日	地名	鐵道	水路	陸路	日當	宿泊料	食料	卓日額	備考
		円	円	里	日	夜	夜	日	
		錢	錢						

第四號樣式（用紙半紙）

年度自　年　月　日
至　年　月　日前渡金精算書

科目		前渡金	支拂額	殘額	備考
（款）		累計	前月迄本月支拂額		
（項）					
（目）					受高　月　日受領

右ノ通相違無之候也

年　月　日

廳

職官氏名㊞

第五號樣式（用紙半紙）

年度自　年　月　日
至　年　月　日買入物品假管守證

品名	數量	單價	金額	所要事由	備考
		円	円		

右ノ通候也

年　月　日

官氏名㊞

備考

一本證提出シタル後備品ニ屬スルモノニシテ數量ヲ減シタルモノアルトキハ次期ノ前渡資金出納計算書提出ノ際顚末ヲ詳記スルコト

二買入後直ニ消費シタルモノハ備考欄ニ其數量及事由ヲ記載スルコト

●旅費精算書提出期限勵行ノ件

昭和三年四月四日農局第九一七號
農務局長發各米穀事務所長宛

（經費整理ニ關シ通牒ノ件抄錄）

經費請求ニ關スル取扱方ニ付テハ客年五月農局第一一七七號ヲ以テ及通牒置候處尙左記各項ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

記

內國旅費ノ精算ニシテ甚シク遲延セル者尠カラス爾今歸廳後一週間以內ニ必ス精算書ヲ提出セシムルコト

●旅費精算書提出ニ關スル件

昭和四年五月四日農局第六一八號
農務局長發各米穀事務所長宛

（米穀事務所庶務會計主任事務打合會注意事項抄錄）

一、旅費精算書ノ提出甚敷遲延スル向アリ爾今必ス定規ノ日限內ニ精算書ヲ提出セシムルコト

一、一旅行中鐵道及海路ノ官私線ニ跨ルモノハ必ス官私線ノ別及其ノ哩數賃金ヲ區分記載シ私線及私設航路ノ名稱ヲ摘要欄ニ記載セシムルコト

一、汽車路及航路ト陸路トニ跨ル旅行ニアリテハ必ス其ノ經由驛及波止場名ヲ摘要欄ニ記載セシムルコト

●旅費概算請求ニ關スル件

昭和四年五月四日農局第六一八號
農務局長發各米穀事務所長宛

（米穀事務所庶務會計主任事務打合會注意事項抄錄）

所員ノ出張旅費概算請求ヲ先ニシテ出張報告ノ遲延スルモノ多シ出張報告ナキモノニ對スル概算旅費請求アルモ之カ支出ノ手續ヲ爲ス能ハサルヲ以テ爾今必ス報告書ト同時ニ請求セシメラレタシ

●旅費概算請求ニ關スル件

昭和五年六月十九日農局第一八二七號
農務局長發各米穀事務所長宛

（米穀事務所庶務會計主任事務打合會注意事項抄錄）

一、旅費概算請求ニ當リ當事者ノ出發後請求スル向アリテ支拂通知書ノ到達カ旅行事實ノ完了後トナル場合ナシトセス斯ノ如キハ概算渡ノ意義ヲナサヽルノミナラス法規上穩當ヲ缺クノ嫌アルヲ以テ概算請求ニ際シテハ往復ノ日數ヲ考慮ノ上請求シ尙概算請求ニハ必ス出發豫定月日ヲ記載セラレタシ

第三節　諸給與

第三節　諸給與

●官吏療治料給與ノ件

明治二十五年九月二十七日
勅令第八十號

官吏ニシテ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケタル者ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外療治料實費ヲ以テ給與ス

但府縣ノ收入ヨリ給料ヲ受クル者ノ療治料ハ其府縣ノ負擔トス

●試補及囑託員ニ療治料給與ノ件

大正十三年六月十二日會乙第一三五六號
會計課長發食糧局長宛

官吏療治料ニ關シ別紙甲號司法大臣官房會計課長ノ照會ニ對シ乙號ノ通回答致候旨大藏省主計局長ヨリ通知有之候條右御了知相成度此段及通知候也

（甲號）

大正十二年十二月二十日司法省會甲第四四九三號
司法省會計課長發大藏省主計局長宛

試補及囑託員ニシテ其職務ノ爲傷痍ヲ受ケタルモノアル場合ニ於テハ明治二十五年勅令第八十號ニ準シ實費ヲ以テ療治料ヲ支給シ差支無之候哉右ハ差掛リタル件有之候ニ付至急御回答相成度及照會候也

追テ本文ノ件支出差支ナキ儀ニ有之候ハヽ官吏療治料ノ費途ヨリ支出致度ト存候

（乙號）

大正十三年六月六日藏第六六八四號
大藏省主計局長發司法省會計課長宛

客年十二月二十日附會甲第四四九三號ヲ以テ試補及囑託員ニシテ職務上傷痍ヲ受ケタル場合療治料支給方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ前例モ有之候條官吏ノ事務ニ從事スル者ニハ明治二十五年勅令第八十號ニ準シ療治料ヲ支給シ差支無之省議ヲ經此段及御回答候也

追而官吏療治料ノ費途ヨリ支出方是又差支ナキ儀ト存候

●官吏療治料支給ニ關スル件

大正十五年三月二十六日會乙第四九〇號
會計課長發農務局長宛

官吏療治料支給方ニ關シ別紙寫ノ通リ大藏省主計局長ヨリ通牒有之候條該當事項有之候ハヽ右ニ依リ取扱相成度此段及通知候也

（別紙）

大正十五年三月二十二日藏計第一〇七號
大藏省主計局長發本省會計課長宛

官吏療治料支給方ニ關シ別紙乙號ノ通文部大臣官房會計課長ヨリノ

照會ニ對シ別紙甲號ノ通回答致候條御了承相成度此段及御通牒候也

（甲號）

大正十五年三月二十二日藏計第一〇七號
大藏省主計局長發文部省會計課長宛

二月二十七日附秋鑛會第六號ヲ以テ官吏療治料ノ支給方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ傷痍地又ハ在勤地ニ適當ナル病院ナク他ノ地ニ轉送スル場合ニ於テ其ノ往返旅行ニ必要ナル費用ヲ官吏療治料ノ費途ヨリ支出セラルルハ差支ナキ儀ト存候ヘ共當該費用ハ格別ノ事情ナキ限リ本官相當ノ旅費額（定額アルモノハ其ノ定額）ヲ超エサル範圍內ニ於テ總テ實費ヲ精算シテ支給スルコトニ致度省議ヲ經此段及御回答候也

（乙號）

大正十五年二月二十七日秋鑛會第六號
文部省會計課長發大藏省主計局長宛

官吏職務ノ爲傷痍ヲ受ケタル場合左記ノ費用ハ療治料トシテ支給差支無之哉承知致度此段照會ス

記

一、傷痍ヲ受ケタル地ヨリ療治地（入院ノ爲）ニ至ル迄ノ往復鐵道賃、船賃、車馬賃

一、入院ノ爲メ傷痍地出發ノ日ヨリ入院前日迄竝退院當日ヨリ在勤地ニ至ル日當及宿泊料

●官吏療治料支給ニ關スル件

大正十五年七月二日農會乙第一〇三五號
會計課長發農務局長宛

官吏療治料支給方ニ關シ別紙寫ノ通大藏省主計局長ヨリ通牒有之候條該當事項有之候ハヽ右ニ依リ取扱相成度此段及通知候也

（別紙）

大正十五年六月二十五日藏計第三九四號
大藏省主計局長發本省會計課長宛

官吏療治料ニ付職務ノ爲傷痍ヲ受ケタル者ノ解釋ニ關シ別紙甲號ノ通臺灣總督府秘書課長ヨリ照會有之乙號ノ通回答致候條爲念此段及御通牒候也

（甲號）

大正十五年二月一日秘丙第三五四號
臺灣總督府秘書課長發大藏省主計局長宛

官吏出張中汽車其ノ他乘物ニ事故發生ノ爲傷痍ヲ受ケタル場合（自己ノ過失ニアラス）ハ明治二十五年勅令第八十號ニ所謂職務ノ爲傷痍ヲ受ケタルモノトシ療治料實費ヲ支給シ差支ナキモノト被認候得共御意見承知致度右ハ差掛リ居ル件有之候ニ付至急御回示相成度及照會候也

尙右ハ出張往返中不慮ノ災厄ニ依リ受ケタル傷痍ト雖モ職務ノ爲傷痍ヲ受ケタルモノト看做シ支ナキヤ併テ御回示相煩度

（乙號）

大正十五年六月二十五日藏計第三九四號
大藏省主計局長發臺灣總督府秘書課長宛

大正十五年二月一日附秘丙第三五四號ヲ以テ官費治療ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ公務出張中汽車其ノ他ノ乘物ニ事故發生シ之カ爲傷痍ヲ受ケタル場合本人ニ重大ナル過失ナク且私用ニ非スシテ職務上ノ必要ニ依リ搭乘シタルコト明ナル時ハ療治料ヲ支給シ可然ト存候ヘ共其ノ他ノ出張滯在中又ハ往返中不慮ノ災厄ニ依リ傷痍ヲ受ケタル場合ニ於ケル療治料ノ給否ニ付テハ更ニ事實ヲ具シ御照會相成樣致度省議ヲ經此段及御回答候也

追而傷痍ノ事實ニ付テハ現認證明又ハ事實證明ヲ以テ之ヲ明瞭ナラシムルコトニ致度申添候

●雇員扶助令

昭和三年六月九日
勅令第百九號

第一條　政府ハ其ノ使用スル雇員ガ職務上傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ本令ニ依リ扶助金ヲ支給ス

扶助金ノ支給ヲ受クベキ者法令ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス

扶助金ノ支給ハ雇員ヲ解職スルモ變更スルコトナシ

第二條　扶助金ハ療治料、障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料及葬祭料ノ五種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ支給ス

一　療治料ハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官費治療ヲ受ケザルモノニ之ヲ支給ス

二　障害扶助料ハ傷痍又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ支給ス

三　打切扶助料ハ療養ノ期間一年六月ヲ經過スルモ傷痍又ハ疾病ノ治癒セザル者ニ之ヲ支給ス

四　遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ支給ス

五　葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ之ヲ支給ス葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給スルコトヲ得

打切扶助料ヲ支給スルトキハ以後本令ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ支給セズ

雇員重大ナル過失ニ因リ傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ障害扶助料又ハ遺族扶助料ヲ支給セザルコトヲ得

第三條　障害扶助料、打切扶助料又ハ遺族扶助料ノ額ハ別表金額ノ範圍內ニ於テ傷痍疾病又ハ死亡ノ原因、身體障害ノ輕重、勤務年限ノ長短其ノ他各種ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第四條　療治料ハ毎月一回以上之ヲ拂渡スモノトス

障害扶助料ハ雇員ノ傷痍又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ雇員ノ死亡後遲滯ナク之ヲ拂渡スモノトス

第五條　傷痍又ハ疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ支給シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ支給ス

第六條　本令ニ於テ遺族トハ死亡者ノ配偶者、子、父、母、祖父、祖母及兄弟姉妹ニシテ死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在ル者ヲ謂フ

第七條　遺族扶助料ハ前條ノ遺族ノ順位ニ依リ之ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ雇員ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準ジ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

兄弟姉妹ニ遺族扶助料ヲ支給スルハ其ノ者ガ未成年又ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限ル

遺族扶助料ヲ支給スベキ順位ニ在ル者行衞不明ナルトキハ遺族扶助料ハ其ノ次順位ニ在ル者ニ之ヲ支給ス

第八條　雇員健康保險法（第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク）ニ依リ療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クベキトキハ其ノ期間療治料ヲ支給セズ

雇員ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルベキトキハ葬祭料ハ之ヲ支給セズ但シ葬祭料ノ額ガ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

健康保險法第六十二條第一項（第二號ノ規定ヲ除ク）第二項又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケザル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ療治料又ハ葬祭料ハ之ヲ支給セズ

第九條　解職後一年ヲ經過シタルトキハ本令ニ依ル扶助金ハ之ヲ請求スルコトヲ得ズ但シ解職前ニ又ハ解職後一年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル傷痍又ハ疾病ニ基キ扶助金ヲ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　扶助金算出ノ標準タル俸給月額ハ加俸ヲ含マザル基本給トシ日給者ニ在リテハ其ノ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

朝鮮、臺灣、關東州、樺太、南洋群島ニ在勤スル内地人又ハ外國ニ在勤スル者ニシテ別ニ在勤加俸ヲ受ケザル者ニ在リテハ其ノ在勤地ニ於ケル判任文官ノ月俸ト在勤加俸トノ割合ヲ斟酌シ大藏大臣ノ定ムル金額ヲ前項ノ金額ヨリ控除ス

第十一條　政府ヨリ給與金ヲ受クル相互救濟ヲ目的トスル組合ノ組合員タル現業雇員ニハ本令ニ依ル障害扶助料及遺族扶助料ハ之ヲ支給セズ

組合員タル現業雇員組合ヨリ療治料及葬祭料ニ相當スル給付ヲ受クベキトキハ第八條及第九條ノ規定ヲ準用シ打切扶助料ニ相當スル給付ヲ受クベキトキハ本令ニ依ル打切扶助料ハ之ヲ支給セズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規、臺灣總督府雇員傭員死沒傷痍疾病手當規則及朝鮮臺灣滿洲樺太竝在外陸海軍雇員傭人死傷手當金給與規則ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前給與原因ノ生ジタル手當金ノ支給ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

明治四十年勅令第百二十七號中第五條削除

明治四十二年勅令第百五十一號、大正八年勅令第八十號、同年勅令第三百六號、同年勅令第三百六十一號、大正九年勅令第五百十號、同年勅令第五百七十四號、大正十一年勅令第六十號及大正十四年勅令第二百十四號中各第五條ヲ削ル

他ノ法令ニ於テ各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規、臺灣總督府雇員傭員死沒傷痍疾病手當規則又ハ朝鮮臺灣滿洲樺太竝在外陸海軍雇員傭員死傷手當金給與規則トアルハ之ヲ本令トス

職務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹レル雇員ニシテ本令施行ノ際仍治癒セザル者ニ對スル本令施行後ノ扶助ハ本令ニ依ル

本令施行前治癒シタル職務上ノ傷痍又ハ疾病ガ本令施行前再發シ本令施行ノ際仍治癒セザルトキ又ハ本令施行後再發シタルトキハ本令ヲ適用ス但シ第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル扶助料及傷痍疾病手當金ハ之ヲ本令ニ依ル障害扶助料ト看做ス

（別表）

種別		金額
療治料		實費
障害扶助料	終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルモノ	俸給月額二十四月分以上三十月分以下
	終身業務ニ服スルコト能ハザルモノ	俸給月額十六月分以上二十二月分以下
	從來ノ業務ニ服スルコト能ハザルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハザルモノ又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ	俸給月額十月分以上十四月分以下
	身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ業務ニ服スルコトヲ得ルモノ	俸給月額二月分以上八月分以下
打切扶助料		俸給月額十六月分以上三十月分以下
遺族扶助料		俸給月額十五月分以上二十月分以下
葬祭料		俸給月額二月分

〔參照〕

大正十一年四月二十二日公布法律第七十號健康保險法抄錄

第四十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ保險者ハ前條ニ規定スル期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

一　他ノ法令ノ規定ニ依リ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主ヨリ申請アリタルトキ

二　前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ

第六十二條第一項及第二項

保險給付ヲ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險給付ヲ爲サス

一　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

二　本法施行區域外ニ在ルトキ

三　感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

四　監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舍又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サス

第六十五條　保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

●雇員扶助令別表ニ規定スル扶助金額ノ範圍アルモノノ裁定ニ關スル件

昭和三年八月三十日會第一二〇二號
會計課長發農務局長宛

雇員扶助令別表ニ規定スル扶助金額ノ範圍アルモノノ裁定ニ關シテ別紙寫ノ通大藏省主計局長ヨリ内牒有之候ニ付爾後該當事項有之場合ハ右ニ依リ扶助金額決定相成度依命此段及通牒候也

（別紙）

昭和三年七月十七日藏計第五五九號
大藏省主計局長發本省會計課長宛

雇員扶助令別表ニ規定スル扶助金額ノ範圍アルモノノ裁定ニ關シテハ文官ノ恩給及傭人ノ扶助金ト彼是權衡ヲ得ル爲先ツ症狀ノ程度及原因ニ付別表ニ照準シ之ヲ勘續年數ノ長短及扶養家族ノ多寡其ノ他ノ事情ニ依リ勅令別表ノ範圍内ニ於テ相當增減斟酌シテ支給スルコトトシ以テ各省其ノ支給金額ニ付大差アル取扱ニ出テサルコトニ致度依命此段及御内牒候也

（別表）

扶助名稱・區分		扶助金額		
	身體障害ノ程度	甲	乙	
障害	終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ	恩給法施行令第二十四條特別項症程度ノ者	俸給 二十九月分以上三十月分迄	俸給 二十八月分以上二十九月分迄
		同 第一項症程度ノ者	同 二十七月分以上二十八月分迄	同 二十六月分以上二十七月分迄
		同 第二項症程度ノ者	同 二十五月分以上二十六月分迄	同 二十四月分以上二十五月分迄
	終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	同 第三項症程度ノ者	同 二十月分以上二十二月分迄	同 十九月分以上二十月半分迄
		同 第四項症程度ノ者	同 十七月分以上十九月分迄	同 十六月分以上十七月半分迄
扶助料	從來ノ業務ニ服スルコト能ハサルモノ健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ	同 第五項症程度ノ者	同 十三月分以上十四月分迄	同 十二月分以上十三月分迄
		同 第六項症程度ノ者	同 十一月分以上十二月分迄	同 十月分以上十一月分迄
	身體ニ障害ヲ存スルト雖引續キ從來ノ業務ニ服スルコトヲ得ルモノ	恩給法施行令第三十一條第二款症程度以上ノ者	同 七月分以上八月分迄	同 六月分以上七月分迄
		同 第三、四款症程度ノ者	同 六月分以上七月分迄	同 五月分以上六月分迄
		同 第五、六款症程度ノ者	同 五月分以上六月分迄	同 四月分以上五月分迄
		同 第七、八款症程度ノ者	同 四月分以上五月分迄	同 三月分以上四月分迄
		同 第九款症程度以下ノ者	同 三月分以上四月分迄	同 二月分以上三月分迄
打切扶助料	療養ノ期間一年六月ヲ經過スルモ傷痍又ハ疾病ノ治癒セサルモノ	恩給法施行令第二十四條第二項症程度以上ノ者	同 二十五月分以上三十月分迄	同 二十四月分以上二十九月分迄
		同 第三、四項症程度ノ者	同 二十月分以上二十四月分迄	同 十九月分以上二十三月分迄
		同 第五項症程度以下ノ者	同 十七月分以上十九月分迄	同 十六月分以上十八月分迄
遺族扶助料		同	同 十七月半分以上二十月分迄	同 十五月分以上十七月半分迄

備考

一、本表ノ甲、乙區分ハ傷痍、疾病又ハ死亡ノ原因ニ付各省適宜之ヲ區分スルコト

二、傭人扶助令ノ扶助金ニ付細則ヲ設ケアル各省ニ付テハ本表ニ準シ適宜本表ノ區分ヲ爲スコトヲ得ルコト

●傭人扶助令

大正七年十一月二十一日
勅令第三百八十二號

改正　大正一五年第二三九號
昭和三年第一二八號、四年第二三七號

第一條　政府ハ其ノ雇傭スル職工、鑛夫其ノ他ノ傭人業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ本令ニ依リ扶助金ヲ支給ス

扶助金ノ支給ヲ受クヘキ者法令ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス

扶助金ノ支給ハ傭人ヲ解雇スルモ變更スルコトナシ

第二條　扶助金ハ療治料、休業扶助料、障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料及葬祭料ノ六種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ支給ス

一　療治料ハ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官費治療ヲ受ケサルモノニ之ヲ支給ス

二　休業扶助料ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサル者ニ之ヲ支給ス

三　障害扶助料ハ負傷又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ支給ス

四　打切扶助料ハ療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病ノ治癒セサル者ニ之ヲ支給ス

五　遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族又ハ其ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス

六　葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ傭人死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給ス

葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給スルコトヲ得

打切扶助料ヲ支給スルトキハ以後本令ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ支給セス

傭人重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セザルコトヲ得

第三條　障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料又ハ葬祭料ノ額ハ別表金額ノ範圍内ニ於テ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、身體障害ノ輕重、勤務年限ノ長短其ノ他各種ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第四條　療治料又ハ休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ拂渡スモノトス

障害扶助料ハ傭人ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ傭人ノ死亡後遲滯ナク之ヲ拂渡スモノトス

第五條　負傷又ハ疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ支給シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ支給ス

第六條　遺族扶助料ノ支給ヲ受クヘキ者ニ關シテハ工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

第六條ノ二　傭人健康保險法（第四十八號第一項第二號ノ規定ヲ除ク）ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クベキトキハ其ノ期間療治料ハ之ヲ支給セズ、健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クベキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同ジ

傭人ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルベキトキハ葬祭料ハ之ヲ支給セズ但シ葬祭料ノ額ガ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

健康保險法第六十二條第一項（第二號ヲ除ク）若ハ第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケザル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ療治料、休業扶助料又ハ葬祭料ハ之ヲ支給セズ

第七條　負傷又ハ疾病カ傭人ノ解雇後ニ再發シタル場合ニ於テハ扶助金ハ之ヲ支給セス

第八條　解雇後一年ヲ經過シタルトキハ本令ニ依ル扶助金ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但シ解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ扶助金ヲ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　扶助金算出ノ標準タル賃金ノ額ヲ定ムル方法ニ關シテハ工場法施行令第十六條第一項乃至第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リテ金額ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ主務官廳之ヲ定ム

第十條　政府ヨリ給與金ヲ受クル相互救濟ヲ目的トスル組合ノ組合員タル現業傭人ニハ本令ニ依ル障害扶助料及遺族扶助料ハ之ヲ支給セズ

組合員タル現業傭人組合ヨリ療治料、休業扶助料及葬祭料ニ相當スル給付ヲ受クベキトキハ第六條ノ二及第八條ノ規定ヲ準用シ打切扶助料ニ相當スル給料ヲ受クベキトキハ本令ニ依ル打切扶助料ハ之ヲ支給セズ

附　則

本令ハ大正八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際官役職工人夫扶助令ニ依リ療治料又ハ給助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ本令施行ノ日ヨリ本令ニ依ル扶助金ヲ支給ス

官役職工人夫扶助令ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正十五年勅令第二百三十九號）

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ官費治療ヲ受クル者又ハ從前ノ規定ニ依リ扶助金ヲ受クル者ニシテ本令施行ノ際引續キ官費治療又ハ扶助金ヲ受クル者ニ對スル扶助ハ本令施行後ハ本令ニ依ル、本令施行前ニ官費治療又ハ扶助金ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病ガ本令施行後再發シテ扶助金ヲ受クル者ニ對スル扶助ニ付亦同ジ

附　則（昭和三年勅令第百二十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹レル傭人ニシテ本令施行ノ際仍治癒セザル者ニ對スル本令施行後ノ扶助ハ本令ニ依ル

本令施行前治癒シタル業務上ノ負傷又ハ疾病ガ本令施行前再發シ本令施行ノ際仍治癒セザルトキ又ハ本令施行後再發シタルトキハ再發

ノ時迄引續キ雇傭スル傭人ニ限リ本令ヲ適用ス

（別表）

種別		金額
療治料		實費
休業扶助料	同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發スル疾病ニ付休業百八十日以内ナルトキ	一日ニ付賃金日額百分ノ六十
	同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發スル疾病ニ付休業百八十日ヲ超エタルトキ	一日ニ付賃金日額百分ノ四十
	終身自用ヲ辨ズルコト能ハザル者	賃金五百四十日分以上七百日分以下
	終身勞務ニ服スルコト能ハザル者	賃金三百六十日分以上五百日分以下
障害扶助料	從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザル者、健康舊ニ復スルコト能ハザル者又ハ女子ニシテ其外貌ニ醜痕ヲ殘シタル者	賃金百八十日分以上三百日分以下
	身體ニ障害ヲ存スト雖モ引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ル者	賃金四十日分以上百五十日分以下
打切扶助料		賃金五百四十日分以上七百日分以下
遺族扶助料		賃金三百六十日分以上六百日分以下
葬祭料		賃金三十日分（但シ三十圓ニ滿チサルトキハ三十圓）以上四十日分以下

●供給勞働者扶助令

昭和七年一月八日
勅令第二號

工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ職工及鑛夫竝ニ勞働者災害扶助法ノ適用ヲ受クル事業ノ勞働者ニシテ勞務供給契約ニ基キ政府ノ使用スル者業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ政府ハ勞働者災害扶助法施行令第四條乃至第十二條及第十五條乃至第十七條ノ規定ニ準ジ扶助ヲ爲ス但シ扶助ヲ受クベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方長官ニ屬スル職務ハ所轄官廳之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●勞働者災害扶助法

昭和六年四月二日
法律第五十四號

第一條　本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ之ヲ適用ス

一　土石砂鑛ヲ採取スル事業ニシテ動力若ハ火藥類ヲ用ヒ若ハ地下ニ於テ作業ヲ爲スモノ又ハ常時十人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノ

二　土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理、變更若ハ破壞ノ工事ニシテ左ノ一ニ該當スルモノ

（イ）國、道府縣、市町村又ハ勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ直營工事

（ロ）鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ヲ營ム者ガ其ノ事業ノ爲ニスル直營工事

（ハ）其ノ他ノ工事ニシテ勅令ノ定ムル規模ノモノ

三　鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ一定ノ路線ニ依ル自動車ノ運輸事業

四　船舶ヨリ若ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ事業、岸壁、波止場、停車場若ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業又ハ工場、鑛山若ハ土石砂鑛ヲ採取スル場合ニ於ケル貨物積卸ノ事業ニシテ動力ニ依ル起重機、昇降機其ノ他ノ揚重機ヲ用フルモノ又ハ常事十人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノ

五　前各號ニ掲グルモノノ外危險ナル事業又ハ衞生上有害ノ虞アル事業ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

主務大臣ハ前項ノ規定ニ該當セザル土石砂鑛ヲ採取スル事業及岸壁、波止場、停車場又ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業ニ付地域ヲ限リ本法ヲ適用スルコトヲ得

第二條　事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働者ガ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スベシ

第三條　前條ノ事業主トハ勞働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ヲ謂フ但シ第一條第一項第二號（ハ）ノ工事ノ全部又ハ一部ガ數次ノ請負ニ依リ爲サルル場合ニ於テハ元請負人ヲ其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス

前項但書ノ場合ニ於テ元請負人ガ書面ニ依ル契約ヲ以テ下請負人ヲシテ扶助ヲ引受ケシメタルトキハ其ノ下請負人モ亦其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス此ノ場合ニ於テハ二以上ノ下請負人ヲシテ同一ノ工事ニ付重複シテ扶助ヲ引受ケシムルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ元請負人ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ扶助ヲ引受ケタル下請負人ニ對シ先ヅ催告スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ下請負人ガ破產ノ宣告ヲ受ケ又ハ其ノ行方ガ知レザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　第一條第一項第一號又ハ第四號ノ事業ガ專ラ同一ノ注文者ノ注文ニ依リ爲サルルモノナルトキハ其ノ注文者モ亦其ノ事業ニ付事業主トス

前條第三項ノ規定ハ前項ノ注文者ガ扶助ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第五條　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ行ハルル場所ニ於ケル危害ノ防止又ハ衞生ニ關シ必要ナル事項ヲ事業主又ハ勞働者ニ命ズルコトヲ得

第六條　行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ事業ノ行ハルル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第七條　事業主扶助ヲ爲スベキ場合ニ於テ其ノ資力アルニ拘ラズ扶助ヲ爲サザルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　正當ノ事由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ

若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　事業主未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十一條　本法中事業主ニ關スル罰則ハ國、道府縣、市町村及勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ之ヲ適用セズ

附　則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●勞働者災害扶助法施行令

昭和六年十一月二十八日
勅令第二百七十六號

改正　昭和八年第三二四號

第一條　勞働者災害扶助法第一條第一項第二號（イ）ノ公共團體ハ左ニ掲グルモノトス

一　府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、學區竝ニ町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル町村ニ準ズベキモノ及其ノ組合

二　水利組合、水利組合聯合會及北海道土功組合

三　耕地整理組合及土地區劃整理組合竝ニ其ノ聯合會

第二條　勞働者災害扶助法第一條第一項第二號（ハ）ノ工事ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル規模ノモノトス但シ軒高九米未滿ニシテ且建築面積三百三十平方米未滿ノ木造家屋ノ建築工事ヲ除ク

一　使用勞働者延人員千人以上ノモノ

二　請負ニ依ルモノニシテ請負金額一萬圓以上ノモノ

三　火藥類、動力（一馬力以下ノ電動力ヲ除ク）ニ依リ運轉スル機械又ハ運搬ノ用ニ供スル軌道ヲ用フルモノニシテ使用勞働者延人員三百人以上ノモノ

四　地上十米以上又ハ地下三米以上ニ於テ作業ヲ爲スモノニシテ使用勞働者延人員三百人以上ノモノ

工事著手前ニ於ケル豫定計畫ガ前項ノ規模ニ該當スルモノハ工事著手後之ニ該當セザルニ至リシ場合ト雖モ前項ノ規模ニ該當スルモノト看做ス

第二條ノ二　勞働者災害扶助法第一條第一項第五號ノ事業ハ工場以外ニ於テ行フ船舶（木造船舶ヲ除ク）ノ解體ノ事業トス

第三條　事業主ハ勞働者ガ業務上負傷シ若ハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ因リ死亡シタルトキハ本令ニ依リ扶助ヲ爲スベシ但シ扶助ヲ受クベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ事業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項ノ疾病トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

一　負傷ニ因リ發シタル疾病

二　異物ニ因ル眼疾患、重量物體ノ取扱ニ因ル腱鞘炎其ノ他災害ニ因ル疾病

三　毒性、劇性又ハ刺戟性料品ニ因ル中毒症又ハ皮膚若ハ粘膜ノ障碍

四　氣壓ノ急激ナル變化ニ因ル疾病

五　有害ナル光線ニ因ル眼疾患

六　其ノ他内務大臣ノ指定スル疾病

第一項ノ扶助義務ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外勞働者ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ

工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ニ付テハ本令ニ依ル扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

第四條　勞働者負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ事業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スベシ

第五條　勞働者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ因リ賃金ヲ受ケザルトキハ事業主ハ勞働者ノ療養中一日ニ付標準賃金百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給スベシ但シ日日雇入レラルル者又ハ使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ使用セラルル者ニシテ繼續使用セラルルコト十日未滿ノ者ニ付テハ事故發生ノ日ヨリ起算シ三日間ハ之ヲ支給スルコトヲ要セズ

勞働者ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ標準賃金ノ百分ノ二十トス

第六條　勞働者ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ事業主ハ別表ニ掲グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ

別表ニ掲グル身體障害二以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ

左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ上グ

一　第十三級以上ノ身體障害二以上存スルトキ　一級

二　第八級以上ノ身體障害二以上存スルトキ　二級

三　第五級以上ノ身體障害二以上存スルトキ　三級

別表ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲グル身體障害ニ準ジ障害扶助料ヲ支給スベシ

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スベシ

第七條　勞働者重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且事業主其ノ事實ニ付地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ認定ヲ受ケタルトキハ休業扶助料及障害扶助料ハ之ヲ支給スルコトヲ要セズ

第八條　勞働者死亡シタルトキハ事業主ハ遺族又ハ勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ標準賃金三百六十日分ノ遺族扶助料ヲ支給スベシ

第九條　勞働者死亡シタルトキハ事業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ勞働

者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ標準賃金三十日分（其ノ金額三十圓ニ滿チザルトキハ三十圓）ノ葬祭料ヲ支給スベシ

第十條　第四條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スベシ但シ本人ヨリ申出アリタルトキハ毎月二回以上之ヲ支給スベシ

障害扶助料ハ勞働者ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク之ヲ支給スベシ但シ事業主ガ從來ノ賃金ヲ支給シテ引續キ雇傭スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間內障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得

遺族扶助料及葬祭料ハ勞働者ノ死亡後遲滯ナク之ヲ支給スベシ

事業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ障害扶助料及遺族扶助料ヲ數回ニ分割シテ支給スルコトヲ得

勞働者災害扶助責任保險法ニ依リ保險セラルル場合ニ於テハ第二項但書及前項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第十一條　第四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル勞働者療養開始後一年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セザルトキハ事業主ハ標準賃金五百四十日分（第七條ノ場合ニ於テハ二百七十日分）ノ打切扶助料ヲ支給シ以後前七條ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サザルコトヲ得

第十二條　別表第八級以上ノ障害扶助料又ハ打切扶助料ヲ受クル勞働者扶助ヲ受ケタル日ヨリ十五日以內ニ歸鄉スル場合ニ於テハ事業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スベシ

第十三條　事業主豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ事業主及勞働者ノ出捐スル共濟組合ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十四條　勞働者災害扶助責任保險法第四條第二項ノ規定ニ依リ政府ガ扶助ヲ受クベキ者ニ保險金ヲ支拂ヒタルトキハ事業主ハ其ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

第十五條　標準賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一　勞働者災害扶助法第一條第一項第二號（ハ）ノ工事ニ使用セラルル者ニ付テハ一日ニ付十六歲未滿ノ者ハ四十錢、十六歲以上ノ女子ハ六十錢、其ノ他ノ者ハ一圓

二　勞働者災害扶助法第一條第一項第四號ノ事業ニ使用セラルル者ニ付テハ事故發生前（賃金締切日アル場合ニ於テハ直前賃金締切日以前）一月間當該事業ニ繼續使用セラレタル同種勞働者ノ賃金總額ヲ其ノ勞働者ノ數ニ其ノ期間ノ日數ヲ乘ジタル數（業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シ賃金ヲ受ケザル日數ヲ控除ス）ヲ以テ除シタル金額

三　前二號以外ノ事業ニ日日雇入レラルル者又ハ使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ使用セラルル者ニ付テハ事故發生ノ日ニ於テ當該事業ニ使用セラレタル同種勞働者ノ平均賃金ノ三分ノ二

四　前三號ニ該當セザル者ニ付テハ事故發生前（賃金締切日アル場合ニ於テハ直前賃金締切日以前）三月間（雇入後三月ニ滿チザルトキハ其ノ期間）ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ズ

五　健康保險法ノ被保險者ニ付テハ前四號ノ規定ニ拘ラズ事故發生當時其ノ者ニ付定メラレタル標準報酬日額

六　前各號ノ規定ニ依リ標準賃金ヲ算出スルコト能ハザル者ニ付テハ地方長官ノ定ムル金額

內務大臣ハ業務ノ種類又ハ地域ヲ限リ前項第一號ノ金額ヲ增加又ハ減少スルコトヲ得

第一項第四號ニ規定スル期間中ニ業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間中ニ於ケル賃金ハ第一項第四號ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

第一項第四號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與及發明奬行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル手當ヲ包含セズ

第十六條　前條ノ規定ニ依リ標準賃金ヲ算出スルコト不適當ナル場合ニ於テハ事業主ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ別段ノ標準賃金ヲ定ムルコトヲ得

第十七條　工場法施行令第十條乃至第十二條、第十三條ノ二、第十五條及第十八條ノ規定ハ本令ノ扶助ニ付之ヲ準用ス

第十八條　國ノ直營スル事業ニ於ケル勞働者ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

第十九條　勞働者災害扶助法第十一條ノ公共團體ハ道府縣又ハ市町村ニ準ズベキモノトス

第二十條　本令中地方長官トアルハ砂鑛業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

附則

本令ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

身體障害等級及障害扶助料表

等級	身體障害	障害扶助料
第一級 一	兩眼ヲ失明シタルモノ	標準賃金五百四十日分
二	咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ	
三	精神又ハ胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ	
四	兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	

五	兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	
六	兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	
七	兩下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	
第二級 一	兩眼ノ視力〇・〇一以下ニ減ジタルモノ	標準賃金四百八十日分
二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ	
三	兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ	
四	兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	
第三級 一	兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ	標準賃金四百二十日分
二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇四以下ニ減ジタルモノ	
三	咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ	
四	十指ヲ失ヒタルモノ	
第四級 一	兩眼ノ視力〇・〇四以下ニ減ジタルモノ	標準賃金三百六十日分
二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	
三	兩耳ヲ全ク聾シタルモノ	
四	精神ニ障害ヲ殘スモノ	
五	胸腹部臟器ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ	
六	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	
七	一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	
八	十指ノ用ヲ廢シタルモノ	
第五級 一	兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	標準賃金三百日分
二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ	

三	兩耳ノ聽力耳殼ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ	
四	一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ又ハ其ノ用ヲ全廢シタルモノ	
五	一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ又ハ其ノ用ヲ全廢シタルモノ	
六	十趾ヲ失ヒタルモノ	
第六級 一	兩眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ	標準賃金二百四十日分
二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・二以下ニ減ジタルモノ	
三	兩耳ノ聽力四十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ	
四	咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	
五	一手ノ五指ヲ失ヒタルモノ	
第七級 一	兩眼ノ視力〇・二以下ニ準ジタルモノ	標準賃金二百十日分
二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・四以下ニ減ジタルモノ	
三	脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ	
四	一手ノ拇指ヲ併セ三指以上ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ	
五	一手ノ五指ノ用ヲ廢シタルモノ	
六	十趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
第八級 一	兩眼ノ視力〇・四以下ニ減ジタルモノ	標準賃金百八十日分
二	一眼ヲ失明シ又ハ視力〇・〇一以下ニ減ジタルモノ	
三	胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルモノ	
四	神經系統ニ著シキ機能障害ヲ殘シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルモノ	
五	一上肢又ハ一下肢ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ	

六	一手ノ拇指ヲ併セ二指又ハ拇指以外ノ四指ヲ失ヒタルモノ	
七	一手ノ拇指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指ノ用ヲ廢シタルモノ	
八	一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ	
九	女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘スモノ	
十	兩側ノ睾丸ヲ失ヒタルモノ	
第九級		**標準賃金百五十日分**
一	兩眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ	
二	一眼ノ視力〇・〇四以下ニ減ジタルモノ	
三	兩眼ニ半盲症又ハ視野狹窄ヲ殘スモノ	
四	一耳ヲ聾シタルモノ	
五	一手ノ拇指又ハ他ノ三指ヲ失ヒタルモノ	
六	一手ノ拇指ヲ併セ二指又ハ拇指以外ノ四指ノ用ヲ廢シタルモノ	
七	一足ノ第一趾ヲ併セ三趾以上ヲ失ヒタルモノ	
八	一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
第十級		**標準賃金百二十日分**
一	一眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ	
二	兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ	
三	鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	
四	齒ヲ缺損シ義齒ヲ補綴スルコト能ハズ言語又ハ咀嚼ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	
五	一手ノ示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ	
六	一手ノ拇指又ハ他ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ	

七	一足ノ第一趾ヲ併セ二趾ヲ失ヒタルモノ	
八	一足ノ第一趾ヲ併セ三趾以上ノ用ヲ廢シタルモノ	
第十一級		**標準賃金九十日分**
一	一眼ノ視力〇・二以下ニ減ジタルモノ	
二	兩眼ノ眼球又ハ眼瞼ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ	
三	一耳ノ聽力四十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ	
四	脊柱ニ畸形ヲ殘スモノ	
五	一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ	
六	一手ノ示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ	
七	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ	
八	一足ノ第一趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
第十二級		**標準賃金六十日分**
一	一眼ノ視力〇・四以下ニ減ジタルモノ	
二	一眼ノ眼球又ハ眼瞼ニ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ	
三	一眼ノ眼瞼ヲ缺損シタルモノ	
四	一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ	
五	一上肢又ハ一下肢ノ關節ニ機能障害ヲ殘スト雖モ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ	
六	一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ	
七	一手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指示指以外ノ二指ノ用ヲ廢シタルモノ	
八	一足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ヲ失ヒ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ	
九	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ	

十	局部治癒シタルモ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ	
第十三級一	一眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ	標準賃金四十日分
二	一眼ニ半盲症ヲ殘シ又ハ視野狹窄又ハ變狀ヲ殘スモノ	
三	兩眼ニ睫毛禿ヲ殘スモノ	
四	胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘スト雖モ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ	
五	一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ	
六	一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ	
七	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ	
八	一足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
九	男子ノ外貌ニ著シキ醜痕ヲ殘スモノ	
第十四級一	上肢又ハ下肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ	標準賃金二十日分
二	一手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ	
三	一手ノ小指以外ノ指ノ骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ	
四	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
五	局部ノ疼痛其ノ他ノ神經症狀ヲ殘スモノ	

備考

一　視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依リ、屈折異常アルモノニ付テハ矯正視力ニ依ル

二　指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

三　指又ハ趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ屈伸不能ヲ來シタルモノヲ謂フ

四　趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

●死亡賜金給與遺族ニ關スル件

昭和八年七月十九日會第一一一九號
會計課長發米穀部長宛
（昭和八年八月十一日米部第二一三五號
米穀部長發各米穀事務所長宛）

標記ノ件ニ關シ大藏省主計局長ヨリ別紙寫ノ如ク通牒有之候ニ付御了知相成度此段及通牒候也

（別紙）

昭和八年七月六日藏計第五一一號
大藏省主計局長發本省會計課長宛

高等官官等俸給令及判任官俸給令ニ依ル死亡賜金給與遺族ニ關シ拓務大臣官房會計課長ヨリ別紙甲號ノ通リ照會アリタルニ付別紙乙號ノ通リ回答致置候條依命此段及通牒候也

（甲號）

昭和八年五月三十一日官會第九〇二號
拓務大臣官房會計課長發大藏省主計局長宛

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通リ朝鮮總督官房秘書課長ヨリ當省秘書課長宛照會有之候ニ付テハ至急何分ノ御指示相成度此段及照會候也

昭和八年五月二十六日秘補第三七五號
朝鮮總督官房秘書課長發拓務大臣官房秘書課長宛

高等官官等俸給令第二十三條及判任官俸給令第十三條ニ規定スル死亡賜金ノ給與ハ官吏ノ死亡當時同一戸籍內ニ在ル遺族ニシテ各同條第二項ノ順位ニ依ルヘキハ勿論ナルモ給與當時第一順位者カ其ノ戸籍ヲ去リタル場合ハ第二順位者ニ給與スヘキヤ將タ第一順位者カ其ノ戸籍ヲ去ルモ順位ニ變更ナキヤ疑義アルニ付大藏省ニ就キ取調至急御回報相煩シタシ

（乙號）

昭和八年七月六日藏計第五一一號
大藏省主計局長發拓務大臣官房會計課長宛

五月三十一日官會第九〇二號ヲ以テ死亡賜金給與遺族ノ順位ニ關スル件御照會ノ趣了承右ハ官吏死亡當時俸給令所定ノ第一順位ニ在リタル遺族ニ支給相成可然モノト被存候條經省議此段及回答候也

●死亡手當支給ニ關スル件

昭和二年十一月九日會乙第一八五八號
會計課長發農務局長宛

死亡手當支給ニ關シ別紙寫ノ通大藏省主計局長ヨリ通牒有之候條該當事項有之候ハヾ右ニ依リ取扱相成度此段及通知候也

（別紙）

昭和二年十一月二日藏計第六六六號
大藏省主計局長發本省會計課長宛

死亡手當支給ニ關シ別紙甲號ノ通リ遞信省經理局長ヨリ照會有之候ニ付別紙乙號ノ通リ回答致置候爲念此段及御通牒候也

（甲號）

昭和二年八月一日査第一八〇六號
遞信省經理局長發大藏省主計局長宛

當省芝罘電信局在勤通信書記（月俸七十圓）〇〇〇〇ハ病氣ノ爲許

可ヲ受ケ大連市ニ轉地シ同地滿鐵病院ニテ死亡セリ右ニ對シテハ別紙理由ニ依リ外國旅費規則ニ依ル死亡手當ヲ支給スヘキモノト認ムルモ貴局議一應承知致度候

理由

本轉地療養地ハ在勤地ニ非サルモ療養ノ實狀ヨリ見レハ在勤地ニ於テ療養スル場合ト異ナラサルニ付本死亡ハ在勤地ニ於テ死亡シタルモノト看做シ外國旅費規則第三十六條ニ依リ死亡手當ヲ支給スヘキモノト認ム

（乙號）

昭和二年十一月二日藏計第六六六號
大藏省主計局長發遞信省經理局長宛

八月一日附査第一八〇六號ヲ以テ芝罘在勤者ニシテ許可ヲ受ケ大連ニ轉地療養中死亡シタルモノノ死亡手當支給ニ關シ御照會ノ件右ハ外國旅費規則第三十六條ニ依リ死亡手當ヲ支給スヘキモノト被存候但其ノ額ニ付テハ一旦死體ヲ芝罘ニ移シ事態芝罘ニ於テ死亡シタルト同樣ナルトキハ同條ニ依リ在勤地ニ付定メラレタル額ヲ支給シ可然モ單身在勤者ナルカ又ハ家族家財ヲ大連ニ移轉シアリタル等大連在勤者カ大連ニ於テ死亡シタルト同樣ノ事情ナルトキハ死亡地タル大連ニ付南洋群島關東州南滿洲旅費規則第四十一條ニ依リ定メラレタル額迄減額支給スルヲ以テ足ルモノト被存候經省議此段及御回答候也

●准士官以下ノ受恩給者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル諸給與及納金計算方

明治三十三年六月二十二日
勅令第二百七十三號

（第四章俸給及諸給第一節俸給參照）

●勤勉手當給與令

大正九年十一月二十二日
勅令第五百四十五號

改正　昭和九年第三二五號（省略、第三九五號）

第一條　官吏、官吏ノ待遇ヲ受クル者、囑託員、雇員、傭人又ハ職工ニシテ左ニ掲クル現業ニ從事スルモノニハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得

一　衞生試驗所ニ於ケル現業
二　大藏省所管ノ營繕工事ノ現業
二ノ二　造幣局ニ於ケル現業
三　專賣局ニ於ケル現業
四　陸海軍ノ工事、製造、港務又ハ海軍採炭ノ現業
四ノ二　司法省所管監獄ニ於ケル現業

四ノ三　營林局署ニ於ケル現業
五　遞信省ニ於ケル工事ノ現業
六　貯金局、簡易保險局、遞信局及通信官署ニ於ケル現業
七　帝國鐵道及之ニ關聯スル國營自動車ノ現業
八　朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ於ケル工事ノ現業
九　朝鮮總督府鐵道局、朝鮮總督府專賣局、朝鮮總督府營林署及朝鮮總督府遞信官署ニ於ケル現業
九ノ二　朝鮮總督府監獄ニ於ケル現業
十　臺灣總督府交通局ニ於ケル鐵道及之ニ關聯スル國營自動車又ハ通信ノ現業
十一　臺灣總督府專賣局、臺灣總督府殖產局營林所及臺灣總督府殖產局度量衡所ニ於ケル現業
十二　臺灣總督府及其ノ所屬官署ニ於ケル工事ノ現業
十二ノ二　臺灣總督府監獄ニ於ケル現業
十三　關東遞信官署ニ於ケル現業
十四　樺太廳郵便局ニ於ケル現業
十五　樺太廳ニ於ケル鐵道ノ現業
十六　南洋廳ニ於ケル通信又ハ燐礦採掘ノ現業
十六ノ二　南洋廳ニ於ケル電燈ノ現業
十七　北海道廳ノ築港事務所及治水事務所ニ於ケル現業

第一條ノ二　官吏、官吏ノ待遇ヲ受クル者、囑託員、雇員又ハ傭人ニシテ左ニ掲クル事務ニ從事スルモノニハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得

一　稅關又ハ臨時海港檢疫所ニ於ケル海港檢疫又ハ獸類若ハ獸疫病毒汚染ノ疑アル物品ノ檢疫若ハ檢査事務及其ノ事務ヲ直接幫助スル事務
二　稅關、朝鮮總督府稅關又ハ臺灣總督府稅關ニ於ケル臨時開廳ノ場合又ハ日沒ヨリ日出迄ノ間若ハ休日ニ保稅倉庫ノ開扉若ハ貨物ノ積卸搬出入其ノ他ノ取扱ヲ爲ス場合ノ臨時事務
三　稅關又ハ臺灣總督府ニ於ケル植物ノ輸入、移入ニ關スル檢査事務及其ノ事務ヲ直接幫助スル事務
四　臺灣總督府ニ於ケル茶檢査事務及其ノ事務ヲ直接幫助スル事務

第二條　工場ニ服務スル技手ニシテ第一條ニ該當セサル者ヲシテ定時間外ニ服業セシメタル場合ニハ日額ニ依リ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得

第三條　前三條ノ規定ニ依リ給スル手當ノ額ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第四條　法律又ハ勅令ニ依ルニ非サレハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十二年勅令第四百四十八號
明治三十六年勅令第四十八號
明治三十七年勅令第百五十五號
明治三十七年勅令第百七十號
明治三十九年勅令第三百五號
明治四十年勅令第八號
明治四十年勅令第百六十四號
明治四十一年勅令第百六號
明治四十三年勅令第二百十一號
大正三年勅令第百十七號
大正七年勅令第三百十一號
大正七年勅令第四百號
大正九年勅令第二十五號

●宿直又ハ徹夜勤務者食料給與及特別用文具使用ノ件

明治二十四年三月三十日
勅令第二十七號

明治六年大藏省達第百六十一號及明治二十二年閣令第四號ハ本年三月三十一日限リ廢止ス但宿直又ハ徹夜勤務使役ノ者ニハ適宜食料現品又ハ代料ヲ給與シ又特別用ノ文具ハ官廳ニ備ヘテ使用セシムルコトヲ得

●判任以下宿直並徹夜勤務者ニ支給スヘキ食料ノ件

大正七年八月
本省達會第一〇五七號

改正　大正九年第一〇九九號

省中一般

明治二十四年四月辛第一一四號達判任以下宿直並徹夜勤務者ニ支給スヘキ食料左ノ通改正ス

一　判任官、雇員、巡視
　宿直一直ニ付、徹夜一夜ニ付　金三十五錢
一　給仕、小使其ノ他ノ傭人
　宿直一直ニ付、徹夜一夜ニ付　金三十錢以上

●恩給法

大正十二年四月十四日
法律第四十八號

改正　昭和八年第五〇號

第一章　總則

第一條　公務員及之ニ準スヘキ者並其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條　本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、傷病年金、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給、增加恩給、傷病年金及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス

第三條　年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條　恩給年額並一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第五條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條　普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七條　時效期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ妨碍ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ時效完成セス

時效期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月內ハ時效完成セス

時效期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時效期間內ニ權限アル官公署ニ到達セサルモ之ヲ時效期間內ニ到達シタルモノト看做ス

第八條　公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本法ニ依ル恩給ト宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於テ宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第九條　年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一　死亡シタルトキ
二　死刑又ハ無期若ハ二年ヲ超ユル懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ
三　國籍ヲ失ヒタルトキ

在職中ノ職務ニ關スル犯罪（過失犯ヲ除ク）ニ因リ禁錮以上ノ刑（陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依ル一年未滿ノ禁錮ノ刑ヲ含マス）ニ處セラレタルトキハ其ノ權利消滅ス但シ其ノ在職カ普通恩給ヲ受ケタル後ニ爲サレタルモノナルトキハ其ノ再在職ニ因リテ生シタル權利ノミ消滅ス

第九條ノ二　裁定官廳ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ニ付其ノ權利ノ存否ヲ調査スヘシ

第十條　恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ

受ケサリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

第十一條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外內閣恩給局長之ヲ裁定ス

第十三條　行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年內ニ內閣恩給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ內閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ公務傷病ノ程度ニ付テハ出訴ヲ爲スコトヲ得ス

第一項ノ具申ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　內閣總理大臣及內閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ覊束ス

第十五條　內閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審査會ニ諮問スヘシ

恩給審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　恩給ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル

一　文官及準文官竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル者ノ一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

二　軍人及準軍人竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

三　朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟之ヲ負擔ス

四　前號ニ規定スル者以外ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除クノ外一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

五　警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

六　待遇職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス但シ官國幣社ノ神職及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

第十七條　前條第一號、第二號若ハ第四號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年中ニ第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ハ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ニ恩給ヲ給スル者又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ國庫以外ノ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ第一號、第二號若ハ第四號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年ヲ通算シテ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄內ニ於テ在職シタル第三號ニ揭クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給ノ分擔及同條第三號、第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給相互ノ分擔ニ付之ヲ準用ス

第十八條　國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ府縣費ヨリ俸給ヲ給スル文官、神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員タル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ俸スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ其ノ經濟ニ納付スヘシ

前項ノ經濟ニ對シテハ國庫ハ前項ニ規定スル納金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

第二章　公務員

第一節　通則

第十九條　本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員竝第二十四條ニ揭クル待遇職員ヲ謂フ

本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者トハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ

第二十條　文官トハ武官又ハ宮內官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニシテ前項但書ノ規定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

第二十一條　軍人トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　陸軍又ハ海軍ノ現役、豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在ル者

二　國民兵役ニ在ル者ニシテ召集セラレタルモノ及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者

準軍人トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生
二　勅令ヲ以テ指定スル陸軍又ハ海軍ノ學生生徒

第二十二條　教育職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
一　公立ノ學校、幼稚園若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
二　道府縣立師範學校長

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタルモノヲ謂フ

準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校又ハ幼稚園ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二十三條　警察監獄職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
一　警部補、巡査、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛及衆議院守衛
二　看守、女監取締、陸軍監獄看守及海軍監獄看守
三　判任官ノ待遇ヲ受クル消防手

第二十四條　待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
一　判任官以上ノ待遇ヲ受クル神宮司廳職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職
二　判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄ノ職員（前條第二號ニ掲クル者ヲ除ク）、感化院職員及矯正院職員
三　地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

四　前三號ニ掲クル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第二十五條　本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ
一　文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職
二　現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト
三　教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命
四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス
五　待遇職員ニ在リテハ任命

第二十六條　本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ
一　文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職
二　現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職但シ下士官准士官以上ノ軍人ト爲リタルトキハ普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ノ計算ニ關シテハ之ヲ退職ト看做ス
三　教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職
四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス
五　待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條　第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

準軍人ノ就職トハ職務、戒嚴地境内ノ勤務又ハ外國ノ鎭戍ニ服スルコトヲ謂ヒ退職トハ其ノ勤務ヲ終ルコトヲ謂フ

第二十八條　公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給又ハ第八十二條ニ規定スル一時扶助料ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年其ノ他ノ前在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條　公務員二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十條　軍人又ハ警察監獄職員ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ准士官以上ノ軍人ニ付テハ十三年ニ達スル迄、下士官以下ノ軍人及警察監獄職員ニ付テハ十二年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ十分ノ七ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十一條　削除

第三十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス
一　戰地ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月
二　戰地外ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、戰務ノ範圍竝戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　公務員戒嚴地境内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條　公務員外國鎭戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

第三十六條　航空機乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

第三十七條　潛水艦乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潛水艦ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十八條　公務員其ノ職務ヲ以テ邊陬又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス

不健康ナル業務ニ引續キ一年以上服務シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條　海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三分ノ一月ヲ加算ス一年以上引續キ編隊艦船ニ乘シテ上陸制限ノ下ニ準戰訓練ニ服シタルトキ亦同シ

前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條　第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十條ノ二　休職、待命、歸休、停職其ノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要セサル在職期間ニシテ一月以上ニ亘ルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減ス

第四十一條　左ニ掲クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一　普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二　第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三　在職中二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數

四　公務員退職後在職中ノ職務ニ關スル犯罪（過失犯ヲ除ク）ニ付陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ犯罪ノ時ヲ含ム引續キタル在職年月數

五　公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

六　宮内職員トシテノ在職年月數ニシテ宮内官ノ恩給規程ニ依リ除算セラルヘキモノ

第四十二條　左ニ掲クル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス

一　宮内官ノ恩給規程ニ依リ宮内官恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ宮内職員トシテノ在職年月數

二　準軍人ノ在職年月數

三　高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

四　準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

第二十八條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ準軍人又ハ皇宮警手トシテノ在職年ハ夫々之ヲ軍人又ハ警察監獄職員トシテノ在職年ト看做ス

第四十三條　第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ在職年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十條ノ二及第四十一條ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月ニ付之ヲ準用ス

第四十四條　本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

本俸ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第四十五條　公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條　公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖裁定官廳ニ於テ恩給審査會ノ議ニ付スルヲ相當ト認メ且恩給審査會ニ於テ不具癈疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ議決シタル月ノ翌月ヨリ之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ之ヲ改定ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十六條ノ二　公務員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ノ程度ニ至ラサルモ勅令ノ定ムル程度ニ達シ失格原因ナクシテ之カ爲其ノ職ニ堪ヘスシテ一年内ニ退職シタルト

キ又ハ其ノ公務員カ下士官以下ノ軍人ニシテ退職後一年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病年金ヲ給ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ニ規定スル條件（傷病ノ程度ヲ除ク）ヲ具備スル者ニシテ退職當時ノ傷病ノ程度カ前項ノ勅令ニ定ムル程度ニ達セサリシモノノ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

前條第四項ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ給スヘキ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

傷病年金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

第四十七條　前二條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條　公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

一　勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ

二　戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ

三　公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰鬪ニ準スヘキ公務ノ範圍、公務傷病ニ因ル不具癈疾ノ程度及傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度竝教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條　裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癈疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

前二項ノ規定ハ傷病年金ノ裁定ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

第五十一條　公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ

二　在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第二號但書及第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五十二條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第五十四條　普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一　再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ

二　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ退職シタルトキ

三　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條　前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具癈疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一　後ノ傷痍又ハ疾病カ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ起因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス但シ後ノ傷痍又ハ疾病ノミニ因ル增加恩給年額カ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル增加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

二　後ノ傷痍又ハ疾病カ普通公務ニ起因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ニ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

第五十五條ノ二　前二條中增加恩給ノ改定ニ關スル規定ハ傷病年金ヲ受クル者再就職シ再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第五十六條　前三條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十七條　前四條ノ規定ハ宮内官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十八條　普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ

ハ其ノ間之ヲ停止ス

一　公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

三　之ヲ受クル者三十五歲ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歲以上四十歲ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ增加恩給又ハ傷病年金ト併給セラルル場合ニハ之ヲ停止セス

四　恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ年額五千圓ヲ超ユルトキハ恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ノ六千圓ヲ超ユル額ノ二割ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ

前項第四號ノ所得ノ範圍及計算方法竝停止方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項第二號ノ規定ハ增加恩給及傷病年金ニ付之ヲ準用ス

第五十九條　文官ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

下士官以上ノ軍人ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

教育職員ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟ニ對シ其ノ俸給（又ハ給料）ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

警察監獄職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ毎月其ノ俸給（又ハ給料）ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ毎月其ノ俸給（又ハ給料）ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二節　恩給金額

第五十九條ノ二　本節ニ於テ退職前ノ俸給年額ト稱スルハ退職前一年內ノ俸給（軍人及準軍人ニ在リテハ各階等ニ付定メラレタル別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ其ノ階等ニ對スル俸給額トス）ノ總額ヲ謂フ但シ左ノ特例ニ從フ

一　公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲退職シ又ハ死亡シタル者ニ付退職又ハ死亡ノ際昇給アリタルトキハ其ノ爲サレタル昇給ノ中級俸ノ定アルモノ（軍人及準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ級俸トス）ニ付テハ一級、其ノ定ナキモノニ付テハ昇給前ノ俸給ノ百分ノ十五ヲ限度トシ退職一年前ヨリ昇給セラレタルモノトシテ計算ス

二　前號ニ規定スル場合以外ノ場合ニ於テ退職前一年內ニ昇給アリタルトキハ其ノ昇給カ前俸給二年以上据置ノ後爲サレタルモノナルトキニ限リ前號ノ規定ヲ準用ス

轉官職ニ依ル俸給ノ增額ハ之ヲ昇給ト看做シ前項但書ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル退職前一年內ノ俸給ノ算出方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

實在職期間一年未滿ナルトキハ其ノ俸給額ヲ月數ノ割合ニ依リ一年分ニ換算ス

本節ニ於テ退職前ノ俸給月額ト稱スルハ退職前ノ俸給年額ノ十二分ノ一ニ相當スル金額ヲ謂フ

第六十條　文官在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年七年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號、第五十五條ノ二又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十一條　准士官以上ノ軍人在職年十三年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第一號ノ準軍人職年十三年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年以上十四年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十四年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前條第三項ノ規定ハ准士官以上ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

在職年五十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年五十年

トシテ計算ス

陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ二年以上實在職シ最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス

第四十六條、第四十七條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十三年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

準軍人ノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條ノ二　下士官以下ノ軍人在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第二號ノ準軍人在職年十二年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十三年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ下士官ニ在リテハ七圓、兵ニ在リテハ六圓ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項並前條第五項、第七項及第八項ノ規定ハ下士官以下ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

第六十二條　教育職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校又ハ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第二項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十三條　警察監獄職員在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十二年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年十二年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十二年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十二年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條　待遇職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項及第四項並第六十二條第六項ノ規定ハ待遇職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條ノ二　一時恩給ヲ受ケタル後其ノ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年數一年ヲ二月ニ換算シタル月數內ニ召集其ノ他ノ强制ニ依ラスシテ再就職シタル者ニ普通恩給ヲ給スル場合ニ於テハ當該換算月數ト退職ノ翌月ヨリ再就職ノ月迄ノ月數トノ差月數ヲ一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ニ乘シタル金額ノ十五分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス但シ差月數一月ニ付一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ勅令ノ定ムル時期ニ於テ返還シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條　公務員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癈疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ增加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十五條ノ二　公務員ノ傷病年金ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及傷病ノ程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ傷病年金ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十六條　下士官以下ノ軍人公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ傷病年金ヲ給セラルルノ程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後一年內ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等並傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條　文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條　准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿ニシテ又

ハ下士官在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但シ下士官以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸職月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十九條　削除

第七十條　警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條　削除

第三章　遺族

第七十二條　本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戸籍內ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戸籍內ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一　在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ

二　普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス

第七十四條　未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條　扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一　公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ全額

二　公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額

三　其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

前項第一號又ハ第二號ニ規定スル場合及增加恩給ヲ併給セラルル者ノ死亡シタル場合ニハ其ノ死亡ノ月ノ翌月ヨリ五年間ハ前項ノ規定ニ依ル扶助料ノ年額ニ各其ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ加給ス

第七十六條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三　父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條　扶助料ヲ受クル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七十八條　扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條　前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條　遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一　其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ

三　不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

屆出ヲ爲ササルモ事實上婚姻關係ト同樣ノ事情ニ入リタリト認メラルル遺族ニ付テハ裁定官廳ハ恩給審査會ニ諮問ノ上其ノ者ノ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ハシムルコトヲ得

裁定官廳ハ前項ニ規定スル事情ヲ調査スル爲必要アルトキハ他ノ官廳又ハ公署ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養

スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條　文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿、准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿、下士官タル軍人又ハ警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第五十九條ノ二第五項ノ規定ハ死亡前ノ俸給月額ニ付之ヲ準用ス

第七十三條中遺族ノ順位ニ關スル規定及第七十四條ノ規定ハ第一項ノ扶助料ヲ給スル場合ニ付之ヲ準用ス

附則

第八十三條　本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條　左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

一官吏遺族扶助法
一軍人恩給法
一市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法
一府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法
一明治二十四年法律第四號
一明治二十九年法律第十三號
一官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則
一明治二十九年法律第七十八號
一明治三十三年法律第七十五號
一明治三十三年法律第七十六號
一明治三十三年法律第七十七號
一巡査看守退隱料及遺族扶助料法
一明治三十五年法律第二十九號
一在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法
一明治四十年法律第四十八號
一明治四十年法律第四十九號
一明治四十一年法律第三十五號
一明治四十三年法律第三十號
一明治四十四年法律第六十一號
一明治四十四年法律第六十七號
一明治四十五年法律第十一號
一明治四十五年法律第十二號
一大正七年法律第三十號
一大正十年法律第三十五號
一大正十年法律第九十四號
一大正十一年法律第十八號
一大正十一年法律第十九號
一明治二十二年勅令第百三十三號
一明治二十三年勅令第九十八號

一明治二十五年勅令第十八號
一明治二十五年勅令第三十二號
一明治三十二年勅令第百九十六號
一明治三十八年勅令第二百二十九號
一明治四十年勅令第百八十八號
一明治四十年勅令第百八十九號
一明治四十一年勅令第七十一號
一明治四十五年勅令第七十號
一大正七年勅令第六十二號
一大正十年勅令第二百六十八號
一大正十一年勅令第八十七號
一大正十一年勅令第二百八十四號
一明治九年第九十九號達陸軍恩給令
一明治十五年第四十一號達巡査看守給助例
一明治十六年第三十八號達海軍恩給令
一明治十七年第一號達官吏恩給令

第八十五條　本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類竝給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本法ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル恩給中最近キ性質ヲ有スルモノニ依ル

第八十六條　第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第八十七條　第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第八十八條　從前ノ規定ニ依リ內閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具申、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依ル內閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依ル具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル具申ノ裁決ト看做ス

本法施行ノ際現ニ具申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第八十九條　府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得

前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依

ル納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス

府縣ニ於テ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

恩給基金ノ管理ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條　本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條　內地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州（關東廳及其ノ所屬官署職員ニ付テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ一年、警察監獄職員ニ在リテハ三年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ四年トス

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域內ニ勤務シタルトキハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十三條　海軍警吏補ヨリ海軍巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋廳巡査ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條　朝鮮總督府巡査補ヨリ朝鮮總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡査補及朝鮮總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條　臺灣總督府巡査補ヨリ臺灣總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條　大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タル恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條　第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

條九十八條　第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷痍ヲ受ケ前ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具廢疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條　削除

第百條　本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ本法施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ

大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ增額ヲ受ケサリシ軍人ノ遺族本法施行後扶助料ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求ヲ竢タスシテ同法附則ノ規定ニ依リ增額セラレタルモノト看做ス

第百一條　本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ增給ス

第百二條　明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衞若ハ衆議院守衞又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ增額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員若ハ巡査又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ付之ヲ準用ス

第百三條　北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ヲ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百四條　第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則（昭和八年法律第五十號）

第一條　本法ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十六條ノ二、第五十八條第一項第四號及第五十九條ノ改正規定ハ昭和九年四年一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　本法施行前給與事由ノ生ジタル恩給ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ第五十八條第一項第四號ノ改正規定ハ本法施行前給與事由ノ生ジタル恩給ニ付テモ之ヲ適用ス

第三條　第十三條第二項但書ノ改正規定ハ本法施行前ヨリ行政裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條　第十八條第一項ノ改正規定ニ依ル納付金額ハ同項ニ規定スル公務員ニ付テ附則第九條ノ規定ノ必要ナキニ至ル迄ハ第十八條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ同項ニ規定スル公務員ガ第五十九條（改正前又ハ改正後）及附則第九條ノ規定ニ依リ納付スル金額ノ合計額ト同額トス

第五條　本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ加算年又ハ休職等ノ減算ニ關スル改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

第六條　第四十條ノ二ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ進行中ニ屬スル休職、待命、歸休、停職其ノ他同條ニ規定スル在職期間ニ付テハ其ノ期間ノ終了ニ至ル迄本法施行後ト雖モ同條ノ規定ヲ適用セズ

第七條　傷病年金ハ本法施行後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ニ之ヲ給ス但シ本法施行前賑恤金（之ニ準ズルモノヲ含ム）又ハ傷病賜金ヲ受クベキ事由ヲ生ジタル者ニハ本法施行前其ノ事由ヲ生ジタルトキト雖モ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第八條　第五十八條第一項第三號ノ改正規定ハ本法施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者及本法施行ノ際現ニ在職シ本法施行後退職シテ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ズル者ニハ之ヲ適用セズ

前項ニ規定スル者本法施行後再就職シ其ノ普通恩給ヲ改定セラルル場合ニハ其ノ改定ニ因ル增額分ニ付第五十八條第一項第三號ノ改正規定ヲ適用ス

第九條　第五十九條ノ改正規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後就職シ又ハ俸給（又ハ給料）ガ昇給若ハ增額セラレタル月ノ翌月ヨリ之ヲ適用ス

第十條　第五十九條ノ二第一項但書ノ場合ニ於テ其ノ公務員ガ同一種類ノ公務員トシテ實在職年二十年以上勤續シタル者ニシテ特殊ノ事情アルモノニ付テハ當分ノ內同但書各號ニ於ケル制限ノ一級ヲ二級、百分ノ十五ヲ百分ノ三十トス

第十一條　本法施行ノ際從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達シタル者ニハ其ノ者ガ本法施行後改正規定ニ依ル最短恩給年限ニ達セズシテ退職シタル場合ト雖モ退職前ノ俸給ニ依リ之ニ普通恩給ヲ給ス但シ其ノ年額ハ在職年ノ不足一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

第十二條　前條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ休職、再服役其ノ他法令上ノ在職期限ノ定アル地位ニ在ル者ニシテ本法施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達スルモノニ付之ヲ準用ス

第十三條　第六十四條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前受ケタル一時恩給ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十四條　第七十五條第二項ノ改正規定ハ公務員ガ本法施行前死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本法施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

第十五條　恩給法施行前同法第二十三條ニ揭グル公務員トシテ普通恩給（退隱料）ヲ受ケ引續キ文官ニ任ジ同法施行後迄在職シタル後本法施行前退職シ同法第八十五條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ其ノ普通恩給（退隱料）ヲ文官ノ普通恩給ニ改定セラレザリシ者ニ付テハ同項ノ規定ニ拘ラズ特ニ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法施行前ノ規定ニ依リ其ノ普通恩給（退隱料）ヲ文官ノ普通恩給ニ改定ス但シ恩給法施行後文官退職ニ因リ一時恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ改定ニ因リ增額セラルル普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス

前項ノ規定ハ恩給法施行後本法施行前ニ文官トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第一項ニ規定スル者引續キ本法施行後迄在職スルトキハ恩給法第八十五條第一項ノ規定ニ拘ラズ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ同法第二十三條ニ揭グル公務員トシテノ普通恩給（退隱料）ヲ文官トシテノ普通恩給ニ改定ス

第十六條　第九十一條第二項ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ在職シ從前ノ同項ニ規定スル期間ヲ經過シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十七條　本法施行ノ際現ニ在職シ恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ恩給ノ停止ニ付テハ其ノ者ガ引續キ其ノ官職ニ在職スル期間ニ限リ仍同法第九十九條第一項ノ規定ニ依ル

第十八條　本法施行前恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザリシ者又ハ前條ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ當該在職期間ト他ノ公務員ノ在職年トノ通算ハ仍從前ノ例ニ依ル

第十九條　前條ニ規定スル者ヲ除クノ外恩給法第九十九條第一項ニ規定シタル者ノ大正十二年十月一日以後ノ在職年ハ同日以後ノ他ノ公務員ノ在職年ト互ニ通算ス但シ本法施行前ニ給與事由ノ生ジタル場合ニ於テハ其ノ者ガ再就職シ本法施行後退職又ハ死亡シタル場合ニ限リ此ノ規定ニ依ル

前項ニ規定スル者ノ大正十二年九月三十日以前ノ在職年ノ同日以前ノ他ノ公務員ノ在職年トノ通算ニ付テハ同日以前ノ舊法ノ例ニ依ル

第一項ニ規定スル者ノ大正十二年十月一日前後ノ在職年ノ通算ニ關シテハ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用ス

（別表）

第一號表

（甲）

階等	將官及相當官		佐尉官及相當官					
	親任	高等官一等	同上二等	同上三等	同上四等	同上五等	同上六等	同上七等	同上八等
假定俸給年額	七、五〇〇円	六、五〇〇円	五、六〇〇円	四、六〇〇円	三、九五〇円	三、二五〇円	二、三五〇円	一、七〇〇円	一、四〇〇円

（乙）

階等																		
	准士官		下士官															
	判任官一等	同二等	上同三等	上同四等	上	海軍	陸軍上等兵	海軍二等兵	陸軍一等兵	海軍三等兵	陸軍二等兵	海軍四等兵						
假定俸給年額	一、二〇〇円	八五五円	七六五円	六七五円	六〇〇円	五四〇円	四九五円	四五〇円										

第二號表

階等	親任		奏任						判任									
傷病原因／症狀等差	勅任待遇		三等乃至五等			六等乃至九等			一等		二等		三等		四等			
甲 戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務	特別項	第一項	第二項	第三項	將官	奏任待遇	佐官	尉官	判任待遇	准士官	下士官	兵卒						
	二、四〇〇円	二、〇〇〇	一、六〇〇	一、二〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	一、〇八〇	九〇〇	七二〇	九九〇	八二五	六六〇	九〇〇	七五〇	六〇〇	

號	乙																	
公務	普通公務																	
	特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項											
	一、二八〇	一、〇〇〇	八〇〇	九六〇	七五〇	六〇〇	一、九二〇	一、六〇〇	一、二八〇	一、〇二四	八〇〇	六四〇	一、四四〇	一、二〇〇	九六〇	七六八	六〇〇	四八〇
	六四〇	五〇〇	四〇〇	五七六	四五〇	三六〇	九六〇	八〇〇	六四〇	五一二	四〇〇	三二〇	八六四	七二〇	五七六	四六一	三六〇	二八八
	五二八	四一三	三三〇	四八〇	三七五	三〇〇	七九二	六六〇	五二八	四二三	三三〇	二六四	七二〇	六〇〇	四八〇	三八四	三〇〇	二四〇

備考　特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ヲ加ヘタルモノトス

第三號表

階等	判任																	
傷病原因／症狀等差	一等		二等		三等		四等											
甲 戰鬪又ハ戰鬪ニ	第一款	第二款																
	准士官	下士官	兵															
	三一二円	二四〇	二八六円	二二〇	二六〇円	二〇〇												

號		傷病原因	症狀等差	下士官	兵
準スヘキ公務	第三款		第一目	一九二	一六〇
	第四款			一五六	一三〇
乙號 普通公務	第一款			二五二円	二一〇円
	第二款			一九二	一六〇
	第三款			一五六	一三〇
	第四款			一三二	一一〇

高等官及同待遇者ニ給スヘキ金額ハ判任一等ノ者ニ給スヘキ金額ニ其ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

第四號表

傷病原因	症狀等差	下士官	兵
甲號 戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務	第一目	九九〇円	九〇〇円
	第二目	八二五	七五〇
	第三目	六六〇	六〇〇
	第四目	四九五	四五〇
	第五目	三三〇	三〇〇
	第六目	一六五	一五〇
乙號 普通公務	第一目	七九二円	七二〇円
	第二目	六六〇	六〇〇
	第三目	五二八	四八〇
	第四目	三九六	三六〇
	第五目	二六四	二四〇
	第六目	一三二	一二〇

恩給法施行令

改正　昭和九年第三九五號近省略、一〇年第二四號

大正十二年八月十七日
勅令第三百六十七號

第一條　恩給法第九條ノ二ノ規定ニ依ル恩給受給權存否ノ調査ハ受給者ノ身分關係ノ變動ノ有無ニ付之ヲ行フ

遺族タル夫又ハ成年ノ子カ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ條件トシテ扶助料ヲ給セラルルトキハ其ノ者ニ付テハ前項ニ規定スル事項ノ外特ニ右事情ノ繼續ノ有無ヲ調査ス

第一條ノ二　受給者ハ左ノ區別ニ從ヒ調査上必要ナル書類ヲ裁定官廳ニ提出スヘシ

一　前條第一項ノ事實ヲ證スル爲ニハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者及妻ニ在リテハ戸籍抄本、妻以外ノ扶助料權者ニ在リテハ戸籍謄本

二　前條第二項ノ事實ヲ證スル爲ニハ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ證スル居住地ノ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書

前項ノ書類ハ事實カ裁定官廳ニ顯著ナル場合又ハ他ノ相當官公署ノ證明アル場合ニ於テ裁定官廳カ明カニ之ヲ承認シタルトキハ其ノ承認ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一條ノ三ニ規定スル書類ヲ提出スヘキ月カ恩給ノ裁定ヲ受ケタル月（證書ノ日附ニ在ル月）ノ翌月ヨリ十二月內ニ在ルトキハ其ノ書類ヲ提出スルコトヲ要セス

第一條ノ三　各受給者ハ前條ノ書類ヲ左ノ區別ニ從ヒ隔年提出スヘシ

一　公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテ恩給ヲ受クル者ハ一月

二　遺族トシテ恩給ヲ受クル者ハ七月

陸軍ノ軍人、之ニ準スヘキ者及警察監獄職員竝其ノ遺族ハ昭和ノ偶數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出シ他ノ公務員及之ニ準スヘキ者竝其ノ遺族ハ其ノ奇數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出スヘシ

第一條ノ四　第一條ノ二ニ規定スル書類ヲ提出セサル受給者ニ對シテハ之ヲ提出スヘキ月ヨリ一期隔リタル後ノ支給期以後ノ支給ヲ一時差止ムヘシ

第一條ノ五　恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル

同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其ノ相續人ハ恩給權者死亡ノ當時之ト同一戸籍內ニ在リタルコトヲ要ス

第二條　恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第三條　恩給法第十二條ノ規定ニ依リ內閣恩給局長以外ノ者ニ於テ恩給ヲ受クルノ權利ヲ裁定スヘキ場合ハ左ノ區分ニ依ル

一　內地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リ

テハ府縣知事之ヲ裁定ス

二　前號ニ掲クルモノヲ除クノ外內地ニ於ケル公立ノ學校又ハ圖書館ノ敎育職員ニシテ文官ニ非サルモノノ一時恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

三　朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル公立ノ小學校、普通學校、公學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ敎育職員及準敎育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ裁定ス

四　朝鮮、臺灣、樺太、關東州（南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム以下同シ）又ハ南洋群島ニ於ケル警察監獄職員（陸海軍ニ屬スルモノ及樺太ニ於ケル刑務所ニ屬スルモノヲ除ク）及其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督（道ノ警部補、巡査及消防手竝其ノ遺族ノ恩給ハ道知事）、臺灣ニ在リテハ臺灣總督（州又ハ廳ノ警部補及巡査竝其ノ遺族ノ恩給ハ州知事又ハ廳長）、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ裁定ス

五　內地ニ於テ國庫以外ノ者ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事（警視廳部內ノ職員ニ在リテハ警視總監）之ヲ裁定ス

六　恩給法第二十四條第三號ニ掲クル待遇職員（國庫ヨリ俸給ヲ給スルモノヲ除ク）及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事（警視廳部內ノ職員ニ在リテハ警視總監）之ヲ裁定ス

事又ハ廳長、關東州ニ在リテハ大使之ヲ裁定ス

第四條　恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給、扶助料、一時恩給及一時扶助料トシ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者ヲ異ニスヘキ二種以上ノ公務員ノ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ退職又ハ死亡前一年內ノ俸給年額ニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム但シ退職又ハ死亡ヲ以テ終ラサル在職ニ付テハ右ノ退職又ハ死亡前一年內ノ俸給年額ニ代ヘ在職最終ノ俸給年額（軍人及準軍人ニ付テハ恩給法別表第一號表ノ金額）ニ依ル

前項ニ規定スル退職又ハ死亡前一年內ノ俸給年額ハ恩給法第五十九條ノ二ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算出ス

恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受クヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年月數ハ分擔請求額計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ歸スヘキ在職年ト看做ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年月數ニ加算ス

一　恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付一年

二　恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十一條ノ二第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤續ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第三項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ當該勤續在職年ノ一年ニ付

六月

前四項ノ規定ハ恩給法第十七條第二項乃至第四項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第五條　恩給ノ分擔ハ支給義務額ニ依リ之ヲ爲スモノトス

第六條　左ニ掲クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

一　地方官官制第二條ニ規定スル府縣判任官

二　都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ

三　神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

四　朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第七條　恩給法第二十一條第二項第二號ノ陸軍又ハ海軍ノ學生生徒トハ陸軍士官學校、陸軍幼年學校、陸軍戶山學校、陸軍工科學校、海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ノ生徒、陸軍ノ士官候補生、海軍航空豫備學生、海軍豫備生徒竝海軍豫備練習生ニシテ軍人ニ非サルモノヲ謂フ

第八條　恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ハ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス但シ關東州ニ在リテハ大使之ヲ指定ス

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ大使之ヲ定ム

第九條　恩給法第二十二條第三項ノ準敎育職員トハ敎授心得、助敎授心得、敎諭心得、助敎諭心得、准訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケサル保姆ニシテ專任敎員タルモノヲ謂フ

第十條　恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　道路管理職員制ニ依ル職員

二　地方土木職員制ニ依ル職員

三　地方產業職員制ニ依ル職員（市費ヲ於テ置キタルモノヲ除ク）

四　地方測候所職員制ニ依ル職員

五　地方學校衞生職員制ニ依ル職員

六　地方社會敎育職員制ニ依ル職員

七　地方社會事業職員制ニ依ル職員

八　地方建築職員制ニ依ル職員

八ノ二　地方警察職員制ニ依ル職員

八ノ三　地方體育運動職員制ニ依ル職員

八ノ四　地方學校營繕職員制ニ依ル職員

九　防疫職員制ニ依ル職員

十　稅關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員

十一　臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員

十二　廳府縣衞生職員制ニ依ル職員

十三　癩療養所職員制ニ依ル職員

十四　家畜防疫職員制ニ依ル職員

十五　朝鮮地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、產業、衞生、社會事業又ハ測候ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員（府費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク）

十六　臺灣地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、建築、衞生、產業、物產檢査、社會事業又ハ社會敎育ノ事務又ハ技術ニ從事スル職員（市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク）

十七　關東州地方待遇職員令ニ依ル地方ノ產業、土木、衞生、敎育又ハ行政ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員

第十一條　恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　內閣印刷局醫及內閣印刷局藥劑師

二　造幣醫、專賣醫及專賣藥劑師

三　陸軍ノ通譯ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

四　靖國神社附屬遊就館職員ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

五　鐵道醫

六　朝鮮ニ於ケル監獄ノ藥劑師、鐵道醫及鐵道藥劑師竝臺灣ニ於ケル警察醫

七　臺灣又ハ關東州ニ於ケル檢疫員及檢疫醫員

第十二條　恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一　戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス

二　戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到著シタル月迄加算ス

前項ノ地域トハ內地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ

恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一　動員(之ニ準スルモノヲ含ム)部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、動員(之ニ準スルモノヲ含ム)下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス

二　戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル加算ニ付之ヲ準用ス

第十三條　恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鎭戍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外公務員鎭戍ノ爲內國ヲ出發シタルトキハ內國ヲ離レタル月ヨリ加算シ鎭戍ノ終了後直ニ內國ニ歸還シタルトキハ內國歸著ノ月迄加算ス

第十四條　恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル

一　同月內ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキ又ハ航空機ニ搭乘シ特ニ危險ト認ムル航空試驗ニ從事シタルトキハ其ノ一月ニ付一月半

二　同月內ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乘シ又ハ五時間以上航空船、航行中ノ艦船繫留ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付一月

三　前二號ニ揭クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月

第十五條　恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊陬又ハ不健康ノ地域及其ノ加算ノ程度ハ別表第二號表ニ依ル

第十六條　邊陬又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨリ其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到著シタル月ヨリ、其ノ地ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メタル月ヲ以テ終ル

前項ノ地域ニ在勤中引續キ九十日以上其ノ地域ヲ離レタルトキハ全ク地域ヲ離レタル月ニ對シテハ邊陬又ハ不健康ノ地域ノ加算ヲ爲サス

第十七條　恩給法第三十八條ノ規定ニ依ル不健康業務ノ加算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ

一　有毒ノ瓦斯若ハ蒸氣、爆藥類又ハ危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接ニ從事スル勤務ニシテ內閣總理大臣ノ指定スルモノ

二　排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艦、水雷艇若ハ掃海艇乘員トシテノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸汽機關車乘員トシテノ現業勤務

三　炭坑內切羽ニ於ケル連續的現業勤務

四　肺結核、喉頭結核又ハ癩ノ患者ヲ收容スル病室ニ於テ直接看護ニ從事スル勤務

前項ニ規定スル業務ニ從事中引續キ三十日以上服務セサルトキハ全ク服務セサル月ニ對シテ不健康ノ業務ノ加算ヲ爲サス

第十八條　恩給法第三十九條ノ遠洋航海トハ北緯五十度以北、東經百六十度以東、東經百六十度北緯四十度ノ點ト東經百四十度北緯二十度ノ點トヲ連結スル線ノ以東以南、北緯二十度以南及東經百十度以西ノ海面ヲ航行シ一航程千浬ヲ超ユル航海ヲ謂フ

第十九條　航海加算ハ初發港出發ヨリ之ニ歸著シ又ハ到達港ニ達スル迄ノ期間ニ對シ之ヲ爲ス但シ出發ニ當リ內國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ヲ離レタル月ヨリ加算シ歸著ニ際シ內國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ニ到著シタル月迄加算ス

航海中引續キ三十日以上航行セサルトキハ全ク航行セサル月ニ對シテハ航海加算ヲ爲サス

第十九條ノ二　恩給法第四十條ノ二ニ規定スル期間一月以上ニ亙ルトキハ其ノ期間カ在職年ノ計算ニ於テ一月以上ニ計算セラルル總テノ場合ヲ謂フ但シ現實ニ職務ヲ執ルヲ要スル日ノアリタル月ハ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減セス

第二十條　恩給法第四十四條ノ本俸ニ準スヘキモノトハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　年功ニ因ル加俸

二　府縣知事ノ指定地加俸

三　官立又ハ公立ノ大學ノ教授又ハ助教授ノ職務俸

四　第一號ニ揭クルモノヲ除クノ外市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸

五　警察監獄職員ノ精勤加俸及功勞加俸

第二十一條　恩給法第四十八條第一項第一號ニ規定スル流行病及地域ハ別表第三號表ニ依ル

第二十二條　恩給法第四十八條第一項第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ

一　マラリア(黑水熱ヲ含ム)

二　猩紅熱

二ノ二　痘瘡

三　コレラ

四　腳氣(戰地ニ限ル)

五　發疹チフス

六　腸チフス
七　パラチフス
八　ペスト
九　回歸熱
十　赤痢
十一　流行性腦脊髓膜炎
十二　流行性感冒
十三　肺ヂストマ病
十四　トリパノゾーム病
十五　ワイルス氏病
十六　カラアザール
十七　黄熱

第二十三條　恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依ル戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病トハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一　戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

二　暴徒鎭壓又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊蕃人等討伐中ノ敵對行動ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

三　外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域内ニ於テ勤務中又ハ該地域内ヲ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戰又ハ擾亂ニ因ル傷痍疾病

四　航空機ニ乘シ航空勤務中又ハ潛水艦ニ乘シ潛航勤務中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

五　職務ヲ以テ兇賊又ハ脫獄囚ヲ逮捕スルニ當リ危害ヲ加ヘラルヘキコトヲ豫斷シ得ルニ拘ラス危險ヲ冒シテ其ノ職務ヲ執行シタル爲加ヘラレタル傷痍疾病

六　職務ヲ以テコレラ又ハペストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲罹リタル該疾病

七　急流其ノ他生命ノ危險ヲ感スヘキ事情ノ下ニ於ケル潛水勤務ニ因ル傷痍疾病

第二十四條　恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ不具癈疾ノ程度ヲ分チテ左ノ七項トス

特別項症

一　常ニ就床ヲ要シ且複雜ナル介護ヲ要スルモノ

二　重大ナル精神障碍ノ爲常ニ監視又ハ複雜ナル介護ヲ要スルモノ

三　身體諸部ノ障碍ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

一　複雜ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ

二　精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キサルモノ

三　咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ癈シタルモノ

四　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

五　肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

六　膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ

二　咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ癈シタルモノ

三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　兩耳全ク聾シタルモノ

五　腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

六　足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

一　咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二　兩睾丸ヲ全ク失ヒタルモノ

三　肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ

四　膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

五　兩耳ノ聽力カ耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

第四項症

一　泌尿器ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ

四　足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項症

一　鼻ヲ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二　頭部、顏面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ

三　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　一側總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第六項症

一　頸部又ハ軀幹ノ運動ニ大ニ妨アルモノ

二　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　一側拇指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ

四　一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷痍疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス

視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル

第二十四條ノ二　恩給法第四十九條第二項ニ規定スル傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ四款トス

第一款症

一　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

二　一耳聾シタルモノ

三　一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノ

四　一側睾丸ヲ全ク失ヒタルモノ

第二款症

一　一耳ノ聽力カ耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

二　一側拇指ノ機能ヲ癈シタルモノ

第三款症

一　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ三メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

二　一耳ノ聽力カ十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解

シ得サルモノ

三　一側示指ヲ全ク失ヒタルモノ

四　一側第一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四款症

一　一側中指ヲ全ク失ヒタルモノ

二　一側示指ノ機能ヲ廢シタルモノ

三　一側第二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

四　一側第一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付之ヲ準用ス

第二十四條ノ三　恩給法第五十八條第一項第四號ニ規定スル恩給外ノ所得ハ恩給受給者カ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スル場合ノ所得ニ限ル但シ左ニ掲クル所得ハ右地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セサルトキト雖之ヲ所得中ニ算入ス

一　恩給受給者カ右地域内ニ有スル資産又ハ營業ヨリ生スル所得

二　右地域内ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ恩給受給者ノ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ俸給、賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與

恩給受給者カ前項ノ地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スルトキハ右地域外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ト雖之ヲ恩給外ノ所得中ヨリ除外セス

第二十四條ノ四　前條第一項第二號ニ掲クルモノ以外ノ恩給外ノ所得ハ所得稅法ニ規定スル個人ノ第三種所得ト同範圍トス

所得稅法第十八條第一號乃至第五號ニ掲クル所得ハ之ヲ恩給外ノ所得中ヨリ除外ス

第二十四條ノ五　恩給外ノ所得ノ計算ニ關シテハ所得稅法第十四條第一項及第二項竝所得稅法施行規則第七條及第八條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條ノ六　恩給外ノ所得ハ毎年稅務署長ノ調査ニ依リ裁定官廳之ヲ決定ス

裁定官廳ハ恩給外ノ所得ノ調査ヲ要スル恩給受給者ノ氏名、住所又ハ居所及恩給年額ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

稅務署長恩給外ノ所得ノ調査ヲ結了シタルトキハ之ヲ裁定官廳ニ報告スヘシ

前三項中稅務署長トアルハ臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ在リテハ各其ノ地域ニ於ケル稅務官署トス

第二十四條ノ七　恩給法第五十八條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ハ恩給外ノ所得ノ決定ニ基キ其ノ年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル期間分ノ恩給ニ付テ之ヲ爲ス但シ其ノ前年以前ノ分ノ恩給ニ付停止ヲ爲スヘキ場合ニ於テ恩給ノ請求又ハ裁定ノ遲延ニ依リ一般ノ手續ニ依リテ恩給外ノ所得ヲ調査決定スルコトヲ得サルトキハ前條ニ規定スル調査決定ノ機關ハ其ノ分ニ付テハ一般ノ場合ニ準シ臨時ニ恩給外ノ所得ヲ調査決定ス此ノ場合ニ於テハ其ノ停止額ハ後ノ恩給支給額中ヨリモ之ヲ控除スルコトヲ得

恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル年分ノ恩給ニ付テハ恩給法第五十八條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ノ手續ヲ行ハス

恩給外ノ所得額ノ追加又ハ更訂アリタルトキハ恩給ノ停止額モ之ヲ更正ス

恩給給與ノ止ムヘキ事由生シタル場合ニ於テハ恩給ノ停止ハ其ノ事由ノ生シタル月分迄ノ恩給ニ付之ヲ爲ス

第二十四條ノ八　年額千圓以上ノ恩給ヲ受クル者ニシテ關東州若ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有シ又ハ同地域ニ住所若ハ一年以上ノ居所ヲ有セサルモ同地域内ニ有スル資産若ハ營業ヨリ生スル所得ヲ得ルモノハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ裁定官廳カ内閣恩給局長ナルトキハ夫々關東局又ハ南洋廳ヲ經由シテ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ裁定官廳カ地方長官ナル場合ニ於テ恩給受給者カ裁定官廳ノ管轄内ニ住所又ハ居所ヲ有スルトキハ直接ニ裁定官廳ニ、然ラサルトキハ住所若ハ居所又ハ資産若ハ營業ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シテ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ

年額千圓以上ノ恩給ヲ受クル者ニシテ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セスシテ第二十四條ノ三第一項但書第二號ニ規定スル所得ヲ得ルモノハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ直接ニ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ

第二十四條ノ九　恩給法第五十九條ノ二ニ規定スル退職前一年内ノ俸給ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ例ニ依ル

一　初任ノ月ニ於テ日割計算ヲ以テ俸給ヲ給セラレタル場合ニ於テモ全月分ヲ以テ其ノ月ノ俸給額トス

二　月ノ中途ニ於テ昇給アリタルトキハ昇給後ノ俸給額ヲ以テ其ノ月ノ俸給額トス

三　休職、罰俸等ノ事情ニ依リ本來給與セラルヘキ俸給ニ比シ一時的ニ少額ヲ給セラレタル場合ニ於テモ本來給與セラルヘキ俸給額ニ依ル

第二十四條ノ十　恩給法第五十九條ノ二第一項但書ニ規定スル一級ノ昇給ニ付テハ左ノ例ニ依ル

一　級俸ノ定アル場合ニ於テ當分給トシテ給與級俸ヨリ少額ノ俸給ヲ給セラレタル者ニ付テハ給與級俸ノ直近上位ノ級俸ノ額ニ給與級俸ニ對シ當分俸給カ有スル割合ヲ乘シタルモノ（圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム）ヲ以テ當分俸給ニ對スル一級上位ノ俸給額トス級俸ノ定アル場合ニ於テ月俸七十五圓未滿ノモノニ付級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ給與シタルトキ亦同シ

二　同一級俸ニ付上下ノ區分アル場合ニ於テハ其ノ上俸ハ之ヲ下俸ニ對スル一級上位ノ俸給ト看做ス

三　轉官職ニ依リ昇給ヲ來ス場合ニ於テハ新官職ニ付定メラレタル級俸中前ノ官職ニ付給セラレタル俸給ニ直近ニ多額ナルモノヲ以テ一級上位ノ俸給トス但シ其ノ額カ前官職ニ付給セラレタル俸給ニ其ノ百分ノ十五ヲ加ヘタル金額ニ達セサルトキハ之ニ達スル金額ヲ以テ一級上位ノ俸給ト看做ス

第二十五條　準文官ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一　高等官ノ試補ハ判任官一等トシ判任官見習ハ同四等トス

二　國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニ付テハ其ノ官等等級ニ依ル

第二十六條　準軍人ノ公務傷病等ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一　陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生ハ判任官一等トス
二　前號ニ揭ケサル陸軍ノ士官候補生、陸軍士官學校生徒、海軍兵學校生徒、海軍機關學校生徒、海軍經理學校生徒、海軍航空豫備學生及海軍豫備生徒ハ判任官三等トス
三　前二號ニ揭ケサル陸海軍諸生徒及海軍豫備練習生ノ階等ハ兵ニ準ス

第二十七條　教育職員及準教育職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル
一　教育職員ノ階等ハ其ノ官等等級又ハ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル
二　準教育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等等級令別表第二表ノ例ニ準ス

第二十八條　警察監獄職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ判任官四等トス但シ警部補ハ其ノ等級ニ依ル

第二十九條　待遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ其ノ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル

第三十條　恩給法第六十二條第五項ニ規定スル中學校ト同等以下ノ程度ノ學校トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ
一　師範學校
二　高等女學校
三　專門學校令ニ依ラサル實業學校（實業補習學校ヲ除ク）
四　中學校又ハ前二號ニ揭クル學校ニ準スヘキ學校
五　實業補習學校教員養成所
六　朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル中學校又ハ第一號乃至第三號若ハ第五號ニ揭クルモノニ準スヘキモノ
七　在外指定學校ニシテ中學校又ハ第一號乃至第三號ニ揭クル學校ニ準スヘキモノ

第三十條ノ二　恩給法第六十四條ノ二但書ノ規定ニ依ル一時恩給ノ返還ハ之ヲ負擔シタル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ再就職ノ月ノ翌月ヨリ一年内ニ一時ニ又ハ分割シテ之ヲ完了スヘシ
前項ノ規定ニ依リ一時恩給ノ全部又ハ一部ヲ返還シ失格原因ナクシテ再在職ヲ退職シタルニ拘ラス普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生セサル場合ニ於テハ一時恩給ノ返還ヲ受ケタル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ返還者ニ還付スヘシ

第三十一條　恩給法第六十六條第四項ノ規定ニ依リ傷病賜金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ六目トス
第一目症
一　一眼ノ視力カ〇・一ニ滿タサルモノ
二　一側中指ノ機能ヲ廢シタルモノ
三　一側第二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ
第二目症
一　一側環指ヲ全ク失ヒタルモノ
第三目症
一　一眼ノ視力カ〇・二ニ滿タサルモノ
二　一耳ノ聽力カ四十センチメートル以上ニテハ耳語ヲ解シ得サルモノ
三　一側環指ノ機能ヲ廢シタルモノ
四　一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ヲ全ク失ヒタルモノ
第四目症
一　一側小指ヲ全ク失ヒタルモノ
二　一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ
第五目症
一　一眼ノ視力カ〇・三ニ滿タサルモノ
二　一耳ノ聽力カ一メートル以上ニテハ言語ヲ解シ得サルモノ
三　一側小指ノ機能ヲ廢シタルモノ
四　一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ヲ全ク失ヒタルモノ
第六目症
一　一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ
二　前目ノ各症ニ次ク症ヲ殘シタルモノ
第二十四條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付之ヲ準用ス

第三十二條　第十六條ノ規定ハ恩給法第九十一條又ハ第九十二條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　恩給法第九十六條ノ規定ニ依リ在職最終俸給年額ニ增加スヘキ金額ハ別表第四號表ノ區分ニ依ル

第三十四條　削除

第三十五條　廢官、廢職、廢艦、廢校若ハ官職名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在リタル者又ハ定員ノ減少ニ因リ退職シタル者即日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ恩給法ノ適用ニ付テハ之ヲ勤續ト看做ス

第三十六條　恩給法第百一條ノ規定ニ依ル增額ハ左ノ區分ニ依ル
一　軍人以外ノ公務員ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給カ大正九年七月三十一日以前ノ俸給令ニ依ルモノナルトキハ別表第四號表ノ區分ニ依リ增加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ、其ノ他ノモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ恩給法第六十條、第六十二條、第六十三條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス
二　軍人又ハ準軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ別表第五號表ニ依リ當該軍人又ハ準軍人ノ階等ヲ定メ恩給法第六十一條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス
三　增加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等竝別表第六號表ニ依リ定メタル傷病ノ原因及不具癈疾ノ程度ニ從ヒ恩給法第六十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ增加恩給ノ年額トス但シ陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高俸ヲ受ケタルモノノ階等ハ之ヲ尉官トシ名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス
第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ增加恩給年額ノ更正ニ付之ヲ準用ス
四　執達吏ノ恩給ヲ更正スル場合ニ於テハ第一號ノ規定ニ依ラス六百圓ヲ俸給年額ト看做シ恩給法第六十條ノ規定ニ依リ算出シ

タル年額ヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス

前項ノ增額ヲ爲ス場合ニ於テハ外國勤續ニ因ル加給ハ之ヲ爲サス

第三十七條　恩給法第百二條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ增額スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第七號表ニ依ル假定俸給年額ニ增加シ之ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ恩給法第百一條ノ規定ヲ適用ス

附　則

第三十八條　本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條　左ノ命令ハ之ヲ廢止ス

一明治二十四年勅令第二百四十八號
一明治二十七年勅令第五十二號
一明治二十七年勅令第八十一號
一明治二十七年勅令第百四十五號
一明治三十一年勅令第二百四十四號
一明治三十二年勅令第二百一號
一明治三十三年勅令第百七十三號
一明治三十三年勅令第四百四號
一巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令
一明治三十四年勅令第百五十號
一明治三十五年勅令第百五十七號
一明治四十一年勅令第百三十七號
一明治四十三年勅令第百二十七號
一明治四十四年勅令第七十號
一大正六年勅令第二百四十一號
一大正六年勅令第二百四十二號
一大正九年勅令第三百二十三號
一明治十八年第十五號官吏恩給令附則
一明治十八年第十六號達文官癈疾疾病等差例
一明治十八年第四十號達陸軍恩給令附則

第四十條　第十條各號ニ揭クル官制ニ依リ廢止セラレタル官制又ハ其レニ依リ廢止セラレタル官制ニ依リテ判任官以上ノ待遇ヲ受ケタル職員ハ在職年通算ノ關係ニ於テハ之ヲ當該各號ニ揭クル官制ニ依ル職員ト看做ス

附　則　（大正十三年勅令第五十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ水雷艇乘員トシテノ勤務ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附　則　（大正十三年勅令第四百七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

港務部設置制ニ依ル待遇職員ハ仍之ヲ第十條第十號ニ揭クル待遇職員ト看做ス

附　則　（大正十五年勅令第二百四十四號）

本令ハ公布ノ日リ之ヲ施行ス

郡判任官ハ仍之ヲ第六條第一號ニ揭クル文官ト看做ス

附　則　（昭和八年勅令第二百三十六號）

第一條　本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條ノ改正規定中一時恩給及一時扶助料ニ關スル部分、第二十四條ノ二乃至第二十四條ノ八並ニ附則第三條及第四條ノ規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　昭和八年九月三十日以前ニ給與事由ノ生ジタル普通恩給及扶助料ノ分擔ニ付テハ第四條第一項ノ規定ノ改正ニ拘ラズ其ノ分擔請求額ハ仍改正前ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第三條　昭和八年法律第五十號附則（以下單ニ改正法律附則ト稱ス）第七條但書ノ規定ニ依リ給スベキ傷病年金ハ前ニ傷病賜金ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者ニ付テハ之ヲ生ジタル月ヨリ起算シ新ニ受クベキ恩給法別表第三號表ノ傷病年金額ヲ以テ其ノ者ノ受ケタル傷病賜金額ヲ除シテ得タル數ニ相當スル年數ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ給セズ

前項ノ年數ノ一年ニ滿タザル部分ハ之ヲ月ニ換算シ月ニ滿タザルモノハ之ヲ切捨ツ

第四條　改正法律附則第九條ニ規定スル場合ニ於テハ左ノ例ニ依ル

一　轉官職ニ依リ新官職ニ付前俸給ヨリ多額ノ俸給ヲ給セラルルニ至ルトキハ之ヲ昇給ト看做ス

二　本俸ト之ニ準ズベキモノトヲ併セ受クル場合ニ於テ其ノ一ニ付昇給又ハ增額アリタルトキハ改正法律附則第九條ノ規定ニ依リ本俸及之ニ準ズベキモノノ總テニ付同法第五十九條ノ改正規定ヲ適用ス

三　俸給ノ法令ニ依ル增額アル場合ニ於テ其ノ增額分ガ恩給法第五十九條ノ規定ノ改正ニ依リ增加シ又ハ新ニ納付スベキニ至リタル額以上ナルトキニ限リ俸給ハ增額セラレタルモノトシ之ニ及バザルトキハ其ノ增額ナカリシモノトシテ取扱フ

第五條　改正法律附則第十五條第一項但書ノ規定ニ依リ改定普通恩給ヨリ控除スル金額ノ年額ハ改定ニヨリ增額スル金額ノ一年分ト同額トス

控除ハ控除金額ノ總額ガ一時恩給金額ニ達シタルトキヲ以テ之ヲ止ム

第六條　改正法律附則第十七條以下ノ規定ニ依リ同法施行後仍削除セラレタル恩給法第九十九條ノ規定ニ依ルベキ場合ニ於テ同條ニ規定スル教育事務ニ從事スル文官トハ左ニ揭グル者ヲ謂フ

一　官立ノ學校又ハ圖書館ノ職員
二　文部省官吏
三　教育事務從事ノ北海道廳、府、縣、郡、島廳、朝鮮總督府、朝鮮總督府郡島、臺灣總督府、臺灣總督府州廳郡市、樺太廳、關東局又ハ南洋廳ノ官吏
四　臺灣公立學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノ
五　教育事務從事ノ從前ノ區、統監府、關東都督府又ハ關東廳ノ官吏

第七條　大正十三年勅令第四百七號附則第二項中「第六號」ヲ「第十號」ニ改ム

附　則　（昭和八年勅令第三百五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依ル北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（別表）

第一號表　削除

第二號表

（一）三分ノ二月ヲ加算スヘキモノ

內地	北海道 國後郡 安渡移矢岬 松前郡 小島 幌筵島 占守島 石川縣 鳳至郡 舳倉島 長崎縣 南松浦郡 女島 鹿兒島縣 川邊郡 草垣島
朝鮮	京畿道 富川郡 木德島、德積島 忠清南道 瑞山郡 瓮島、格烈飛島 全羅南道 務安郡 七發島、紅島、小黑山島 莞島郡 魚籠島、港門島 珍島郡 竹島、下島 慶尚北道 鬱陵島 黃海道 長淵郡 小青島 松禾郡 西島 平安南道 寧遠郡 平安北道 熙川郡 鐵山郡 大和島 朔州郡 昌城郡 碧潼郡 楚山郡 渭原郡 江界郡 慈城郡 厚昌郡 咸鏡南道 新興郡 長津郡 豐山郡 三水郡 甲山郡 咸鏡北道 茂山郡 會寧郡 鐘城郡 穩城郡 慶源郡 慶興郡 右ニ掲クル地方ニ屬スル地ト雖鐵道停車場ヨリ五里以內ニ在ル地ハ之ヲ除ク
臺灣	臺北州 基隆郡 基隆街ノ內彭佳嶼 羅東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中清水、牛鬪及松羅溪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 蘇澳郡 街庄ヲ置カサル蕃地中寒溪、四方林、大元山駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部、蘇澳庄ノ內大南澳 文山郡 街庄ヲ置カサル蕃地中タンピア、ウライ、ラハウ及阿玉駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 新竹州 大溪郡 街庄ヲ置カサル蕃地中八結、ケイフイ、カウジヤウ、竹頭角、水流東、角板山、合脗坪、ウライ、ヨウハブン、シツケイ、カウボウ、ラハウ及斷崖駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 竹東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中內灣、カラパイ、メカラン、內橫屏山、錦屏山、ライハウ、シラツク、メホマン、シパジイ、マイバライ、シイガオ及大隘駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 大湖郡 街庄ヲ置カサル蕃地中八掛力、汶水、高熊峠及細道邦駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 臺中州 東勢郡 街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑、稍來坪、白毛及中坑坪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 新高郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 能高郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 臺南州 嘉義郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 高雄州 旗山郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 屏東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中カウ、サンテイモン、パクヒヨウ、マカザヤザヤ及カサギザン駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 潮州郡 街庄ヲ置カサル蕃地中カピヤン、アマワン、ボンガリイ、スボン、歸化門、崁頭、內獅頭、獅仔頭及四重溪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 恒春郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 東港郡 琉球庄 臺東廳 臺東廳管內中臺東街ヨリ里壠ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ以東ノ地域ヲ除キタル殘部 花蓮港廳 花蓮港廳管內中花蓮港街ヨリ玉里ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ以東ノ地域ヲ除キタル殘部
樺太	散江郡 敷香郡 名好郡 名好村大字安別 留多加郡 西能登呂岬
關東州	圓島
南洋群島	各群島（パラオ列島中コロール島、サイパン島及ヤツプ島ヲ除ク）
其ノ他	北樺太 ペトロパウロフスク ニコライウスク 農安 龍井村 琿春 百草溝 局子街 間島頭道溝 通化 海龍 赤峰 宜昌 沙市 重慶 成都 外蒙古 新疆 河內 西貢 盤谷 新嘉坡 メダン マニラ ダヴァオ スラバヤ バタヴィア 蘭貢 カルカッタ コロンボ 孟買 テヘラン ポートサイド モンバサ ハヴァナ パナマ 里馬 リベロンプレート バウルー

（二）二分ノ一月ヲ加算スヘキモノ

内地	朝鮮	臺灣	樺太	關東州	南洋群島	其ノ他
北海道 厚岸大黒島 根室諸島（安渡移矢岬、幌筵島及占守島ヲ除ク） 千島列島 東京府 小笠原島 長崎縣 西彼杵郡 大立島 北松浦郡 五島白瀬、二神島 上縣郡 三島 福岡縣 宗像郡 沖島 鹿兒島縣 大島郡 曾津高埼、住用村大字、西仲間、亀津村大字、亀津字、亀大字、天城村大字、平安北道、阿布木名字、村大字野間、平村大字西阿木名字西阿	京畿道 富川郡 八尾島、鳬 忠清北道 丹陽郡 全羅北道 沃溝郡 全羅南道 麗水郡 所里島 海南郡 時下島 慶尙北道 英陽郡 奉化郡 黃海道 遂安郡 松禾郡 谷山郡 姉妹島 平安南道 孟山郡 德川郡 陽德郡 平安北道 義州郡（義州面ヲ除ク） 龜城郡（龜城面ヲ除ク） 泰川郡	臺北州 宜蘭郡 頭圍庄ノ內龜山島 羅東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中清水、牛鬪、松羅溪駐在警察官管轄區域 蘇澳郡 街庄ヲ置カサル蕃地中寒溪、四方林、大元山駐在警察官管轄區域、蘇澳庄 中東澳 文山郡 坪林庄中大字大舌湖、柑脚坑、鶯鶯岫、大粗坑、澗瀨、柵子寮、九芎林（字石槽、鶯子瀨、四堵ニ限ル）、街庄ヲ置カサル蕃地中タンピア、ウライ、ラハウ、阿玉駐在警察官管轄區域 海山郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 新竹州 新竹郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 大溪郡 街庄ヲ置カサル蕃地中八結、ケイフイ、街庄ヲ置カサル蕃地中竹頭角、カウジヤウ、水流東、角板山、合脚坪、ウライ、ヨウハブン、シツケイ、カウボウ、ラハウ、斷崖駐在警察官管轄區域 竹東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中內灣、カラパイ、メカラン、內橫屏山、錦屏山、ラハウ、シラツク、メホマン、シパジイ、マ	名好郡 （名好村大字獐子島、小長山島、鳳鳴島、西中島ヲ除ク）	海洋島 獐子島 小長山島 鳳鳴島 西中島	バラオ列島中 コロール島 サイパン島 ヤップ島	オムスク ノヴオシビルスク イルクーツク チタ ブラゴウエスチエンスク ハバロフスク 滿洲里 黑河 齊齊哈爾 洮南 鄭州 太原 沈陽 大連 燕京 南京 西安 九州 漢口 長沙 福門 廈東 汕頭 廣州 雲南 レキサンドリヤ サンタウン ケープタウン 墨西哥市 サンパウロ サントス リオデジヤネロ

木名、實久村大字榮原、名實、久 寧邊郡 博川郡 定州郡 宣川郡 鐵山郡（大和島ヲ除ク） 龍川郡 江原道 平旌善郡 蔚珍郡 三陟郡 楊口郡 麟蹄郡 伊川郡 寧越郡 平昌郡 咸鏡南道 北青郡 利原郡 端川郡 咸鏡北道 鏡城郡 明川郡 吉州郡 城津郡（城津面ヲ除ク） 富寧郡 右ニ掲クル地方ニ屬スル地域停車場ヨリ五里以內ニ在ル地ハ雖鐵道之ヲ除ク	雲山郡 邊郡 東方村大字、嘉鐵字、細縣皆津 沖縄縣 大東島 伊江島 宮古島列島 八重山列島	イバライ、シイガオ、大隘駐在警察官管轄區域 竹南郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 大湖郡 獅潭庄中大字獅潭字三洽坑、水興、街庄ヲ置カサル蕃地中八卦力、汶水、高蕉峠、細道邦駐在警察官管轄區域 臺中州 東勢郡 街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑、稍來坪、白毛、中坑坪駐在警察官管轄區域 能高郡 國姓庄中大字龜子頭、柑子林、墘溝 臺南州 嘉義郡 大埔庄中大字生毛樹、科子林 新化郡 南化庄（大字北寮ヲ除ク） 高雄州 旗山郡 甲仙庄 屏東郡 六龜庄（大字新威ヲ除ク） 潮州郡 枋山庄 恆春郡 街庄ヲ置キタル地域全部 澎湖郡	臺東廳 臺東街ヨリ里壠ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ以東ノ地域 花蓮港廳 街ヨリ玉里ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ以東ノ地域			

第三號表

地域	流行病
八重山列島	マラリア（黑水熱ヲ含ム以下同シ）、赤痢
鹿兒島縣大島郡、沖繩縣	デング熱
朝鮮	猩紅熱、痘瘡、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、赤痢、デング熱
臺灣	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、黃熱、デング熱
南洋諸島	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、黃熱、デング熱
滿洲	ペスト、猩紅熱、痘瘡、腸チフス、パラチフス、赤痢
關東州	ペスト、猩紅熱、痘瘡、腸チフス、パラチフス、赤痢
支那（滿洲ヲ除キ香港ヲ含ム）	マラリア、猩紅熱、痘瘡、コレラ、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、回歸熱、赤痢
露領西伯利亞（薩哈嗹州ヲ含ム）	發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、回歸熱、赤痢
比律賓諸島	マラリア、コレラ、腸チフス、パラチフス、赤痢
蘭領東印度諸島	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢
佛領印度、暹羅、緬甸、馬來半島	マラリア、コレラ、發疹チフス、ペスト、赤痢
英領印度	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢、カラアザール
ペルシア	マラリア、猩紅熱、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、回歸熱、赤痢
中央亞米利加、南亞米利加	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、黃熱
墨西哥	マラリア、發疹チフス、黃熱
亞弗利加	マラリア、ペスト、回歸熱、赤痢、トリパノゾーム病、黃熱

第四號表

在職最終俸給年額	增加スヘキ金額
六千五百圓ヲ超エ七千五百圓未滿ノモノ	五百圓但シ在職最終俸給年額ニ五百圓ヲ加ヘタル額カ在職最終俸給年額ト七千五百圓ヲ超ユルトキハ七千圓トノ差額
五千五百圓ヲ超エ六千五百圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ト七千圓トノ差額
三千圓ヲ超エ五千五百圓ヲ超エサルモノ	千五百圓
五千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ三十分ノ十三ニ相當スル金額ニ二百圓ヲ加ヘタル額
三百六十圓ヲ超エ五千二百圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ五割ニ相當スル金額ニ百二十圓ヲ加ヘタル額
三百圓以下ノ三百六十圓ヲ超エサルモノ	三百圓
三百圓以下ノモノ	在職最終俸給年額十割ニ相當スル金額

第五號表

從前ノ法令 階等	恩給法	軍人恩給法 高等官	陸軍恩給令
將官及相當官 親任一等	將官及相當官 准士官 下士 兵卒	將官及相當官 親任一等	大將
二等		二等	中將
三等		三等	少將 相當官
四等		四等	大佐 相當官
五等		五等	中佐 相當官
六等		六等	少佐 相當官
七等		七等	大尉 相當官
八等		八等	中尉 相當官
佐尉官及相當官 一等	佐尉官及相當官 准士官 下士 兵卒	佐尉官及相當官 一等	少尉 相當官
二等		二等	准士官
三等		三等	曹長 相當官
四等		四等	軍曹 相當官
海軍一等卒		海軍一等卒	伍長 相當官
陸軍一等兵		陸軍一等兵	上等兵
海軍二等卒		海軍二等卒	
陸軍二等兵		陸軍上等兵	
海軍三等卒		海軍三等卒	一等卒 二等卒
陸軍三等兵		陸軍一等卒	憲兵 會計兵 看護卒 看護卒 馬卒 樂生
海軍四等卒		陸軍二等卒	
海軍五等卒		海軍四等卒	

陸軍武官傷痍ノ者ニ扶助及死亡ノ者ニ祭粢並其家族扶助概則	海軍恩給令	海軍退隱令
大將	大將	大將
中將	中將	中將
相當官 同少將	相當官 同少將	相當官 同少將
相當官 同大佐	相當官 同大佐	相當官 同大佐
相當官 同中佐	相當官 同中佐	相當官 同中佐
相當官 同少佐	相當官 同少佐	相當官 同少佐
相當官 同大尉	相當官 同大尉	相當官 同大尉
相當官 同中尉	相當官 同中尉	相當官 同中尉
相當官 同少尉	相當官 同少尉	相當官 同少尉
准士官	准士官	准士官
相當官 同曹長	相當官 同曹一等兵	相當官 機關士
相當官 同軍曹	相當官 同曹二等兵	相當官 水兵長
相當官 同伍長	相當官 同曹三等兵	相當官 大端舟長 機關長 火夫長 海軍長屬
兵	一等卒	一等水兵
卒	二等卒	二等水兵
	三等卒	三等水兵
	四等卒	四等水兵
	五等卒	一等水兵 一等火夫 若干

備考

一　大正九年三月三十一日以前ニ海軍兵曹長同相當官タリシ者ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタルモノハ高等官六等トシ其ノ他ノモノハ高等官七等トス

大正十年三月三十一日以前ニ退職シタル陸軍一等樂長ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタルモノハ高等官六等トス

一　名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

一　本表ニ該當セサルモノハ陸海軍武官官階及兵等級ノ例ニ依ル

第六號表

從前ノ法令 ＼ 傷病原因 症狀等差	恩給法 甲號 特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	恩給法 乙號 特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
官吏恩給法 第十四條第二項														
官吏恩給法施行規則 第十二條														
官吏恩給令附則 第五條														
軍人恩給法 第三號表甲號		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
軍人恩給法 第三號表乙號														
軍人恩給法 第十條第二項 症項ヲ査定ス								症項ヲ査定ス						
明治四年兵部省達陸軍士官兵卒給俸諸定則								一等傷痍	戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノ					
陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭粢並ニ其家族扶助概則 第一條	第一項		第二項	第三項				二等傷痍	戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノ					
明治九年太政官達陸軍恩給令 第十一條	第一項	戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者		第二項	第三項			第一項	戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノ		第二項	第三項		
明治十六年太政官達陸軍恩給令 第十九條	第一號	戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者		第二號	第三號	第四號	第五號	第一項	戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノ		第二項	第三項		
海軍退隱令 第十八條	第一號		第二號	第四號	第五號									
海軍恩給令 第二十條	第一號	戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號	第一號	戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノ	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則 第十五條	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	

公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則	大正十年閣令第十八號			症項ヲ査定ス
	明治二十五年文部省令第十七號	第一項	第二項	第三項
	明治四十五年朝鮮總督府令第十二號	第一項	第二項	第三項
臺灣ニ在勤スル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料支給規則	第十六條	第一項	第二項	第三項
巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令	第一條	第一號	第二號	第三號
巡査看守給助例	第四條	第一號	第二號	第四號

第四項	第五項	第六項				
第四項	第五項	第六項				
第四項	第五項	第六項				
第四項	第五號	第六號				
第四號	第五號	第六號				

備考　明治三十五年勅令第四十一號ニ定メタル事件ノ爲受ケタル傷痍ハ之ヲ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍ト看做ス

第七號表

高等官及同待遇	退職又ハ死亡當時ノ俸給年額	假定俸給年額	判任官及同待遇	退職又ハ死亡當時ノ俸給年額
	九、六〇〇	一二、〇〇〇		一、二〇〇

六、〇〇〇	八、〇〇〇	九〇〇	一、一四〇	
五、〇〇〇	六、〇〇〇	七二〇	九〇〇	
四、五〇〇	五、五〇〇	六〇〇	七八〇	
四、〇〇〇	五、〇〇〇	五四〇	六六〇	
三、六〇〇	四、五〇〇	四八〇	六〇〇	
三、五〇〇	四、二〇〇	四二〇	五一六	
三、三〇〇	四、〇〇〇	三百六十圓以下	八十四圓ヲ加ヘタル額	
三、〇〇〇	三、七〇〇	三百二十四圓以下	七十二圓ヲ加ヘタル額	
二、八〇〇	三、五〇〇	二百七十六圓以下	六十圓ヲ加ヘタル額	
二、六〇〇	三、二〇〇	二百二十八圓以下	四十八圓ヲ加ヘタル額	
二、五〇〇	三、〇〇〇	百八十圓以下	三十六圓ヲ加ヘタル額	
二、四〇〇	二、七〇〇	百三十二圓以下	二十四圓ヲ加ヘタル額	
二、二〇〇	二、五〇〇			
二、〇〇〇	二、二〇〇			
一、八〇〇	二、〇〇〇			
一、六〇〇	一、八〇〇			
一、五〇〇	一、七〇〇			
一、四〇〇				

一、三〇〇	一、六〇〇	
一、二〇〇	一、五〇〇	
一、一〇〇	一、三〇〇	
一、〇〇〇	一、二〇〇	
九〇〇	一、一〇〇	
八〇〇	一、〇〇〇	
七〇〇	八五〇	
六〇〇	七五〇	
五〇〇	六〇〇	
四五〇	五五〇	
四〇〇	五〇〇	
三〇〇	四〇〇	

備考

一　本表ノ俸給年額ニハ加俸ヲ包含セス恩給年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給ハ其ノ實額ニ依ル

一　本表ニ該當セサル俸給ニ付テハ之ニ其ノ俸給年額ノ二割五分ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ假定俸給年額トス　但シ其ノ額カ實俸給年額ニ最モ近キ本表中ノ上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ヲ超過スルトキハ之ヲ當該上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ニ止ム

●恩給受給權存否ノ調査ニ關スル件

昭和九年一月二十二日農秘甲第一七號
秘書官發米穀部長宛

恩給受給權存否ノ調査ニ關シ別紙寫ノ通內閣恩給局ヨリ通知有之候條貴部及所屬官衙ノ在勤者ニシテ證明方希望ノ者有之候ハヾ御取纏メ大臣官房秘書課ヘ送付相成度此段及移牒候也

（別紙）

昭和九年一月十九日恩發第一一號
內閣恩給局發本省大臣官房宛

貴廳勤務中ノ當局裁定ニ係ル普通恩給受給者ニシテ受給權調査（恩給法第九條ノ二參照）ニ關シ恩法施行令第一條ノ二第二項ノ規定ニ依リ貴廳ノ證明ヲ以テ同條第一項第一號ニ規定スル書類ニ代ヘ當局ノ承認ヲ得ントスルモノアルトキハ貴廳ニ於テ便宜別紙書式ニ依リ一括シテ奧書證明シ當局ニ御送付相成樣致度此段及通知候也

追而貴廳管下ノ關係廳ニハ貴廳ヨリ可然御通達方御取計相煩度

承認申請書

左記證明ヲ以テ昭和　年　月ニ提出スベキ恩給法施行令第一條ノ二第一項第一號ニ規定スル書類ニ代ヘ承認相成度候

年　月　日

普通恩給權者　氏　　名印
普通恩給權者　氏　　名印

普通恩給權者　氏　　名印　殿

內閣恩給局長

證明

證明記號番號	官職名	氏名

右者當廳ニ勤務シ恩給法第九條第一項第一號及第三號ニ該當セザルモノナルコトヲ證明候也

年　月　日

（身分進退ヲ取扱フ廳ノ長官ノ）官職名　氏　　名　印

●改正恩給法附則第九條ノ解釋ニ關スル件

昭和九年一月三十一日農秘甲第三三號
秘書官發米穀部長宛

改正恩給法附則第九條ノ解釋ニ關シ別紙寫ノ通內閣恩給局ヨリ通牒有之候條右御了知相成度此段及移牒候也

追テ貴部所管官衙ヘハ貴部ヨリ可然移牒相成度申添候

（別紙）

昭和九年一月二十七日恩發第一七號
内閣恩給局發本省大臣官房宛

昭和八年法律第五十號附則第九條ニ規定スル「就職」ノ意義及就職ノ月ノ納金率ニ付テハ今般左記ノ通決定致候條此段及通牒候也

記

一、改正法施行前ヨリ在職中ノ公務員ガ改正法施行後（昭和九年四月一日以後）ニ退職シ退職ノ即日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シタル場合（即實質上ノ轉任ノ場合）ニハ附則第九條ノ適用アリトシ其ノ就職ノ月ハ從來ノ規定ニ依ル納金率トシ翌月ヨリ恩給法ノ改正第五十九條ノ新率ニ依リ納金セシムルコト

二、改正法施行後新ニ公務員ニ就職シ又ハ改正法施行前ヨリノ在職者ニシテ退職ノ翌々日以後就職ノ者ニハ經過規定タル附則第九條ノ適用ナシト解シ恩給法ノ改正第五十九條ニ依リ當然就職ノ月ヨリ新率ニ依リ納金セシムルコト

追テ改正法施行前ヨリ公務員トシテ在職スル者改正法施行後ニ俸給ガ昇給シ若ハ增額セラレタル場合ニハ其ノ昇給若ハ增額ノ月ハ從來ノ規定ノ納金率ニ依リ納金セシメ其ノ翌月ヨリ恩給法ノ改正第五十九條ノ新率ニ依リ納金セシムベキモノナルニ付爲念申添候

第五章　契　約

第五章　契　約

●政府ニ於テ物品ノ販賣ヲ問屋業者ニ委託スルコトヲ得ル場合ニ關スル件

大正十二年六月七日
勅令第二百九十九號

政府ニ於テ物品ヲ販賣スルトキハ左ノ場合ニ限リ問屋業者ニ其ノ販賣ヲ委託スルコトヲ得

一　輸出ノ目的ヲ以テ物品ヲ販賣スルトキ

二　專賣品又ハ其ノ副產物ヲ販賣スルトキ

三　林產物又ハ鑛產物ヲ販賣スルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年勅令第二百八十號ハ之ヲ廢止ス

●會計法第三十一條第二項ノ適用ニ關シ閣議決定ノ件

大正十一年四月二十一日會第五九七號
會計課長發食糧局長宛

會計法第三十一條第二項ノ適用ニ關シ別紙寫ノ通閣議決定相成候處貴官委任權限內ニ屬スル事項ニ就テハ充分御審査ノ上決行相成可然依命此段及通知候也

（別紙）

大正十一年一月九日大甲第一五五號
內閣總理大臣發本省大臣宛

會計法第三十一條第二項ノ適用ニ關シ左ノ通閣議決定相成候

第一　各省大臣ハ左ニ掲クル事由ニ因リ一般ノ競爭ニ付スルヲ不利ト認ムル場合ニ限リ會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競爭ニ付スルコトヲ得

一　當業者相連合シテ不當ノ競爭ヲ爲サムトスルノ虞アルコト

二　不誠實又ハ不信用ノ者競爭ニ加入シ不當ノ競爭ヲ爲スノ虞アルコト

三　特種ノ構造又ハ品質ヲ要スル工事、製造又ハ物件ノ買入ニシテ檢査著シク困難ノモノナルコト

四　契約上ノ義務ニ違背アルトキハ政府ノ事業ニ著シキ支障ヲ來スノ虞アルコト

第二　各省大臣ハ左ニ掲クル場合ニ限リ會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　現ニ契約履行中ノ工事、製造又ハ物品ノ供給ニ關聯スルモノニシテ之ヲ他ノ者ヲシテ分割履行セシムルコトヲ不利トスルトキ

二　隨意契約ニ依ルトキハ時價ニ比シ著シク有利ナル價格ヲ以テ契約ヲ爲シ得ヘキ見込アルトキ

三　買入ヲ要スル物品多量ニシテ分割購入ヲ爲スニ非サレハ買占

其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ價格ヲ騰貴セシムルノ虞アルトキ

四　急速ニ契約ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲スノ機會ヲ失フノ虞アルトキ又ハ著シク不利ナル價格ヲ以テ契約ヲ爲ササルヘカラサルノ虞アルトキ

五　前項各號ノ場合ニ於テ指名競爭ニ付スルコトヲ不利トスル特別ノ事由アルトキ

第三　前二項ニ掲クル場合ノ外一般ノ競爭ニ付スルヲ不利ト認ムヘキ特殊ノ事由アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ指名競爭ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

●會計法第三十一條第二項ヲ適用シタル場合ニ於ケル通知事項ノ件

大正十一年五月十日會第六四七號
會計課長發食糧局長宛

賣買貸借請負其ノ他ノ契約ニシテ一般競爭ニ付スルヲ不利ト認メ會計法第三十一條第二項ヲ適用シタル場合ニ於テハ別記各項ヲ會計檢査院ニ通知スヘキコトト相成候條爲念此段及通知候也

別　記（大正十一年五月一日送第七三二號會計檢査院長發本省大臣宛照會アリタルモノ）

一　契約ノ目的、其ノ數量及金額竝豫定價格

二　政府ノ契約擔任者、歳出又ハ歳入科目

三　契約者及指名者ノ氏名、資力、經歴、營業場所

四　入札及契約年月日竝入札金額

五　一般競爭ニ付スルヲ不利トスル事由

記載例

1　閣議決定第一項第一號及第二號ノ場合ニハ不當競爭ヲ爲スノ虞アリト認メタル事實

2　同第三號ノ場合ニハ構造又ハ品質ノ特種ナル點及檢査ノ困難ナル事實

3　同第四號ノ場合ニハ契約違背ニ因リ政府ノ事業ニ著シキ支障ヲ來スノ虞アル事實

4　決定第二項第一號ノ場合ニハ前契約事項トノ關聯程度及之ヲ分割履行セシムルヲ不利トスル事實

5　同第二號ノ場合ニハ調査シタル時價

6　同第三號ノ場合ニハ所要總數量及時價竝價格ヲ騰貴セシムルノ虞アリト認メタル事實

7　同第四號ノ場合ニハ契約ノ機會ヲ失シ又ハ著シク不利ト爲ルヘキ虞アリト認メタル事實

8　同第五號ノ場合ニハ指名競爭ニ付スルヲ不利トスル特別ノ事由

9　決定第三項ノ場合ニハ一般競爭ニ付スルヲ不利ト認ムヘキ特殊ノ事由

●會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件

大正十一年四月一日
大藏省令第三十三號

改正　昭和二年第二七號

第一條　工事、製造又ハ物品供給ノ一般競爭ニ加ラムトスル者ハ一年以來其ノ工事、製造又ハ物品供給ノ業務ニ從事スルコトヲ證明スヘシ但シ合名會社、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ其ノ業務執行社員ノ一人、株式會社ニ在リテハ其ノ會社ヲ代表スル取締役ノ一人、組合ニ在リテハ其ノ業務ヲ執行スル組合員ノ一人一年以來其ノ工事、製造又ハ物品供給ノ業務ニ從事スルコトヲ證明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

工事、製造又ハ物品ノ供給ヲ營ム合名會社、合資會社及株式合資會社ノ業務執行社員、株式會社ヲ代表スル取締役又ハ組合ノ業務ヲ執行スル組合員タリシ者ニ付テハ其ノ在任期間中當該工事、製造又ハ物品ノ供給ニ從事シタルモノト看做ス

第二條　工事、製造又ハ物品供給ノ一般競爭ニ加ラムトスル者ハ前條ニ規定スルモノノ外左ノ事項ヲ證明スヘシ

一　個人ニ在リテハ二年以來其ノ毎年納メタル地租、第三種所得稅、營業收益稅及乙種資本利子稅ノ合算額見積入札金額千分ノ一ヲ下ラサルコト

二　法人又ハ組合ニ在リテハ出資額又ハ拂込資本金額見積入札金額ヲ下ラサルコト但シ法人ニシテ二年以來其ノ毎年納メタル地租、第一種所得稅及營業收益稅ノ合算額見積入札金額千分ノ二ヲ下ラサルコトヲ證明シタルトキ又ハ合名會社、合資會社及株式合資會社ニシテ其ノ無限責任社員ノ一人、組合ニシテ其ノ組合員ノ一人前號ニ該當スルコトヲ證明シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　工事、製造又ハ物品ノ供給ニ關スル營業ヲ承繼シタル場合ニ於テハ前營業者ノ當該營業ニ從事シタル期間及納付シタル稅額ハ承繼人ノ從事スル期間及納付シタル稅額ニ之ヲ通算ス

第四條　本令ノ規定ニ依リ證明ヲ要スル事項ハ當該官公署ノ認證アル書面ヲ以テ之ヲ立證スヘシ

第五條　公共團體ニ於テ工事、製造又ハ物品供給ノ一般競爭ニ加ラムトスルトキハ本令ニ定ムル資格ヲ有スルコトヲ要セス

第六條　各省大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ノ資格ニ付大藏大臣ト協議シテ本令ノ規定ニ特例ヲ設クルコトヲ得

第七條　朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島又ハ外國ニ於テ工事、製造又ハ物品供給ノ一般競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ朝鮮總督府所屬ノ經費ニ付テハ朝鮮總督、臺灣總督府所屬ノ經費ニ付テハ臺灣總督、樺太廳所屬ノ經費ニ付テハ樺太廳長官、關東

廳所屬ノ經費ニ付テハ關東長官、南洋廳所屬ノ經費ニ付テハ南洋廳長官、各省所屬ノ經費ニ付テハ所管大臣ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前一般ノ競爭ニ付スヘキコトヲ公告シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件中解釋ノ件

昭和三年十一月十一日禮會乙第二號
會計課長發農務局長宛

大正十一年大藏省令第三十三號中解釋ノ件ニ付大藏省主計局長ヨリ別紙ノ通通牒有之候ニ付御了知相成度此段及通牒候也

（別紙）

昭和三年十一月一日藏計第七四七號
大藏省主計局長發本省會計課長宛

大正十一年大藏省令第三十三號（會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件）中解釋ノ件ニ付別紙寫通海軍省經理局長ヨリ照會有之候ニ付（ロ）ノ通リト回答致シ置候條爲念及通牒候也

昭和三年十月十九日經物第四二二號
海軍省經理局長照會

本件ニ關シ左記ノ通疑義ヲ生シ候ニ付テハ貴省ノ御意見承知致度右照會ス

記

第二條中「二年以來其ノ每年納メタル地租云々」トアルハ

（イ）每年所定率以上ノ納稅ヲ要スルカ

（ロ）二年ヲ通算シ所定率ニ達スレハ可ナリヤ

●入札者資格ニ關シ公告文ニ記入ノ件

大正十一年四月二十四日發乙一第九七五號
會計課長發食糧局長宛

本年四月一日大藏省令第三十三號ヲ以テ一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件相定メラレ候ニ付テハ爾後一般競爭入札ノ公告文末項ニ「入札資格、大正十一年四月一日大藏省令第三十三號ニ依ル資格ヲ有スル者タルコトヲ要ス」ノ一項ヲ必ス御記入相成樣致度爲念此段及通牒候也

●他官衙トノ間ニ於ケル契約書省略ノ件

大正十一年六月八日發乙二第九四號
會計課長發食糧局長宛

貴局ニ於テ他官衙ト三千圓ヲ超ユル製造又ハ財產ノ賣買ニ付隨意契約ヲ爲スニ方リテハ會計規則第八十五條及第八十六條ニ規定スル契約書作成ヲ省略シ得ルコトニ大藏大臣ト協議決定相成候此段及通牒候也

〔參考〕

大正十一年五月十八日會第七二七號
本省大臣發大藏大臣宛

當省並所管官衙ニ於テ他官衙ト三千圓ヲ超ユル製造又ハ財產ノ賣買ニ付隨意契約ヲ爲スニ方リテハ會計規則第八十五條及第八十六條ニ規定スル契約書作成ヲ省略致度此段及協議候也

追テ本件ハ取急キ居候事情モ有之候ニ付特急御回報煩度及御依賴候也

大正十一年六月藏第六二八八號
大藏大臣發本省大臣宛

五月十八日附會第七二七號ヲ以テ契約書省略ノ件御協議ノ趣了承右異存無之候也

●國產奬勵ノ爲ノ會計法ノ特例ニ關スル法律

昭和二年四月一日
法律第四十一號

國產奬勵ノ爲必要アル場合ニ於テハ政府ハ當分ノ內勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ買入ルル物品ニ付國產品タルコトヲ指定シ又ハ其ノ請負ヲ爲サシムル工事若ハ製造ノ材料ノ全部若ハ一部ニ付國產品ヲ使用スヘキコトヲ指定シテ契約ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國產奬勵ノ爲ノ會計法ノ特例ニ關スル法律施行ニ關スル件

昭和二年十二月二十八日
勅令第三百七十三號

第一條　昭和二年法律第四十一號ニ依リ契約ヲ爲シ得ル國產品ノ種目ハ大藏大臣之ヲ決定シ各省大臣ニ通知スベシ

前項ノ規定ニ依リ國產品ノ種目ヲ決定セントスル場合ニ於テハ大藏大臣豫メ國產振興委員會ニ諮問スルコトヲ要ス

第二條　昭和二年法律第四十一號ニ依リ契約ヲ爲ス場合ニ於テハ會計規則中契約ニ關スル規定ニ拘ラズ必要アルトキハ各省大臣豫メ大藏大臣ト協議シ指名競爭ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第三條　本令ニ依リ通知ヲ爲シ又ハ協議ヲ遂ゲタルトキハ大藏大臣直ニ之ヲ會計檢査院ニ通知スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國產奬勵ノ爲ノ會計法ノ特例ニ關スル法律ニ依リ隨意契約ヲ爲シ得ル國產品ノ種目ニ關スル件

昭和三年四月十日會第四三四號
會計課長發農務局長宛

改正　省略

昭和二年法律第四十一號ニ依リ隨意契約ヲ爲シ得ル國產品ノ種目別紙ノ通大藏大臣ヨリ同年勅令第三百七十三號ニ依リ通知有之候條此段及通牒候也

（別紙）

昭和三年三月二十七日官房秘乙第二〇一號
大藏大臣發本省大臣宛

昭和二年法律第四十一號ニ依リ契約ヲ爲シ得ル國產品ノ種目別紙ノ通リ決定致候ニ付此段及通知候也

（別紙）

一　銑　鐵
　鑄物用又ハ製鋼用ニ適スルモノ
二　低燐銑鐵
　鑄物用又ハ製鋼用ニ適スルモノ
三　鐵合金
　製鋼用ニ適スルモノ
四　軟鋼板
　船體用又ハ蒸汽罐用ニ適スルモノ
五　特殊鋼
　タービン翼、工具、發條、電磁石用ニ適スルモノ
六　冷質引拔繼目無鋼管
　船體用又ハ蒸汽罐用ニ適スルモノ
七　冷質引拔繼目無眞鍮管
　船體用又ハ復水器用ニ適スルモノ
八　ネーバル眞鍮板
　船體用又ハ復水器用ニ適スルモノ
九　錫　紙
　紙卷煙草包裝用ニ適スルモノ
一〇　自動車
一一　自動自轉車
一二　航空機用發動機

一三　航空機々體及プロペラ
一四　力織機
一五　醫療用器械及附屬器具
一六　計測器
一七　球軸承
一八　人造研磨砥及研磨布紙
　金屬研磨用ニ適スルモノ
一九　點火栓
　內燃機用ニ適スルモノ
二〇　送信電球（水冷式ヲ除ク）
　無線通信用ニ適スルモノ
二一　十六番銅覆鋼線
　野外通信用ニ適スルモノ
二二　マグネトー
　內燃機用ニ適スルモノ
二三　炭素棒
　探照灯用ニ適スルモノ
二四　炭素電極
　電氣爐用ニ適スルモノ
二五　揮發油
　內燃機用ニ適スルモノ
二六　礦油
　機械潤滑用又ハ電氣絕緣用ニ適スルモノ
二七　原油
　第五章　契　約
二八　頁岩油
　艦船用燃料ニ適スルモノ
二九　オレイン油
　工業用ニ適スルモノ
三〇　曹達灰
　工業用ニ適スルモノ
三一　苛性曹達
　工業用ニ適スルモノ
三二　硝酸加里
　工業用ニ適スルモノ
三三　重クロム酸加里
　工業用ニ適スルモノ
三四　人造染料及中間物
三五　無銀酸化鉛
　金分試驗用ニ適スルモノ
三六　醫藥
三七　毛織物

追加第一回（昭和四年三月二十一日會第三八〇號）
會計課長發農務局長宛

一　蒸汽機關車
二　空氣制動裝置
　電車用ニ適スルモノ
三　外輪

四　車　軸
　鐵道車輛用ニ適スルモノ
五　臺　車
　鐵道車輛用ニ適スルモノ
六　蒸汽暖房用品
七　航空機用發動機始動裝置
八　ストロージヤ式私設自働電話交換機
　私設電話用ニ適スルモノ
九　電話用試驗臺
一〇　電話用通知臺
一一　電話用障害受付臺
一二　電話用蓄電器
一三　電報受信用和文タイプライター
一四　電信用鑽孔紙
一五　電氣機關車
一六　電車モーター
一七　電車用制御器
一八　廻轉變流機
一九　電力用ケーブル
　電力傳送用ニ適スルモノ
二〇　平等裝荷重信鉛被紙海底ケーブル（一四對以下）
　電話通信用ニ適スルモノ但シスプリング式海底ケーブル及

線輪裝荷ケーブルヲ除ク
二一　無裝荷重信鉛被紙海底ケーブル（五四對以下）
　電話通信用ニ適スルモノ
　追加第二回（昭和四年十月十八日會第一五六二號）
　（會計課長發農務局長宛）
一　ロードローラー
二　スチームショベル
三　浚渫機用グラブ
四　浚渫機用バケツト
五　内燃機關
六　潛水艦用蓄電池
七　低溫タール
　追加第三回（昭和六年六月十六日會第八二四號）
　（會計課長發農務局長宛）
一　木　材
　建築用又ハ家具製作用ニ適スルモノ
二　自働電話交換機及自動式電話ダイヤル
　自働電話交換裝置用ニ適スルモノ（但シ國產品ノ代用カ技術上支障アル場合ニ限リS.H式及S.B式交換機ヲ除ク）
三　ケーブル裝荷線輪
　ケーブル裝荷用ニ適スルモノ
　追加第四回（昭和七年十二月二日會第一六一三號）
　（會計課長發米穀部長宛）
一　無裝荷G。P。海底ケーブル
　電信電話通信用ニ適スルモノ

二　平等裝荷G。P。海底電話ケーブル
　電話通信ニ適スルモノ（但シ國產品ノ代用カ技術上支障アル場合及特殊品ヲ除ク）
　追加第五回（昭和九年一月二十二日會第一七八一號）
　（會計課長發米穀部長宛）
一　エチレングリコール

●各省購入外國品目中内國品ニ代フルヲ可トスルモノト外國品ノ購入已ムヲ得サルモノトノ區分ニ關スル件

昭和四年十月十四日藏理第八四〇號ノ二
大藏大臣發本省大臣宛

各省購入外國品中内國品ニ代フルヲ可トスルモノト外國品ノ購入已ムヲ得サルモノトノ區分ニ關シ豫テ御協議ノ趣旨ニ依リ國產振興委員會ニ諮問ノ上差當リ別紙品目決定致候ニ付此段及通知候也

（別紙）
（一）各省購入外國品目中内國品ヲ以テスルヲ可ト認ムル種目
一　コンクリートミキサー
二　自働杭打機

三　時　計
　掛時計
　置時計
　普通標準時計
　電氣時計（船舶用ヲ除ク）
　懷中時計（特殊品ヲ除ク）
　腕　時　計（特殊品ヲ除ク）
四　炭素鋼軌條（溝付軌條ヲ除ク）
　長一米ニ付重量六、八、九、一〇、一二、一五、二二、三〇、三七、四五及五〇「キログラム」ノモノ
五　金　庫
六　鋼製書庫
七　輪轉謄寫機
八　旋　盤（特殊品及精度特ニ高キモノヲ除ク）
九　鑽孔機（特殊品ヲ除ク）
一〇　螺　錐
一一　携帶式電動鑽孔機
一二　内燃機關
　瓦斯機關
　ガソリン機關（ケロシン機關ヲ含ミ航空機自動車其他輕量ノモノヲ除ク）
　輕油機關
　重油機關

一三　電熱器
一四　電氣罎
一五　鉛蓄電池（潜水艦用ヲ除ク）
一六　電氣爐
　抵抗爐（特殊品ヲ除ク）
　電弧爐（特殊品ヲ除ク）
一七　有線電信機
　海底電信機（特殊品及擬似ケーブルヲ除ク）
　陸上電信機（印刷電信機、鍵盤鑽孔機及高速度用ノモノヲ除ク）
一八　有線電話機
　手働式電話機
　自働式電話機
　手働式電話交換機
　手働式電話記錄臺
　手働式電話案内臺
　手働式電話監督臺
一九　オイルペイント（船底塗料ヲ除ク）
二〇　ボイル油
二一　ワニス（電氣絶緣用ヲ除ク）
二二　リノリユーム
二三　革調帶
二四　模造紙
二五　筆記用紙
二六　パラフキン紙
二七　筆記用鉛筆
二八　筆記用インキ
二九　毛織物
　羅紗
　サージ
　ヘル
　フランネル
　毛布
三〇　窓掛
三一　絨氈
三二　カタン糸
三三　卓子掛
三四　キヤラコ
三五　テープ及リボン
三六　フエルト（特殊品ヲ除ク）
三七　窓硝子（厚五粍以下ノモノ）
三八　ゲージ硝子
三九　フラスコ（特殊品ヲ除ク）
四〇　試驗管（特殊品ヲ除ク）
四一　硝子燃燒管（特殊品ヲ除ク）
四二　硝子製計量器（特殊品ヲ除ク）

追加第一回（昭和五年六月二十六日會第九二一號）
（會計課長發農務局長宛）

一　鑄鐵管
二　繼目無鋼管
三　瓦斯管（瓦斯、水、蒸氣等ノ輸送其他雜用）
四　水喞筒
五　消防用喞筒
六　氣體壓縮機（特殊品ヲ除ク）
七　送風機
八　通風機
九　自轉車
一〇　起重機
一一　捲揚機
一二　電動ホキスト
一三　シエーピングマシン
一四　プレストドリル
一五　製圖器
一六　携帶式電動グラインダー
一七　グラインデングマシン
一八　ピアノ（特殊高級品ヲ除ク）
一九　石炭ストーブ
二〇　瓦斯ストーブ
二一　トーチランプ
二二　ジヤツク
二三　鑪
二四　製材用丸鋸
二五　筆記用ペン先
二六　發電機
二七　電動發電機
二八　電動機
二九　廻轉變流機
三〇　變壓器（變流器ヲ含ム）
三一　扇風機
三二　配電盤
三三　電力用繼電器
三四　電力用避雷針
三五　遮斷器
三六　開閉器
三七　包裝用紙
三八　濾紙（特殊品ヲ除ク）
三九　吸取紙
四〇　羅紗紙
四一　複寫紙（特殊品ヲ除ク）
四二　タイプライター用ボンド紙
四三　研磨紙（金剛砂紙エメリーペーパー）
四四　ゴムマツト
四五　ゴム絲

四六　字消ゴム
四七　製圖用繪ノ具
四八　印畫紙（特殊品ヲ除ク）

追加第二回（昭和六年六月十六日會第八二四號）
（會計課長發農務局長宛）

一　燐房用汽罐
二　水管式汽罐（特殊高壓品ヲ除ク）
三　印刷機械（特殊品ヲ除ク）
四　燐房用放熱器
五　人工太陽燈
六　チェーンブロック（特殊品ヲ除ク）
七　把手式計算器
八　體溫計
九　ミリングマシン（特殊品ヲ除ク）
一〇　消火ピストル
一一　小型消火器（航空機用ヲ除ク）
一二　金錢登錄器
一三　手形打拔器
一四　電氣熔接用熔接棒（特殊品ヲ除ク）
一五　自動番號器
一六　宛名印刷器
一七　ナフタリン
一八　石炭酸
一九　クレゾール
二〇　サルチール酸
二一　フオルマリン
二二　錯酸
二三　ステアリン酸
二四　グリセン（細菌試驗用ヲ除ク）
二五　重炭酸曹達
二六　醋酸曹達
二七　硫酸アムモニア
二八　燈油
　　普通燈油
　　信號燈油
　　動力用燈油
二九　輕油
三〇　スピンドル油
三一　マシン油
三二　冷凍機油
三三　マリンエンヂン油
三四　ダイナモ油
三五　タービン油
三六　內燃機潤滑油（エーアコンプレツサー油ヲ除ク）
三七　車軸油
三八　變壓器油

三九　開閉器油
四〇　パラフヰン油
四一　旋盤油
四二　リノリユーム油
四三　ギヤーグリース
四四　石蠟
四五　舗道用アスフアルト
四六　電壓計（特殊品ヲ除ク）
四七　電流計（特殊品ヲ除ク）
四八　直流用電壓電流計
四九　電力計（特殊品ヲ除ク）
五〇　電力用周波計（特殊品ヲ除ク）
五一　力率計（特殊品ヲ除ク）
五二　檢漏器

追加第三回（昭和七年五月三十一日會第七二八號）
（會計課長發農務局長宛）

一　天秤
二　浮秤
三　瓦斯計
四　水量計
五　晴雨計（特殊品ヲ除ク）
六　壓力計（特殊品ヲ除ク）
七　眞空計
八　聯成計
九　經緯儀（トランシツト）（特殊品ヲ除ク）
一〇　水準儀
一一　水準器
一二　ブラニメーター
一三　パワーハンマー（特殊品ヲ除ク）
一四　パワープレス（特殊品ヲ除ク）
一五　ボンチングエンドシヤリングマシン（特殊品ヲ除ク）
一六　蓄電池車
一七　內燃機關車
一八　木工用旋盤
一九　丸鋸機
二〇　帶鋸機
二一　青寫眞燒付機
二二　青寫眞感光液塗布機
二三　エレベーター
二四　鑄物用モールデイングマシン
二五　スロツテイングマシン
二六　スレツテイングマシン（特殊品ヲ除ク）
二七　プレーニングマシン
二八　遠心分離機（特殊品ヲ除ク）
二九　噴霧塗裝機（特殊品ヲ除ク）
三〇　噴霧器
三一　自動連結器

三二　空氣制動機
三三　瓦斯熔接器
三四　瓦斯截斷器
三五　タイプレート
三六　アンチクリーパー
三七　リーマー
三八　ミリンカツター
三九　ギアーカツター
四〇　ダイス（特殊品ヲ除ク）
四一　タップ（特殊品ヲ除ク）
四二　金剛砥石（特殊品ヲ除ク）
四三　萬　力
四四　苛性ソーダ
四五　アリザニン
四六　アンモニア
四七　過酸化ソーダ
四八　金屬ナトリウム
四九　二硫化炭素
五〇　咽　粉
五一　重クロム酸カリ
五二　明　礬
五三　アセトン
五四　アルコール
五五　硝　酸
五六　亞硝酸ソーダ
五七　ヂフエニルアミン
五八　ヂメゲルアニリン
五九　硫　酸
六〇　發煙硫酸
六一　チオ硫酸ソーダ
六二　硫化ソーダ
六三　硫酸バリウム
六四　次亞硫酸ソーダ
六五　硫酸アルミニウム
六六　亞硫酸ソーダ
六七　硫酸銅
六八　炭　酸
六九　醋酸ソーダ
七〇　醋酸鉛
七一　石　鹼
七二　蠟　燭
七三　セーム革
七四　擬革布
七五　印刷料紙（特殊品ヲ除ク）
七六　方眼紙
七七　放送用受信機

七八　無線用受話機
七九　デルヴイル送話機振動板
八〇　デルヴイル送話機炭素粒
八一　ソリツトバツク送話機炭素粒
八二　電話用中繼線輪
八三　通信用濾波器
八四　通信用繼電器（特殊品ヲ除ク）
八五　漏話測定器
八六　通話能率測定器
八七　雜音測定器
八八　光電管
八九　電氣抵抗式溫度計
九〇　熱電氣式溫度計
九一　乾電池
九二　電氣サイレン
九三　電氣眞空掃除器
九四　水銀整流器
九五　電氣鋲熱機
九六　鐵道用自動信號機
九七　踏切警報機
九八　鐵道用電氣聯動機
九九　電氣轉轍機
一〇〇　電機車用集電裝置

一〇一　車輛用戸閉裝置

追加第四回（昭和七年十二月二日會計課長發米穀部長宛第一六一三號）

一　ボルト
二　ナツト
三　座　金
四　鋼木ねぢ
五　鋼リベツト
六　ドツクスパイク
七　ニクロム線（特殊品ヲ除ク）
八　鐵　釘
九　鋼　索（ロツクドコイルヲ除ク）
一〇　辨　（特別高壓用ノモノヲ除ク）
一一　コツク
一二　鍼力板（特種鑛詰用ノモノヲ除ク）
一三　蒸汽機關車
一四　蒸汽タービン
一五　ボールベアリング（特殊品ヲ除ク）
一六　ローリングマシン（特殊品ヲ除ク）
一七　ボンチングマシン（特殊品ヲ除ク）
一八　ギヤーホツビングマシン（特殊品ヲ除ク）
一九　ネオン管
二〇　電波計（特殊品ヲ除ク）

二一　眞空管
二二　短波長受信機
二三　マイクロフオン
二四　電氣熔接機（特殊品ヲ除ク）

追加第五回（昭和九年一月二十二日會第一七八一號）
會計課長發米穀部長宛

一　紙綴器
二　計算尺
三　マイクロメーター（精度特ニ高キモノヲ除ク）
四　ダイヤルインヂケーター（特殊品ヲ除ク）
五　截斷庖丁（特殊品ヲ除ク）
六　ペンチ
七　レンチ
八　自動錐
九　布帛截斷機
一〇　ニューマチツクツール（特殊品ヲ除ク）
一一　双眼鏡（特殊品ヲ除ク）
一二　隻眼鏡（特殊品ヲ除ク）
一三　望遠鏡（特殊品ヲ除ク）
一四　擴大鏡
一五　幻燈器械
一六　帳番
一七　ドアチエツク

一八　活動寫眞映寫機（特殊品ヲ除ク）
一九　ブレーキライニング
二〇　クラツチフエーシング
二一　回轉空氣壓縮機（特ニ大型ノモノヲ除ク）
二二　シートパイル
二三　トレーシングクロース（特殊品ヲ除ク）
二四　自動車タイヤー（特殊品ヲ除ク）
二五　自動車チユーブ
二六　ゴムホース（特殊品ヲ除ク）
二七　ゴムパツキング（特殊品ヲ除ク）
二八　石綿製品（特殊品ヲ除ク）
二九　クーリツヂ管球（特殊品ヲ除ク）
三〇　レントゲン裝置（特殊品ヲ除ク）
三一　絶緣抵抗試驗器
三二　可搬ガソリン發電機
三三　簡易整流器

追加第六回（昭和十年二月十九日會第一〇二號）
會計課長發米穀局長宛

一　硬度計（特殊品ヲ除ク）
二　工業用ピアノ線（特殊品ヲ除ク）
三　電氣鐵板（特殊品ヲ除ク）
四　ダイヤモンドツール
五　鑿岩機（特殊大型ノモノヲ除ク）

六　金切鋏
七　卷煙草製造機
八　ストーカ
九　夜警時計
一〇　鉋削機
一一　竪鋸機
一二　碎鑛機
一三　アルミニウム箔
一四　タイムレコーダー
一五　顯微鏡（特殊品ヲ除ク）
一六　重油爐
一七　換氣枠
一八　箱錠
一九　草刈機
二〇　ショツパー型擴張試驗機
二一　陶瓷
二二　ゴム手袋（手術用ヲ除ク）
二三　タイプライターリボン
二四　寫眞用乾板（特殊品ヲ除ク）
二五　メタノール
二六　オイルシートパツキング
二七　通信用蓄電器
二八　高聲電話機

二九　無線用サイフオンレコーダー
三〇　無投影照明裝置
三一　電氣冷藏庫（特殊品ヲ除ク）
三二　交流用積算電力計
三三　電位差計（特殊品ヲ除ク）
三四　檢流計（特殊品ヲ除ク）
三五　石英水銀燈式褪色試驗器

（二）各省購入外國品中外國品ノ購入已ムヲ得サルモノト認ムル種目

時計
　天文振子時計
　デツキウオツチ
　ストツプウオツチ
電氣爐
　誘導爐
有線電話機
　自働式電話交換機

●海外拂實績調提出ノ件

大正十五年十二月二十二日會第一三九三號
會計課長發農務局長宛

改正（省略）

海外拂節約實行方法ニ關シ別紙寫ノ通決定致候旨大藏次官ヨリ通知旁々大正十五年度以降海外拂實績調取纏方照會有之候條右ニ依リ御取調御提出相成度此段及通知候也

（別紙）

大正十五年十一月十六日官房秘乙第七三一號ノ八
大藏次官發本省次官宛

豫テ海外拂節約實行方法ノ件ニ關シ當省主任官ヨリ御協議（本年八月七日附國秘第二〇七號各省海外拂節約協議會幹事ヨリ貴省委員宛照會）ニ及置候處國產振興委員會ニ於テモ別紙甲號ノ通リ商工大臣ヘ答申有之候趣ニテ本件實行方ニ關シ同省次官ヨリ大藏次官宛別紙乙號ノ通リ照會有之候ニ付本年度分ヨリ右方法ニ依リ實行ノコトニ決定相成候條右ニ了承相成度就テハ大正十五年度以降海外拂實績調ハ別紙樣式ニ依リ毎三ケ月分ヲ取纏御提出相成候樣致度此段及照會候也

追テ既ニ御提出濟ノ分ニ付テハ物品費ニ付其數量及外國品購入ノ理由至急御追報相煩度尙大正十五年度自四月至九月實績ニ付テハ一括シテ御提出相成モ差支無之候

（甲號）

商工大臣ニ對スル國產振興委員會々長ヨリノ答申

官廳用品ノ國產品充用ニ關スル一方策トシテ左ノ通リ實行スルヲ適當ト認ム

一、大正十五年度以降各官廳ニ於テ外國品ヲ購入シタルトキハ其ノ品名、數量、價格及外國品購入ノ理由ヲ具シ三ケ月毎ニ之ヲ取纏メ大藏省ニ報告スルコト

二、大藏省ハ右各廳ノ報告ヲ取纏メ之ヲ本委員會ニ提出スルコト但シ軍ノ機密ニ屬スルモノハ此ノ限リニ在ラス

三、本委員會ハ前項ノ資料ヲ基礎トシテ

（イ）外國品購入ノ已ムヲ得サルモノ

（ロ）內國品ニ代フルヲ可トスルモノ

ニ二大別シタル官廳用品類別表ヲ作製シ之ヲ大藏省經由各省ニ配布スルコト

右官廳用品類別表ヲ作製スル爲特別委員會ヲ設置スルコト

四、前項類別表ニ於テ內國品ニ代フルヲ可トセラレタルモノハ各省ニ於テ爾後外國品ヲ購入セサルコト但シ止ムヲ得スシテ尙之ヲ購入セル場合ニハ第一項ノ報告中ニ特ニ其ノ理由ヲ詳記スルコト

五、前項但書ヲ適用シタルモノニ付テハ大藏省ヨリ海外拂節約協議會ノ議ニ付シ之カ適否ヲ協議スルコト

（乙號）

大正十五年十月二十一日工第九六一一號
商工次官發大藏次官宛

今般國產振興委員會々長ヨリ官廳用品ノ國產品充用方ニ關シ別紙ノ通リ商工大臣ニ答申有之候處右ハ機宜ノ措置ト認メラレ候條之カ實行方可然御配慮相煩度此段及照會候也

（別紙樣式）

海外拂實績調

由理ノ入購	計合 額金	計合 數量	拂接間 額金	拂接間 數量	拂接直 額金	拂接直 數量	品名	種類	款項

●支拂傳票ニ海外拂ノ旨朱記ノ件

昭和五年九月二日農局第一七六二號
農務局長發各米穀事務所長宛

海外拂實績調査ノ爲必要有之候ニ付該當ノモノニ關シテハ直接拂、間接拂ノ別ナク爾今支拂傳票、經費請求書欄外ニ「海外拂」ト朱記相成度此段及通牒候也

●電力供給契約並電話名義ニ關スル件

昭和四年三月三十日
農務局長發各米穀事務所長宛

客年五月所長會議ノ際提案ニ係ル電力供給ニ關スル契約ニ付テハ來年度ヨリ其所ニ於テ直接電燈會社（酒田ニ在リテハ酒田町）ト協定ノ上契約書寫添附報告相成度尙電話ハ爾今所長名義ヲ使用シ從來ニ於ケル局長名義ノ分ハ右ニ依リ更正方可然御取計相成度此段通牒候也

●入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件

明治四十三年九月七日
勅令第三百四十號

改正　大正九年第五八一號

入札又ハ契約ニ關シ保證金ヲ徵スヘキ規定ナキ場合ニ於テモ當該官吏特ニ其ノ必要アリト認メタルトキハ現金又ハ國債ヲ以テ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得

落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ保證金ハ政府ノ所得トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●鐵道株式會社ノ株券ヲ國債證券ニ代用スルノ件

明治四十年八月二十四日
勅令第二百九十一號

鐵道國有法及京釜鐵道買收法ニ依リ買收セラレタル鐵道株式會社ノ株券ハ政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充當セラルヘキ國債證券ニ之ヲ代用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル株券ノ價格ハ各省大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件

明治四十一年十一月二十八日
勅令第二百八十七號

改正　明治四五年第一三六號

政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債、帝國鐵道會計法第二條ノ二ノ證券及大藏省證券ノ價格ハ其ノ債券金額ニ依ル

明治三十八年勅令第二十號（擔保トシテ政府ニ納ムヘキ國債證券ノ價格算定ニ關スル件）ハ之ヲ廢止ス

●登錄國債ノ擔保充用ニ關スル法律

明治四十二年三月二十二日
法律第八號

法令ノ規定ニ依リ擔保トシテ國債證券ヲ供託又ハ寄託スル場合ニ於テハ證券ヲ發行セサル登錄國債ニ付テ擔保ノ登錄ヲ受ケ之ニ代フルコトヲ得

●記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル法律

明治三十七年四月一日
法律第十七號

民法第三百六十四條第一項ノ規定ハ記名ノ國債ニハ之ヲ適用セス

〔參照〕

民法抄錄

第三百六十四條第一項

指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第三債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ第三債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

●米穀證券ヲ保證金ニ充用ノ件

昭和二年二月十七日
農務局長發各米穀事務所長宛

米穀證券ヲ保證金ニ充用シ得ルヤ否ヤニ付テハ種々意見アルヤニ被存候處右ハ明治四十一年勅令第二百八十七號政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件中米穀證券ヲ包含セサルノミナラス割引ノ關係モ有之旁々保證金トシテ取扱ヒ得サル義ニ付右ニ御了知相成度此段及通牒候也

●申込保證金トシテ受入レタル公債ニ關スル件

昭和五年六月十九日農局第一八二七號
農務局長發各米穀事務所長宛

（米穀事務所庶務會計主任事務打合事項ニ關スル處理ノ件抄錄）

本月上旬本省ニ於テ開催シタル米穀事務所庶務會計主任事務打合會ニ於テ別紙ノ通協議取纏メ候ニ付テハ之カ實行ニ關シ夫々調査ノ結果左記各項ノ通決定致候條爾今右ニ依リ御處理相成度此段及通牒候也

記

一、申込保證金トシテ受入レタル公債ヲ契約保證金ニ充當スル場合ニ於ケル分割處理方法ニ關スル件

不合理ナル分割充用ヲ爲サヽルコト

第六章　國有財産

第六章　國有財産

●國有財産法

大正十年四月八日
法律第四十三號

第一條　本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産竝勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ヲ謂フ

第二條　國有財産ヲ分チテ左ノ四種トス

一　公共用財産　國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

二　公用財産　國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

三　營林財産　國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

四　雜種財産　前各號ニ屬セサルモノ

第三條　國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ

第四條　國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第五條　雜種財産ハ左ニ掲クル場合ニ限リ之ヲ讓與スルコトヲ得

一　帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ

二　公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ

三　神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條　雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限リ之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條　雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限リ帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第八條　用途及期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間內ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間內ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條　國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十條　國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條　境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條　前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條　隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條　國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入リ、目標ヲ設置シ又ハ障碍物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條　國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一　植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年

二　前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

三　建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條　國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條　國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條　貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條　前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條　雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サムトスル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條　前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間內ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條　第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間內ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條　政府ハ國有財産ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ

臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條　政府ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産增減總計算書及毎五年三月三十一日現在ノ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ會計檢査院ノ檢査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財産增減總計算書ニハ各省ノ國有財産增減報告書ヲ、國有財産現在額總計算書ニハ各省ノ國有財産現在額報告書ヲ添附スヘシ

附則

第二十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年勅令第六十二號ヲ以テ大正十一年四月一日ヨリ施行）

第二十八條　第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ內公共用財産ニ付之ヲ適用セス

第二十九條　第二十六條ノ規定ニ依ル國有財産增減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財産現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條　北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ抵觸スルモノト雖當分ノ內仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條　國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ增減異同報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條　從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條　本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

●國有財産法施行令

大正十一年一月二十八日
勅令第十五號

改正　昭和二年第四二號、九年第七七號

目　次　　頁

第一章　總則……六二八
第二章　賣拂、讓與及交換……六二九
第三章　境界査定……六二九
第四章　貸付及準貸付……六三〇
第五章　臺帳……六三一
第六章　計算書及報告書……六三二
第七章　雜則……六三三
附則……六三三

第一章　總則

第一條　左ニ掲クル動産及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財産法第一條ノ國有財産トス

一　船舶、浮標、浮桟橋及浮船渠
二　不動産又ハ前號ニ掲クル動産ノ從物
三　事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具
四　地上權、地役權、鑛業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權利
五　株式及出資ニ因ル權利

前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條　各省大臣公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ニ之ヲ通知シ特ニ大藏大臣ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財産ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、通信事業特別會計、簡易生命保險特別會計、大學資金又ハ學校及圖書館資金ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三條　各省大臣國有財産ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條　左ニ掲クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

一　公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ
二　公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ
三　雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ
四　營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條　各省大臣公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條　前二條ノ規定ハ國有財産法施行地外ニ在ル財産及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スヘキ財産ニ付之ヲ適用セス

第七條　國有財産ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財産ヲ讓受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第二章　賣拂、讓與及交換

第八條　公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條　公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財産ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ財産ノ見込價格カ其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過額ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條　公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財産中寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　國有財産ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條　前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニ依リ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途並之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章　境界査定

第十四條　國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條　境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ書面ノ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除クノ外期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條　隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト爲ハサル事由ヲ申出テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條　境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

隣接地所有者ハ當該官廳又ハ其ノ指定シタル官公署ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條　當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外其ノ受領書ヲ徵スヘシ

第十九條　國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係

市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ掲示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第四章　貸付及準貸付

第二十條　公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條　隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ國有財産法第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條　前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條　雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ

一　土地又ハ水面ノ所在及面積
二　事業ノ目的
三　事業施行ノ方法及順序
四　成功豫定期間
五　收支豫算
六　計畫圖

事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條　國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ當該官廳ハ前項ノ規定ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第二十六條　當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以内ノ期間ヲ指定シ事業者ヲシテ其ノ事業ニ著手セシムヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二十七條　國有財産法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除クノ外豫約ニ定メタル條項ニ準シテ其ノ契約ヲ爲スヘシ

第二十八條　國有財産法第二十四條第一項ニ規定スル雜種財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條　寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財産ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付之ヲ準用ス

第五章　臺帳

第三十條　國有財産ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其ノ總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條　國有財産ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

一　種目
二　所在又ハ所屬
三　數量
四　價格
五　得喪變更ノ年月日及事由
六　其ノ他必要ナル事項

第三十二條　國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一　土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額
二　立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込價格
三　建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築費、製造費又ハ見込價格
四　權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲クルモノハ見込價格、第五號ニ掲クルモノハ拂込金額又ハ出資金額

第三十三條　土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル

前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計及通信事業特別會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三十四條　作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格ニ依ルヘシ

第六章　計算書及報告書

第三十五條　各省大臣ハ會計檢査院ニ證明ノ爲國有財産ノ增減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會計檢査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十六條　各省大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産增減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産增減報告書ニ基キ國有財産增減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産增減報告書ト共ニ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第三十七條　各省大臣ハ毎五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第七章　雜則

第三十八條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條　第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ樣式及送付期限ニ付テハ會計檢査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條　前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條　本令ニ定ムル帳簿及書類ノ樣式ニハ國防上祕密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附則

第四十二條　本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條　左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ增減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達皇城周圍內外ノ湟壘等修繕改築ニ關スル件

明治八年第百四十六號達

明治九年第四十六號達

明治十三年第六號達

明治十三年七月八日達皇城周圍內外ノ湟壘外岸接近ノ官有地ヘ家屋等建築ニ關スル件

明治十四年第十號達

明治十六年第四十五號達

官有地特別處分規則

官有地財産管理規則

官有地取扱規則

明治二十四年勅令第十五號

明治二十七年勅令第九十二號

明治三十六年勅令第九十六號

明治三十九年勅令第二百二十號

明治四十一年勅令第百十九號

明治四十二年勅令第七十號

大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條　本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財産ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條　本令施行ノ際國財有産ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第四十六條　各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條　前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

●國有財産法施行規則

大正十一年二月八日
大藏省令第十四號

改正　大正一一年第六一號
昭和二年第五號　七年第一七號　九年第二一號

第一條　公用財産タル土地ノ用途ヲ變更ゼムトスル場合ニシテ之ニ因リ各廳ノ官廳、兵營、病院、監獄、學校、官舍、工場、倉庫、練兵場、作業場、演習場、射擊場、飛行場、牧場、農場、試驗場、演習林ノ敷地ニ異動ヲ生スヘキモノニ付テハ國有財産法施行令第四條ノ規定ニ依リ所管大臣大藏大臣ト協議スヘシ但シ其ノ異動ノ面積カ百坪ヲ超エサル場合及相接續スル兩敷地ノ區域ノ相互變更ニシテ其ノ面積カ各敷地ノ面積ノ一割ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　國有財産ノ臺帳ハ第一號樣式ニ據ル但シ帝國鐵道會計又ハ通信事業特別會計ニ屬スルモノ及作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ其ノ樣式ヲ定ムルコトヲ得

國有林野ニシテ別ニ臺帳ノ設備アルモノニ付テハ之ニ總括ヲ附シテ國有財産ノ臺帳ニ代用スルコトヲ得

第三條　臺帳ニハ土地、建物及國有財産法施行令第一條第四號ニ揭クル權利ニ關スル圖面ヲ附屬セシムヘシ但シ本令施行ノ際ニ於ケル雜種財産ニ付テハ其ノ重要ナルモノヲ除クノ外當分ノ內之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　國有財産ノ總括簿ヲ備フル場合ニ於テハ第一號樣式中總括ニ準シテ之ヲ調製シ尙公用財産ノ分ニ付テハ前條ニ準シテ圖面ヲ附屬セシムヘシ

第五條　國有財産現在額報告書及國有財産增減報告書ハ第二號及第三號樣式ニ據ル

附則

本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式（國有財産臺帳）

帳臺產財有國	
屬所計會何	
產財何	
管理廳名	

備考

一本臺帳ハ一般會計及各特別會計所屬別ニ公用財産、營林財産

及雜種財産毎ニ別冊トシ官公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及國防上秘密ヲ要スルモノ、雜種財産中寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スルモノ及公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノハ各別冊トス爲スモノトス

二　各臺帳ニ登錄スヘキ國有財産ノ區分及種目ハ別表ノ定ムル所ニ依ルモノトス但シ工作物及器具機械ニ付テハ必要ニ應シ適宜其ノ種目ノ追補ヲ爲スコトヲ妨ケス

三　各臺帳ハ土地ノ種目別一區域ヲ其準トシテ口座ヲ分チ當該土地ノ定著物ハ勿論其ノ上ニ存スル官廳其ノ他ニ從屬スル動産及權利ヲモ其ノ口座ニ整理スルモノトス但シ土地ヲ其準トスル口座ニ整理難キモノニ付テハ別ニ口座ヲ設クルコトヲ要ス

四　各臺帳ニハ卷頭ニ卷末ニ總括ヲ附スル卷末ニ總括ヲ附スルモノトス但シ索引及總括ハ便宜各別冊ト爲スコトヲ妨ケス

五　各臺帳ノ口座ハ公用財産ニ在リテハ土地ノ種目ニ冠シタル名稱（例ヘハ何廳、何工場、何練兵場等ノ如シ）ヲ附シ所屬官廳順ニ、營林財産又ハ雜種財産ニ在リテハ名稱ヲ附セス道府縣郡市（市ニ區アルモノニ付テハ市及區）區町村順ニ、其ノ土地ヲ其準トセサル口座ハ末尾トシ保管ノ官廳順ニ編綴スルモノトス

六　各口座ハ土地（地上權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準シ土地ノ次トス）立木竹、建物、工作物、器具機械、船舶、鑛業權（砂鑛權、鑛業權ニ準ス）、株式及持分ノ順序ニ依リ整理スルモノトス

七　各樣式ノ標題ハ公用財産ニ在リテハ口座名、營林財産及雜種財産ニ在リテハ所在地（市區町村）名又ハ保管ノ官廳名ニ依ルモノト

スト但シ所在地名ニ依ルモノハ便宜之ヲ省略スルコトヲ妨ケス

八　沿革欄ニハ臺帳登錄ニ至ル迄ノ沿革ヲ詳細ニ記入スルモノトス

九　年月日欄ニハ得喪變更其ノ他登錄ヲ要スル事由ノ發生シタル年月日ヲ記入スルモノトス

十　公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及雜種財産中寺院若ハ佛堂ノ用ニ供シ又ハ公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノニ付テハ土地ノ價格及土地ノ定著物ニ關スル記入ヲ要セサルモノトス

十一　數量ノ單位ハ別表ノ定ムル定ニ依リ單位未滿ハ之ヲ切捨ツ但シ全部單位未滿ノモノ及特ニ單位未滿ヲ存スルノ必要アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十二　口座全部消滅シタル場合ニ於テハ之ヲ除斥シ別ニ編綴保存スルモノトス

（索引）

口座	索引番號	口座	索引番號
何廳	1		
何倉庫	2		
何練兵場	3		

備考

一　營林財産及雜種財産ノ分ニ付テハ口座欄ニ在リテハ所屬官廳名ヲ入ルヘキ名稱ハ市區町村名及府縣郡名ノ所在ノ官廳ノ記入スヘキ權利ハ土地ノ上ニ存スル「地役權」其ノ他ノ權利ハ土地ノ上ニ存スル權利ハ土地ノ次トス

（土地）

土地　何

索引番號	5

種目	敷地	所在	何縣何郡何町字何々番地	沿革	何年何月民有宅地何坪買入此價格何程 何年何月何坪ヲ何省ヨリ管理換 何年何月何坪ヲ分割内務省ニ返還 舊簿坪數何坪價格何程

年月日	摘要	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	現在 數量	現在 價格	備考
大正 11. 4. 1	現在		円		円	3,500	297,545 00	樹木10 價格45圓 坪當85圓
12.10.20	買入	120	12,000 00			3,620	309,545 00	
14. 3.20	用途廢止			350	29,759 00	3,270	279,786 00	樹木2 價格9圓
16. 3.31	價格改定		79,950 00			3,270	359,740 00	樹木8 價格40圓 坪當110圓

備考

一　種目欄ニハ公用財産ノ種目ニ冠シタル名稱ハ之ヲ省略シテ記入スルモノトス

二　所在欄ニハ道府縣郡市區町村大字字地番ヲ記入スルモノトス但シ鐵道敷地其ノ他特殊ノモノニ付テハ便宜他ノ方法ニ依リ記入スルコトヲ妨ケス

三　地上權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ニ付テハ其ノ權利ノ種類ヲ欄外土地ノ右傍ニ赤書シ尚其ノ目的タル土地ノ所有者、存續期間其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ備考欄ニ記入スルノ外總テ土地ニ準シテ記入スルモノトス

四　借地上ニ國有ノ建物其ノ他ノ工作物アル場合及敷地モノ一部カ借地ナル場合ニ於テハ口座ノ初葉備考欄ニ其ノ借地ノ所在及數量ヲ記入スルモノトス

五　營林財産ニ部分林、保案林、保管林、委託林、官地民木林、官行造林等ニ付テハ各其ノ數量ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

六　雜種財産ノ賣拂又ハ交換ニ係ルモノニ付テハ其ノ賣拂價格又ハ交換差金ヲ備考欄ニ記入スルモノトス立木竹、建物等皆之ニ倣フ

（建物）

建物　　何　　索引番號　5

建物番號	~~1~~ 2	種目	事務所建	構造	~~1 木造三階建~~ 2 木造二階建	沿革	何年何月起工　何年何月竣工 何年何月　2號建坪何坪延坪何坪建增

年月日	摘要	增 數量 建坪	增 數量 延坪	增 價格	減 數量 建坪	減 數量 延坪	減 價格	現在 數量 建坪	現在 數量 延坪	現在 價格	備考
大正 11. 4. 1	現在 ~~1~~			円			円	~~230~~	~~600~~	円 ~~65,530.00~~	
	~~2~~							~~400~~	~~750~~	~~73,250.00~~	
	計							630	1.350	138,780.00	
14. 9.30	增築 2	40	70	17,500.00				440	820	90,750.00	
15. 2. 9	取毀 1				230	600	65,530.00				
16. 3.31	現在計							440	820	90,750.00	

備考

一　建物一棟毎ニ別葉トス但シ種目ノ同シキモノハ之ヲ併記スルヲ妨ケス

二　建物ニハ一口座ヲ通シテ番號ヲ附シ之ヲ建物番號欄ニ記入シ尚別ニ稱呼アルモノハ成ルヘク之ヲ附記スルモノトス

三　數棟ノ建物ヲ併記スル場合ニ於テハ其ノ番號ヲ建物番號欄ニ連記シ尚摘要欄ノ末尾ニ建物番號ヲ表示シテ一棟毎ニ記入シ計ヲ附シ增減ヲ加除スル毎ニ元記入ノ建物番號及現在欄ノ數字ヲ朱抹スルモノトス（一棟ノ建物全部消滅シタル場合ニ於テハ建物番號欄ノ當該番號及構造欄ノ當該記入事項ヲモ朱抹スルモノトス）

四　構造欄ニハ木造、鐵造、土藏造、煉瓦造、石造、人造石造、混凝土造、鐵筋混凝土造、鐵骨煉瓦造、鐵骨鐵筋混凝土造等ノ別ヲ記入シ尚平家建、二階建等ノ別及地下室又ハ屋階アルモノハ其ノ旨附記スルモノトス

五　數量欄延坪ハ地下室、屋階其ノ他ヲ含ム總延坪ヲ記入スルモノトス

六　建物ノ從物（疊、建具、窓掛等）ニ付テハ其ノ價格ヲ合算シ住宅建ニ付テハ其ノ各數量ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

（工作物、器具機械、立木竹）

工作物及器具機械（工作物）（立木竹）　　何　　索引番號　5

種目	雜工作物	構造	ハ細又分	1 揭示場 2 石炭置場 3 避雷針	沿革	1 何年何月新設 2 何年何月新設 3 何年何月新設	何年何月擴張

年月日	摘要	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	現在 數量	現在 價格	備考
大正 11. 4. 1	現在 1		円		円	1	円 85.00	
	2					1	350.00	
	~~3~~					~~4~~	~~120.00~~	
	計					6	555.00	
15. 2. 9	取毀 3			2	60.00	2	60.00	
16. 3.31	現在計					4	495.00	

備考

一　工作物、器具機械又ハ立木竹ノ各一種目毎ニ別葉トス但シ立木竹ニ付テハ材積ヲ基準トシテ其ノ價格ヲ算定シ難キモノハ其ノ數量及價格ヲ土地ノ備考欄ニ記入シテ其ノ價格ヲ土地ノ價格ニ合算スルコトヲ妨ケス

二　一種目ニ付構造又ハ細分ヲ異ニスルモノアル場合ニ於テハ成ルヘク之ヲ別葉トシ其ノ之ヲ併記スル場合ニ於テハ構造又ハ細分毎ニ番號ヲ附シ建物ノ部備考三ノ例ニ依ルモノトス

三　構造又ハ細分欄ニハ其ノ主要ナル構造別又ハ細分別ヲ適宜區分記入スルモノトス

四　數量單位二以上ニ及フモノハ本樣式ノ數量欄ヲ適宜區分シテ相當欄ヲ設クルモノトス

（船舶）

船舶　　何　　索引番號　5

種目	汽船	名稱	何丸	構造細分又ハ	木造 汽機重聯成形 汽罐、筥	他ノ尺度其ノ	長何尺 幅何尺 深何尺 登簿噸數 馬力何 何噸	沿革	何年何月購入

年月日	摘要	增 數量 隻數	增 數量 噸石數	增 價格	減 數量 隻數	減 數量 噸石數	減 價格	現在 數量 隻數	現在 數量 噸石數	現在 價格	備考
大正 11. 4. 1	現在			円			円	1	120	円 73,230 00	
15. 3.10	屬具買入			15 00				1	120	73,245 00	
15.12.20	屬具除斥						30 00	1	120	73,215 00	
16. 3.31	現在計							1	120	73,215 00	

備考

一船舶一隻毎ニ別葉トス但シ雜船ハ之ヲ併記スルヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ構造又ハ細分毎ニ番號ヲ附シ建物ノ部備考三ノ例ニ依ルモノトス

二構造又ハ細分欄ニハ其ノ主要ナル構造別又ハ細分別ヲ適宜區分記入シ尙汽船ニ付テハ汽機汽罐ノ種類及箇數ヲモ附記スルモノトス

三尺度其ノ他欄ニハ汽船ニ付テハ長幅深、馬力、登簿噸數其ノ他ニ付テハ各之ニ準シテ必要ナル事項ヲ記入スルモノトス

四屬具其ノ他ノ從物ニ付テハ其ノ價格ヲ船舶價格ニ合算シ別ニ明細目錄ノ調製アルモノヲ除クノ外其ノ名稱及數量ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

五海軍艦船ニ付テハ本樣式ニ準シ適宜之カ記入ヲ爲スモノトス

（鑛業權、砂鑛權）

鑛業權（砂鑛權）　　何　　索引番號　8

種目	何鑛山採掘鑛區	登錄番號	何府縣何權第何號	所在	何縣何郡何村大字何	沿革	何年何月許可 何年何月面積何坪減區許可

年月日	摘要	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	現在 數量	現在 價格	備考
大正 11. 4. 1	現在		円		円	8,350	円 163,000 00	
13. 5. 1	增區	430	8,600 00			8,780	171,600 00	
16. 3.31	現在計					8,780	171,600 00	

備考

一一鑛區毎ニ記入スルモノトス但シ種目ヲ同シクスルモノハ合併記入スルヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ登錄番號欄ニ番號ヲ附シテ記入シ建物ノ部備考三ノ例ニ依ルモノトス

（株式及持分）

株式及持分　　何　　索引番號　10

種目	何株式	内容	一株ノ金額　何圓 何々	沿革	何年何月何令ニ依リ取得

年月日	摘要	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	現在 數量	現在 價格	備考
大正 11. 4. 1	現在		円		円	1,000	円 1,000,000 00	
13.10.10	引受	1,0000	1,000,000 00			2,000	2,000,000 00	
16. 3.31	現在計					2,000	2,000,000 00	

備考

一　内容欄ニハ一株又ハ一口ノ金額其ノ他株式又ハ持分ノ内容ヲ示スヘキ事項ヲ詳細記入スルモノトス

（總括）

總括　　何　　所在　何縣何郡何村何字何々番地　　索引番號　5

年月日	區分	種目	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	現在 數量	現在 價格	備考
大正 11. 4. 1	土地	敷地		円		円	3,500	円 297,545 00	樹木10. 價格45圓
	建物	事務所建					1,350 630	138,780 00	
	工作物	雜工作物					6	555 00	
	船舶	汽船					1 120	73,230 00	
	計							510,110 00	
12.10.20	土地	敷地	120	12,000 00			3,620	309,545 00	買入
14. 3.20	〃	〃			350	29,759 00	3,270	279,786 00	用途廢止　樹木2. 價格9圓 樹木8. 價格36圓
14. 9.30	建物	事務所建	70 40	17,500 00					增築
15. 2. 9	〃	〃			600 230	65,530 00			取毀
〃	工作物	雜工作物			2	60 00			〃
15. 3.10	船舶	汽船		15 00					屬具買入
14年度計	建物	事務所建					820 440	90,750 00	
	工作物	雜工作物					4	495 00	
	船舶	汽船					1 120	73,245 00	

15.12.20	船舶	汽船					30	00				屬具除斥
16. 3.31	土地	敷地		79,954	00				3,270	359,740	00	價格改定　樹木 8. 價格40圓
	建物	事務所建							820 440	90,750	00	
	工作物	雜工作物							4	495	00	
	船舶	汽船					30	00	1 120	73,215	00	屬具除斥
	計									524,200	00	

備考

一　公用財産ノ分ニ在リテハ神社ノ用ニ供スルモノヲ除クノ外口座別ニ、營林財産ノ分ニ在リテハ事業區又ハ小林區別ニ、公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ又ハ雜種財産ノ分ニ在リテハ郡市別（北海道ニ於テハ支廳別ト爲スコトヲ妨ケス）又ハ保管ノ官廳別ニ別葉トシ末尾ニ合計ヲ附スルモノトス

二　各葉ニハ前項ノ區分ニ依リ標題ヲ附シ區分種目順（神社ノ用ニ供スルモノニ付テハ其ノ種目ニ拘ハラス神社ノ社格別、寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スルモノニ付テハ寺院ト佛堂トノ別）ニ依リ記入スルモノトス但シ其ノ異動ニ係ルモノハ臺帳ヲ加除スル毎ニ異動ノ順序ニ依リ記入スルコトヲ要ス

三　所在欄ノ記入ハ公用財産ノ分ニ在リテハ神社ノ用ニ供スルモノヲ除クノ外土地ノ部備考二ニ準シ其ノ他ノ分ニ在リテハ郡市名又ハ支廳名ニ止メ其ノ口座ト重複スルモノハ之ヲ省略スルモノトス

四　種目欄ニハ公用財産ノ種目ニ冠シタル名稱ハ之ヲ省略シテ記入スルモノトス

五　數量欄ニハ二ケノ數量單位アルモノニ付テハ之ヲ上下ニ併記シ數量單位ヲ異ニスル種目ノ計ハ之ヲ省略スルモノトス

六　備考欄ニハ異動ノ事由、其ノ賣拂又ハ交換ニ係ルモノニ付テハ賣拂價格又ハ交換差金ヲ記入スルノ外地上權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ニ付テハ其ノ目的物ノ數量及價格ヲ、借地及營林財産中ノ部分林、保管林、委託林、官地民木林、官行造林等ニ付テハ其ノ數量ヲ、立木竹ノ價格ヲ土地ノ價格ニ合算シタルモノニ付テハ其ノ數量及價格ヲ各之ニ記入スルモノトス

七　年度ヲ經過スル毎ニ横線ヲ劃シ其ノ年度間ニ於ケル増減ヲ種目別ニ集計記入スルモノトス但シ其ノ異動ノ簡單ナル場合ニ於テハ便宜現在欄ノ整理ヲ爲シ種目別ノ集計記入ヲ省略スルコトヲ妨ケス

八　國有財産現在額報告書調製ノ年ニ於テハ三月三十一日現在ニ依リ全部ニ渉リ區分種目順ニ改記シ其ノ年度間ニ於ケル増減ノ種目別集計ヲモ記入シ前項ノ記入ヲ省略スルモノトス此ノ場合ニ於テ價格改定ニ依ル價格ノ増減ト其ノ他ノ事由ニ依ル價格ノ増減トヲ合算セラルルトキハ其ノ内譯ヲ備考欄ニ記入スルコトヲ要ス

九　合計ハ區分別（營林財産又ハ雜種財産タル土地ニ付テハ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スルモノ及公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノヲ除クノ外區分毎種目別）ニ依リ年度ヲ經過スル毎ニ其ノ年度間ノ增減計ト共ニ之ヲ改記スルモノトス

一〇　第六項ハ異動事由ヲ除クノ外合計ニ付テモ之ヲ準用スルモノトス

（別表）

國有財産整理種目表

區分	種目	數量單位	摘要
土地			
（公用財産）			
	何敷地	坪	[illegible]
（營林財産）			
	森林	歩	
	原野	〃	
	附屬地	〃	林道、苗圃、貯木場ヲ包括スルモノトス
（雜種財産）			
	宅地	歩	
	耕地	〃	
	森林	〃	
	原野	〃	
	牧場	〃	
	池沼	〃	
	鑛泉地	〃	
	墳墓地	〃	
	海濱地	〃	
	寄洲	〃	
	雜種地	〃	他ノ種目ニ屬セサルモノヲ包括スル
	（寺院佛堂供用地）	〃	

何敷地	歩	寺院又ハ佛堂ノ名稱ヲ冠スルモノトス	
（公共團體公共用地）		公園其ノ他特有名稱アルモノハ其ノ名稱ヲ、特有名稱ナキモノハ普通名稱ヲ冠スルモノトス	
何敷地	歩		
立木竹			
樹木	（箇數）	庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ其ノ價格ヲ算定シ難キモノヲ包括スルモノトス箇數ハ概數ニ依ルヲ妨ケス	
材積	石（竹ハ束）		
建物			
事務所建	延坪	官署、學校、圖書館、病院、兵營、監獄（監房ヲ除ク）、停車場等ノ主タル建物ヲ包括スルモノトス	
住宅建	〃	官舍、合宿所等ノ主タル建物ヲ包括スルモノトス	
工場建	〃		
倉庫建	〃	上屋ヲモ包括スルモノトス	
雜屋建	〃	監房、厩舍、番小屋、物置、廊下、便所、門衛所、小使室等他ノ種目ニ屬セサルモノヲ包括スルモノトス	
門	（箇數）	木門、石門等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス	

圍障間		柵、塀、垣、生垣等ヲ包括スルモノトス	
水道	（箇數）	一式ヲ以テ一箇トス	
下水	〃	溝渠、埋下水等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	
築庭	〃	築山、置石、泉水等（立木竹ヲ除ク）ヲ一團トシ一箇所ヲ以テ一箇トス	
池井	〃	貯水池、濾水池、井戸等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス	
鋪床	〃	石敷、煉瓦敷、混凝土敷、木塊鋪、アスフアルト鋪等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス	
照明裝置	〃	電燈、瓦斯燈、弧光燈等ニ關スル設備（常時取リ外ツス部分ヲ含マス）ノ各一式ヲ以テ一箇トス	
煖房裝置	〃	煖爐、瓦斯煖爐等ヲモ包括シ各一式ヲ以テ一箇トス	
冷室裝置	〃	一式ヲ以テ一箇トス	
通風裝置	〃	一式ヲ以テ一箇トス	
消火裝置	〃	一式ヲ以テ一箇トス	
通信裝置	〃	私設電話、電鈴等ニ關スル設備ニシテ他ノ種目ニ該當セサルモノヲ包括シ各一式ヲ以テ一箇トス	
煙突	〃	獨立ノ存在ヲ有スルモノニシテ煙道等ノ設備ヲ一團トシ一基ヲ以テ一箇トス	
貯槽	〃	水槽、油槽、瓦斯槽等ヲ包括シ各其ノ箇數ニ依ル	
橋梁	〃	棧橋、陸橋等ヲモ包括シ各其ノ箇數ニ依ル	

土留	〃	石垣、柵等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス	
射場	〃	射擊場ニ於ケル諸工作物ノ一式ヲ以テ一箇トス	
岸壁	間		
隧道	哩鎖又ハ間		
軌道	〃		
輕便軌道	〃		
電信架空線	瓦長里間延長里間		
電信架空ケーブル	〃〃		
電信地下線	管路延長里間線條延長里間	同報電信線ヲ包括スルモノトス	
電信水底線	線條延長浬分	海底線、湖底線、河底線ヲ包括スルモノトス	
電話架空線	瓦長里間延長里間		
電話架空ケーブル	〃〃		
電話地下線	管路延長里間線條延長里間		
電話水底線	線條延長浬分	海底線、湖底線、河底線ヲ包括スルモノトス	
電力架空線	瓦長里間延長里間		

電力地下線	〃		
〃	〃		
電車架空線	〃〃		
氣送管路	里間		
空氣供給管路	〃		
無線電信柱	（箇數）	一式ヲ以テ一箇トス	
燈臺	〃	燈船ヲモ包括シ一箇所ヲ以テ一箇トス	
望樓	〃		
起重機	〃	定置式ノモノニ付一式ヲ以テ一箇トス	
昇降機	〃	一式ヲ以テ一箇トス	
船渠	〃	浮船渠ヲモ包括シ各一式ヲ以テ一箇トス	
竈及爐	〃	鎔鑛爐、反射爐、結晶爐、眞鍮爐等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	
原動裝置	〃	發電裝置、發動裝置、汽罐、瓦斯發生裝置等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	
變電裝置	〃	變流裝置、變壓裝置、蓄電裝置等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	
傳動裝置	〃	電動裝置、シヤフチング等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	
作業裝置	〃	除塵裝置、噴霧裝置、製鹽裝置等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	
諸標	〃	浮標、立標、信號標識等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス	
雜工作物	〃	井戸屋形、揭示場、石炭置場、馬繫場、灰捨場、避雷針、船渠等他ノ種目ニ屬セサルモノヲ包括シ各一箇所ヲ以テ一箇トス	

器具機械	（動産タルアルモノトス）		事業所ニ於ケルモノニ付テノミ適用
工場機械	〃		機織機、印刷機等工場ニ於ケル土地ニ定著セサル主タル機械ヲ包括シ各一式ヲ以テ一箇トス
車輛	〃		機關車、客車、電車、貨車、自動車等ヲ包括スルモノトス
雜機械及器具	〃		他ノ種目ニ屬セサル動産タル機械及器具ヲ包括スルモノトス
船舶			
（海軍艦船）			
戰艦	隻 噸（排水量）	〃 〃	
巡洋戰艦	〃 〃	〃 〃	
巡洋艦	〃 〃	〃 〃	
航空母艦	〃 〃	〃 〃	
水雷母艦	〃 〃	〃 〃	
敷設艦	〃 〃	〃 〃	
海防艦	〃 〃	〃 〃	
砲艦	〃 〃	〃 〃	
驅逐艦	〃 〃	〃 〃	
潛水艦	〃 〃	〃 〃	
水雷艦	〃 〃	〃 〃	
特務艦	〃 〃	〃 〃	
特務艇	〃 〃	〃 〃	
雜役船	〃 〃	〃 〃	
（普通船舶）			
汽船	隻 噸（總噸數）	〃 〃	電動船、內火船等機關ニ依リ推進スルモノヲ包括スルモノトス
帆船	隻 石	〃 〃	補助機械ヲ備フルモノヲモ包括スルモノトス
雜船	隻	〃	他ノ種目ニ屬セサル一切ノ船舶ヲ包括スルモノトス
鑛業權砂鑛權			
何鑛山何採掘鑛區	坪	特有名稱ヲ冠スルモノトス	
何鑛山何試掘鑛區	〃	〃	
株式及持分			
何會社株式	株	特有名稱ヲ冠スルモノトス	
何持分	口	〃	

備考

一　地土權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準スルモノトス

大正何年何月何日現在何省所管
何會計所屬國有財産現在額報告書

備考

一　一般會計及各特別會計毎ニ公用財産、營林財産及雜種財産ニ大別シ尙公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及國防上秘密ヲ要スルモノ、雜種財産中寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スルモノ及公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノハ各之ヲ細別シ臺帳ノ總括ニ依リテ記載スルモノトス但シ工作物及器具機械ノ種目ニ付テハ別ニ明細表ヲ作リ之カ記載ヲ省略スルコトヲ妨ケス

二　公用財産中國防上秘密ヲ要スルモノニ付テハ其ノ口座名、所在又ハ種目ノ記入ヲ省略スルモノトス

三　同一區分ニ屬スルモノ一種目ニ止ル場合ニ於テハ其ノ區分ノ記入ヲ省略スルモノトス

四　數量單位ニ關スル概括的說明ヲ備考欄ノ初頭ニ記入スルモノトス

五　地土權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準シテ記載シ尙其ノ目的物ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

六　土地ノ價格ニ立木竹ノ價格ヲ合算シタルモノニ付テハ其ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

七　借地及營林財産中ノ部分林、保安林、保管林、委託林、官地民木林、官行造林等ニ付テハ其ノ數量ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

八　管理廳毎ニ區分別ノ計（營林財産及雜種財産タル土地ニ付テハ種目別ノ計）ヲ附シ末尾ニ其ノ合計ヲ附スルモノトス但シ公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ又ハ雜種財産ニ付テハ道府縣別ノ小計ヲモ附スルコトヲ要ス

何省所管何會計所屬						
甲　公用財産						
管理廳名	口座名	所在（區分 種目）	數量	價格	備考	
何管理廳				円		
何官廳			〃	〃	數量單位ハ各欄ニ明示シタルモノヽ、外土地ハ坪、建物右方ハ建坪左方ハ延坪、船舶ハ隻、其ノ左傍ニ併記セルモノハ噸（總噸數又ハ排水量）又ハ石、材積ハ石、其ノ他ハ執レモ其ノモノニ相當スル箇數トス	
何縣何郡何村何番地	敷地	〃	〃	〃	樹木〃〃價格〃	
	建物	〃	〃	〃	〃	

事務所建	〃	〃	〃	
倉庫建	〃	〃	〃	
雜屋建	〃	〃	〃	
工作物		〃	〃	
門	〃	〃	〃	
圍障	〃	〃	〃	間
水道	〃	〃	〃	
下水	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	
船舶	〃	〃	〃	
汽船	〃	〃	〃	
帆船	〃	〃	〃	
雜船	〃	〃	〃	
何官舍		〃	〃	
何縣何郡何村何番敷地	〃	〃	〃	地上權坪數〃〃〃樹木〃〃價格〃〃〃
建物	〃	〃	〃	
住宅建	〃	〃	〃	

雜屋建	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	
何管理廳計		〃	〃	
土地	〃	〃	〃	地上權坪數〃〃價格〃〃
立木竹	〃	〃	〃	
建物	〃	〃	〃	
工作物		〃	〃	
船舶	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	
合計	〃	〃	〃	
土地	〃	〃	〃	〃〃〃〃
立木竹	〃	〃	〃	
建物	〃	〃	〃	
工作物	〃	〃	〃	
器具機械	〃	〃	〃	

船舶	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	
備考				
一　神社ノ用ニ供スルモノニ付テハ區分種目欄ヲ社格欄トス				
何省所管何會計所屬				
乙　營林財産				
管理廳名				
林區事業區名				
所在 區分 種目	數量	價格	備考	
何管理廳		円		
何小林區何事業區	〃	〃	數量單位ハ土地ハ歩、材積ハ石（竹ハ束）トス	
何郡何郡 土地	〃	〃	〃	
森林	〃	〃	〃	
原野	〃	〃	〃	
材積 竹	〃	〃	〃	
何小林區何事業區		〃	〃	
何縣何郡何郡	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	

〃	〃	〃	〃	
何管理廳計		〃	〃	
土地	〃	〃	〃	
森林	〃	〃	〃	
原野	〃	〃	〃	
附屬地	〃	〃	〃	
立木竹 竹	〃	〃	〃	
合計	〃	〃	〃	
土地	〃	〃	〃	
森林	〃	〃	〃	
原野	〃	〃	〃	
附屬地	〃	〃	〃	
立木竹 竹	〃	〃	〃	
何省所管何會計所屬				
丙　雜種財産				

管理廳名	所在	區分	種目	數量	價格	備考
何管理廳					円	數量單位ハ各欄ニ明示シタルモノヽ外土地ハ坪、建物右方ハ建坪、左方ハ延坪、船舶ハ隻、其ノ左傍ニ併記セルモノハ噸（總噸數又ハ排水量）又ハ石、材積ハ石、其ノ他ハ執レモ其ノモノニ相當スル箇數トス
何縣何市		土地		、、、	、、	
		宅地		、、、	、、	樹木、、、價格、、、
		耕地		、、、	、、	
		建物		、、、	、、	
		事務所建		、、、	、、	
		雜屋建		、、、	、、	
		工作物			、、	
		、、、		、、、	、、	
		、、、		、、、	、、	
		、、、		、、、	、、	
		、、、		、、、	、、	
何縣何郡		土地		、、、	、、	
		耕地		、、、	、、	
		雜種地		、、、	、、	
		、、、		、、、	、、	

		、、、	、、、	、、、	、、	
		、、、	、、、	、、、	、、	
		、、、	、、、	、、、	、、	
何縣小計						
		土地	、、、	、、、	、、	
		宅地	、、、	、、、	、、	樹木、、、價格、、、
		耕地	、、、	、、、	、、	
		、、、	、、、	、、、	、、	
		、、、	、、、	、、、	、、	
		、、、	、、、	、、、	、、	
		、、、	、、、	、、、	、、	
何廳汽船		、、、	、、、	、、、	、、	
		、、、	、、、	、、、	、、	
		、、、	、、、	、、、	、、	
何管理廳計						
		土地	、、、	、、、	、、	
		宅地	、、、	、、、	、、	、、、　、、、

		耕地	、、、	、、、	、、	
		、、、	、、、	、、、	、、	
		建物	、、、	、、、	、、	
		工作物				
		船舶	、、、	、、、	、、	
		、、、	、、、	、、、	、、	
合計						
		土地	、、、	、、、	、、	
		宅地	、、、	、、、	、、	
		耕地	、、、	、、、	、、	
		、、、	、、、	、、、	、、	
		建物	、、、	、、、	、、	
		工作物			、、	
		船舶	、、、	、、、	、、	
		、、、	、、、	、、、	、、	

第三號樣式（國有財産增減報告書）

大正何年度何省所管
何會計所屬國有財産增減報告書

備考

一　一般會計及各特別會計每ニ公用財産、營林財産及雜種財産ニ大別シ尙公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及國防上秘密ヲ要スルモノ、雜種財産中寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スルモノ及公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノハ各之ヲ細別シ臺帳ノ總括ニ依リテ記載スルモノトス但シ工作物及器具機械ノ種目ニ付テハ別ニ明細表ヲ作リ之カ記載ヲ省略スルコトヲ妨ケス

二　公用財産中國防上秘密ヲ要スルモノニ付テハ其ノ口座名、所在又ハ種目ノ記入ヲ省略スルモノトス

三　同一區分ニ屬スルモノ一種目ニ止ル場合ニ於テハ其ノ區分ノ記入ヲ省略スルモノトス

四　數量單位ニ關スル概括的說明ヲ備考欄ノ初頭ニ記入スルモノトス

五　增減ノ事由ハ備考欄ニ簡明ニ記入スルモノトス

六　地上權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準シテ記載シ尙其ノ目的物ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

七　土地ノ價格ニ立木竹ノ價格ヲ合算シタルモノニ付テハ其ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

八　借地及營林財產中部分林、保安林、保管林、委託林、官地民木林、官行造林等ニ付テハ其ノ數量ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

九　管理廳每ニ區分別ノ計（營林財產及雜種財產タル土地ニ付テハ種目別計）ヲ附シ末尾ニ其ノ合計及差引計ヲ附スルモノトス但シ公用財產中神社ノ用ニ供スルモノ又ハ雜種財產ニ付テハ道府縣別ノ小計ヲモ附スルコトヲ要ス

何省所管何會計所屬

甲　公用財產

管理廳名 口座名	所在 區分 種目	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	備考
			円		円	
何管理廳						數量單位ハ各欄ニ明示シタルモノノ外土地ハ坪、建物右方ハ建坪、左方ハ延坪、船舶ハ隻、其ノ左傍ニ併記セルモノハ噸（總噸數又ハ排水量）又ハ石、材積ハ石、其ノ他ハ執レモ其ノモノニ相當スル箇數トス
何官署						
何縣、、	敷地	、、	、、			購入 樹木、、價格、、
	建物	、、、、	、、	、、、、	、、	
	事務所建	、、、、	、、			新築
	倉庫建	、、、、	、、			〃
	雜屋建	、、、、	、、	、、、、	、、	增ハ新築 減ハ取毀
	工作物		、、		、、	
	門	、、	、、			增設
	園障	、、間	、、			〃
	水道	、、	、、			〃
	、、、			、、	、、	、、
何官署						
何縣、、	敷地				、、	用途廢止 樹木、、價格、、
	建物			、、	、、	用途廢止
	住宅建			、、	、、	〃
	雜屋建			、、	、、	〃
	、、、			、、	、、	〃
	、、、			、、	、、	〃

	種目	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	備考
何所管理廳計			、、		、、	
	土地	、、	、、	、、	、、	
	立木竹	、、	、、			
	建物	、、	、、	、、	、、	
	工作物		、、		、、	
	、、、	、、	、、	、、	、、	
	、、、	、、	、、	、、	、、	
合計			、、		、、	
	、、、	、、	、、	、、	、、	
	、、、	、、	、、	、、	、、	
	、、、	、、	、、	、、	、、	
差引計			、、			
	、、、	、、	、、			
	、、、	、、	、、			

備考

一　神社ノ用ニ供スルモノニ付テハ區分種目欄ヲ社格欄トス

何省所管何會計所屬

乙　營林財產

管理廳名 林區事業區名	所在 區分 種目	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	備考
			円		円	
何管理廳						數量單位ハ土地ハ步、材積ハ石（竹ハ束）トス
何小林區何事業區						
何縣何郡何郡	土地	、、	、、			
	森林	、、	、、			購入
	原野	、、	、、			〃
	材積	竹、、、 、、、	、、			〃
何小林區何事業區						
何縣何郡何郡	土地			、、	、	
	森林			、、	、	目的廢止
	材積			、、	、	〃
、、、、	、、					
、、、、、、	、、	、、	、、			
	、、	、、	、、			、、
	、、	、、	、、			、、

〃	雜屋建	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	工作物	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	何省ヨリ引受元何	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	何縣何郡土地	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	宅地	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
何敷地トシテ何省ヘ引繼	耕地	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
何省ヨリ引受元何	雜種地	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
賣拂		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
賣拂		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	何縣小計								
	土地	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	宅地	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	耕地	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

〃	何管理廳計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	合計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	差引計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

何省所管何會計所屬

丙　雜種財産

管理廳名		增		減		備考
所在	區分 種目	數量	價格 円	數量	價格 円	
何管理廳						數量單位ハ各欄ニ明示シタルモノ外土地ハ坪、建物ハ右方ハ坪、建左方ハ延坪、船舶ハ其ノ左傍ニ併隻ニ記セルモノハ噸〔總噸數又ハ排水量〕又ハ石、材積ハ石、其ノ他ハ執レモ其ノモノニ相當スル箇數トス
何縣何市土地		〃	〃	〃	〃	
	宅地	〃	〃			何省ヨリ引受元何樹木、、價格、、
	耕地			〃	〃	賣拂
	建物	〃	〃			
	事務所建	〃	〃			何省ヨリ引受元何
何廳汽船		〃	〃			
〃		〃	〃			
〃		〃	〃			
何管理廳計						
〃		〃	〃			何省ヨリ引受元何
〃		〃	〃			
〃	土地	〃	〃	〃	〃	
〃	宅地	〃	〃	〃	〃	
〃	耕地	〃	〃	〃	〃	
〃	建物	〃	〃	〃	〃	
〃	工作物					
〃	船舶	〃	〃			
〃		〃	〃			
	合計					
	土地	〃	〃	〃	〃	
	宅地	〃	〃	〃	〃	

耕地	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
建物	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
工作物	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
船舶	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
差引計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

●大藏省所管國有財産取扱規程

大正十一年四月十七日
大藏省訓令第十八號

大臣官房會計課　大臣官房臨時建築課
理財局　臨時議院建築局　造幣局　專賣局
稅關　稅務監督局　釀造試驗所
內閣會計課　印刷局　樞密院　會計檢査院
行政裁判所　貴族院　衆議院

改正　大正一三年第六號、第九號

大藏省所管國有財産取扱規程左ノ通リ定ム

目次

第一章　總則……六五六頁
第二章　得喪變更……六五七
第三章　貸付及使用許可……六六一
第四章　公有水面ノ埋立及使用……六六二
第五章　土地ノ境界及其ノ査定……六六三
第六章　臺帳及圖面……六六三
第七章　計算書及報告書……六六四
第八章　官舍……六六五
附則……六六七

第一章　總則

第一條　大藏省所管ノ國有財産ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本規程ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條　大臣官房會計課長ハ左ノ事項ヲ處理スヘシ

一　國有財産ニ關スル事務ノ管理監督ニ關スルコト

二　土地ノ買入、收用又ハ地上權、地役權若ハ之ニ準スヘキ權利ノ取得ニ關スルコト

三　交換又ハ寄附受納ニ關スルコト

四　公有財産ノ埋立及使用ニ關スルコト

五　國有財産ノ管理換ニ關スルコト

六　官廳相互間ニ於ケル國有財産ノ使用ニ關スルコト

七　部局相互間ニ於ケル國有財産ノ所屬換ニ關スルコト

八　公用財産タル土地ノ用途ノ變更ニ關スルコト

九　公用財産ノ用途ノ廢止ニ關スルコト

十　國有財産ノ貸付ニ關スルコト

十一　國有財産總括簿ノ登錄及附屬圖面ノ整理ニ關スルコト

十二　國有財産法施行令第三十六條及第三十七條ノ規定ニ依ル國有財産增減報告書及國有財産現在額報告書ノ調製送附ニ關スルコト

十三　官舍ニ關スルコト

第三條　本規程ニ於テ部局ト稱スルハ大臣官房會計課、大臣官房臨時建築課、理財局、臨時議院建築局、臨時營繕局、造幣局、專賣局、稅關、稅務監督局、釀造試驗所、內閣會計課、印刷局、樞密院、會計檢査院、行政裁判所、貴族院及衆議院ヲ謂フ

第四條　部局所屬國有財産ニ關スル事務ハ當該部局長之ヲ分掌スヘシ

第五條　部局長ハ時々其ノ所屬國有財産ノ現況ヲ視察シ特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　國有財産ノ使用ハ適當ナリヤ否ヤ

二　國有財産ノ維持保存上不完全ノ點ナキヤ否ヤ

三　瓦斯、電氣ハ漏洩ノ虞ナキヤ否ヤ

四　避雷裝置ハ其ノ效力完全ナリヤ否ヤ

五　排水施設ハ水行上支障ナキヤ否ヤ

六　土地ノ境界ニ不判明ノ點ナキヤ否ヤ

七　土地ノ境界ヲ侵害セラルル等ノコトナキヤ否ヤ

八　國有財産ハ臺帳及附屬ノ圖面ト符合スルヤ否ヤ

九　其ノ他國有財産ノ管理又ハ取締上必要ノ事項

第六條　大藏大臣ハ隨時檢査員ヲ派遣シテ部局所屬國有財産ノ現狀ヲ檢査セシムヘシ

第七條　部局所有ノ建物ハ官舍ヲ除クノ外之ニ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ居住セシムルコトヲ得ス但シ國有財産ノ管理又ハ取締上特ニ監守人ヲ置クノ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　前條但書ノ規定ニ依リ監守人ヲ置キタルトキハ左ノ事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

一　監守人設置ノ事由

二　國有財産ノ所在地名及地番

三　監守人居住建物ノ番號

四　建物內ノ一部ニ居住セシメタル場合ニハ其ノ區域ヲ示シタル圖面

五　監守人ノ官氏名又ハ住所氏名

前項ノ監守人ヲ廢シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

第二章　得喪變更

第九條　部局ニ於テ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地又ハ建物ノ買

入ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　所在地名及地番

二　用途

三　土地ノ面積又ハ建物ノ構造、種類及坪數

四　第一號地圖調製標準ニ基キ三斜線ヲ記入シタル實測圖面（數筆ノ土地ナルトキハ一筆毎ニ其ノ筆界ヲ示シ之ニ字名、地番、坪數又ハ段別ヲ記入ス）及其ノ位置ヲ示シタル地形圖又ハ第二號建物圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面

五　買入價格及其ノ單價

六　所有者ノ住所氏名

七　所有者カ公共團體ナルトキハ當該議決機關ノ議決書及當該監督官廳ノ許可書ノ謄本

八　所有者カ神社又ハ寺院ナルトキハ當該地方長官ノ許可書ノ謄本

九　其ノ他必要ノ事項

第十條　前條ノ稟請ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ土地又ハ建物ヲ買入レタルトキハ不動産登記法ノ定ムル所ニ依リ遲滯ナク其ノ登記ヲ囑託シ契約書ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ申報スヘシ

第十一條　買入ニ係ル土地ニシテ二以上ノ地番ヲ有スルモノハ其ノ地番中首位ニ在ルモノヲ以テ該地ノ地番ト爲シ（二以上ノ小字アルモノハ小字毎ニ地番ヲ付シ）不動産登記法ノ定ムル所ニ依リ地番變更ノ登記ヲ申請スヘシ

第十二條　公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地及建物以外ノ物件ノ買入ヲ爲サムトスルトキハ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得

第十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ二十噸以上ノ船舶ヲ買入レタル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　部局ニ於テ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ヲ收用セムトスルトキハ土地收用法第十三條ノ規定ニ依リ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　第九條第一號乃至第三號ニ揭クル事項

二　土地所有者ニ交渉ノ顚末

三　事業計畫書

四　第一號地圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面

五　土地所在者ノ住所氏名

六　其ノ他必要ノ事項

第十四條　部局ニ於テ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ノ交換ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　交換ヲ要スル事由

二　兩地ノ所在地名、地番及面積、建物以外ノ土地ノ定著物アルトキハ其ノ種目及數量

三　國有財産法施行令第十一條ノ規定ニ依リ作成シタル價格評定調書

四　第九條第六號乃至第八號ニ揭クル事項

五　所有者ノ承諾書又ハ其ノ願書

六　交換差金ヲ要スルトキハ其ノ金額及納入又ハ支拂ノ時期

七　用途及期間ヲ指定シテ交換ヲ爲ス場合ニハ其ノ用途、始期、期間及國有財産法第八條ニ基ク契約解除ニ關スル必要ノ條件

八　交換セムトスル國有地カ元國有林野ヲ編入シタルモノナルトキハ關係大林區署ヘ協議濟書類ノ謄本

九　交換セムトスル土地カ收用ニ依リ取得シタルモノニシテ土地收用法第六十六條ノ規定ニ依リ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買戻權ヲ有スルモノナルトキハ其ノ權利ノ拋棄ヲ證スル書面

十　第一號地圖調製標準ニ基キ三斜線ヲ記入シタル兩地ノ實測圖面（數筆ノ土地ナルトキハ一筆毎ニ其ノ筆界ヲ示シ之ニ字名、地番、坪數又ハ段別ヲ記入ス）及其ノ位置ヲ示シタル地形圖

十一　其ノ他必要ノ事項

第十五條　部局ニ於テ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　寄附ヲ受クルノ事由

二　所在地名及地番

三　寄附物件ノ名稱、種類、數量及價格

四　條件アルモノハ其ノ條件

五　寄附者ノ住所氏名

六　第九條第四號、第七號及第八號ニ揭クル事項

七　寄附者ノ願書

八　其ノ他必要ノ事項

第十六條　第十條及第十一條ノ規定ハ前三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ買入、交換又ハ寄附ヲ受ケムトスル場合ニ於テ其ノ目的物ニ對シ物權ノ設定又ハ特殊ノ義務アルモノハ豫メ所有者又ハ其ノ他ノ權利者ヲシテ之ヲ消滅セシムルコトヲ要ス

第十八條　部局ニ於テ地上權又ハ之ニ準スヘキ權利ヲ取得シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ申報スヘシ

一　第九條第一號及第三號ニ揭クル事項

二　權利取得ノ目的

三　存續期間

四　地代ヲ拂フヘキトキハ其ノ金額及支拂ノ時期

五　第一號地圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面

六　契約及登記濟ノ年月日

七　土地所有者ノ住所氏名

八　其ノ他必要ノ事項

第十九條　部局ニ於テ地役權ヲ取得シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ申報スヘシ

一　要役地及承役地

二　地役權取得ノ目的

三　地役權ノ範圍

四　前條第三號、第五號及第六號ニ揭クル事項

五　承役地所有者ノ住所氏名

六　其ノ他必要ノ事項

第二十條　部局ニ於テ國有財産ノ管理換ヲ受ケ又ハ其ノ管理換ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　管理換ヲ要スル事由
二　第九條第一號及第二號ニ掲クル事項
三　種目、數量及價格
四　第一號地圖調製標準又ハ第二號建物圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面
五　關係官廳ト協議濟書類ノ謄本

第二十條ノ二　公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ河川、堤塘、溝渠等公共用財産ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ當該府縣知事及所轄稅務監督局長ニ協議シ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ管理換ヲ受ケタルトキハ前條第一號乃至第三號ノ事項ヲ記シ同條第四號及第五號ノ書類ヲ添附シ直ニ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

第二十一條　部局ニ於テ他廳ノ國有財産ヲ使用シ又ハ部局所屬ノ國有財産ヲ一時他廳ニ供用セムトスルトキハ第二十條各號ノ事項ノ外其ノ使用又ハ供用ノ目的及期間其ノ他必要ノ條件ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得

一　一月以内ノ期間ヲ以テ使用又ハ供用ヲ爲サムトスルトキ
二　公共用財産ノ使用ヲ爲サムトスルトキ

第二十二條　甲乙部局間ニ於テ公用財産ノ所屬換ヲ爲サムトスルトキハ第二十條ニ掲クル事項ヲ具シ兩部局長連署ヲ以テ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二十三條　甲乙部局間ニ於ケル公用財産ノ使用ハ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第九條第一號及第二號ニ掲クル事項竝其ノ種目、數量ヲ記シ一部ノ使用ニ係ルモノハ其ノ區域ヲ示シタル圖面ヲ添附シ供用部局長ヨリ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ其ノ之ヲ返還シタルトキ亦同シ但シ一月以内ノ使用ハ此ノ限ニ在ラス

使用部局ニ於テ供用部局ト協議シ其ノ使用ニ係ル國有財産ノ現形ヲ變更シタルトキハ元形圖ニ掛紙ヲ以テ之ヲ表示シ供用部局長ヨリ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

第二十四條　公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ但シ用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノハ此ノ限ニ在ラス

一　用途廢止ノ事由
二　第九條第一號及第二十條第三號ニ掲クル事項
三　土地、建物其ノ他ノ工作物ナルトキハ第一號地圖調製標準又ハ第二號建物圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面

第二十四條ノ二　左ノ場合ニハ前條ノ稟請ヲ要セス第四號書式ノ調書ヲ添附シ事前ニ之ヲ大藏大臣ニ申告スヘシ

一　取毀ノ目的ヲ以テ建物其ノ他ノ工作物ノ用途ヲ廢止セムトスルトキ
二　小蒸汽船、雜船、浮標及浮棧橋ノ用ヲ廢止セムトスルトキ

第二十五條　公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ國有財産法施行規則第一條ノ規定ニ該當スルモノハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　用途變更ノ事由
二　第九條第一號、第十三條第四號及第二十條第三號ニ掲クル事項

第二十六條　天災其ノ他ノ事故ニ因リ國有財産ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ申報スヘシ但シ其ノ輕微ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　所在地名及地番
二　亡失又ハ毀損ノ原因
三　被害物件ノ種目及數量
四　損害見積價格及復舊費見込額

第三章　貸付及使用許可

第二十七條　國有財産法第四條但書ノ規定ニ依リ公用財産ノ用途ヲ妨ケサル限度ニ於テ有料又ハ無料ニテ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ契約書案ヲ添附シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

前項ノ契約書案ニハ左ノ事項ヲ掲クヘシ

一　第九條第一號及第二十條第三號ニ掲クル事項
二　貸付期間
三　有料ナルトキハ其ノ貸付料及其ノ納付期限
四　貸付財産ニ對スル使用ノ目的及其ノ制限
五　貸付財産ノ修理及其ノ費用負擔ノ方法
六　契約違反ノ場合ニ於ケル處分ノ條件
七　借受人ノ住所氏名
八　其ノ他必要ノ條件

隨意契約ニ依リ貸付セムトスル場合ニハ國有財産法施行令第二十一條ノ規定ニ依リ作成シタル評定調書ヲ添附スヘシ

第二十八條　部局敷地内ニ電線ヲ架設シ又ハ電柱ヲ建設シ若ハ其ノ地下ニ水道管、瓦斯管、其ノ他ノ工作物ヲ設置セムコトヲ出願シタル者アルトキハ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得

第二十九條　前條ノ規定ニ依リ國有財産ヲ使用セシメタルトキハ當該部局長ハ第二十七條ニ掲クル事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

第三十條　國有財産法施行令第二十條ノ規定ニ依リ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ヲ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付セムトスルトキハ第二十七條ノ例ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第三十條ノ二　公用財産ハ左ニ掲クル場合ニ限リ其ノ用途ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

一　直接又ハ間接ニ部局ノ便宜トナルヘキ事業ノ爲ニ使用セムトスルトキ
二　公共團體ニ於テ公共用、公用又ハ公益事業ノ爲ニ使用セムトスルトキ

前項使用許可ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十條ノ三　部局長公用財産ノ使用ヲ許可セムトスルトキハ命令書案ヲ添附シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

前項ノ命令書案ハ第二十七條第二項ノ例ニ準シ之ヲ作成スヘシ

使用許可ノ期間滿了ノ場合ニ於テ引續同一條件ヲ以テ其ノ使用ヲ許可セムトスルトキハ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

第三十條ノ四　第二十七條ノ契約書案及前條ノ命令書案ニハ第一號地圖調製標準及第二號建物圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面ヲ添附スヘシ

第四章　公有水面ノ埋立及使用

第三十一條　部局ニ於テ公有水面ノ埋立ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　所要ノ目的及其ノ事由

二　所在地名

三　工法ノ概略及圖面

四　埋立面積

五　第一號地圖調製標準ニ基キ埋立區域ニ三斜線ヲ記入シタル實測圖面及其ノ位置ヲ示シタル一般ノ地形圖但シ海面ハ海圖ニ依ルコトヲ要ス

六　當該府縣知事ト協議濟書類ノ謄本

七　其ノ他必要ノ事項

前項第四號ノ埋立面積ハ潮汐干滿ノ差アル水流、水面ニ在リテハ春分及秋分ニ於ケル滿潮位其ノ他ノ水流、水面ニ在リテハ高水位ヲ基點トシテ之ヲ計算スヘシ

第三十二條　公有水面埋立工事竣工シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ當該府縣知事ニ通知シ前條第一項第二號、第四號及第五號ニ掲クル事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

第三十三條　埋立地ノ護岸又ハ岸壁ノ改築等ノ爲水陸ノ交界ニ變更ヲ及ホス工事ニ付テハ工事施行前當該府縣知事ニ之ヲ協議スヘシ

第三十四條　部局ニ於テ公有水面ノ一部ヲ使用セムトスルトキハ當該府縣知事ニ協議シ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

一　使用ノ目的

二　所在地名及使用面積

三　工作物ノ施設ヲ要スルモノハ其ノ種類、工法ノ概略及圖面

四　第一號地圖調製標準ニ基キ其ノ區域ヲ示シ之ニ三斜線ヲ記入シタル實測圖面及其ノ位置ヲ示シタル一般ノ地形圖但シ海面ハ海圖ニ依ルコトヲ要ス

第三十五條　部局ニ於テ河川法施行ノ河川ニ對シ同法第十七條乃至條十九條ニ記載シタル行爲ヲ爲サムトスルトキハ當該府縣知事ニ協議シ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

一　前條第一號乃至第三號ニ掲クル事項

二　第一號地圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面

第五章　土地ノ境界及其ノ査定

第三十六條　公用財産タル土地ノ境界線上必要ノ箇所ニハ成ルヘク不朽ノ物質ヲ以テ其ノ界標ヲ建設スヘシ

第三十七條　國有財産法施行令ノ規定ニ依リ部局ニ於テ公用財産タル土地ノ境界査定ヲ施行シタルトキハ其ノ境界ノ保存上必要ト認ムル箇所ニハ境界査定標ヲ建設シ當該部局長ハ左ノ事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

一　所在地名及地番

二　土地ノ種目

三　査定圖ノ謄本

四　境界査定終了ノ年月日

五　隣地所有者ノ住所氏名但シ隣地所有者之ニ立會ハサリシトキハ其ノ事由

前項ノ境界査定ニ對シ行政裁判所ニ出訴シタル者アルトキハ直ニ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ其ノ判決アリタルトキ亦同シ

第六章　臺帳及圖面

第三十八條　部局長ハ其ノ所屬國有財産ノ臺帳ヲ備フヘシ

第三十九條　國有財産法施行規則第三條ノ規定ニ依リ國有財産ノ臺帳ニ附屬セシムヘキ土地ノ圖面ハ第一號地圖調製標準ニ基キ、建物ノ圖面ハ第二號建物圖調製標準ニ基キ、國有財産法施行令第一條第四號ニ掲クル權利ニ關スル圖面ハ土地ノ圖面ニ準シ之ヲ調製スヘシ

前項ノ圖面ハ臺帳ノ一口座毎ニ順次編綴シ其ノ索引番號ヲ附シ之ヲ整理スヘシ

第四十條　臺帳ニ登錄スヘキ土地ノ面積ハ總テ實測面積ニ依ルヘシ

第四十一條　國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ建物其ノ他ノ工作物ノ建築費ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一　請負ノ場合ニハ其ノ請負金額、交付材料アルトキハ其ノ買入價格又ハ見込價格ヲ加ヘタルモノ但シ敷地地平均、砂利敷、障害物除却其ノ他之ニ類スル工費ハ之ヲ控除ス

二　直營ノ場合ニハ其ノ直接工費但シ前號但書ノ工費及剩餘材料ノ價格ハ之ヲ算入セス

三　全部ノ改築又ハ移築ノ場合ニハ之ニ使用シタル舊材料ノ見込價格ニ改築又ハ移築費ヲ加ヘタルモノ

四　一部改築ノ場合ニハ其ノ建物其ノ他ノ工作物ノ價格ヨリ取拂部分ノ價格又ハ見込價格ヲ控除シ之ニ使用シタル舊材料ノ見込價格及其ノ改築費ヲ加ヘタルモノ

五　一部移築ノ場合ニハ其ノ建物其ノ他ノ工作物ノ價格ヨリ取拂部分ノ價格又ハ見込價格ヲ控除シタルモノヲ現存建物其ノ他ノ工作物ノ價格トシ、移築ノ爲ニ使用セル舊材料ノ見込價格ニ移築費ヲ加ヘタルモノヲ移築建物其ノ他ノ工作物ノ價額トス

第四十二條　國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ水面埋立ニ係ル土地ノ價格ハ前條第一號又ハ第二號ノ規定ニ準シ之ヲ算定スヘシ但シ前條第一號但書ノ工費ハ之ヲ加算スルモノトス

第四十三條　國有財産ノ臺帳ハ左ノ證憑書ニ依リ之ヲ登錄スヘシ

一　購入又ハ交換ニ係ルモノハ其ノ契約書

二　土地ノ收用ニ係ルモノハ收用審査會ノ裁決書ノ謄本

三　寄附ヲ受ケタルモノハ寄附者ヨリ提出シタル書類
四　管理換ニ係ルモノハ當該官廳ノ引渡書又ハ其ノ受領書
五　甲乙部局間ニ於ケル公用財産ノ所屬換ニ係ルモノハ當該部局ノ引渡書又ハ其ノ受領書
六　公用財産ノ用途ヲ廢シ大藏大臣ニ引繼キタルモノハ其ノ受領書
七　建物其ノ他ノ工作物ノ新築、增築、改築、移築ニシテ請負ニ係ルモノ又ハ船舶ノ新造ニ係ルモノハ其ノ契約書
八　直營工事ニ係ルモノハ其ノ竣工明細書
九　國有財産ノ亡失、解崩其ノ他前各號ニ掲ケサル事項ニ付テハ其ノ關係書類

前項ノ證憑書ニハ國有財産臺帳ニ登錄濟ノ年月日ヲ記載シ主任官吏之ニ認印スヘシ

第四十四條　國有財産ニ增減異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度直ニ之ヲ臺帳ニ登錄シ同時ニ附屬ノ圖面ヲ更正スヘシ

第四十五條　部局長ハ國有財産臺帳ノ外別ニ其ノ修理簿ヲ備ヘ國有財産ニ修理ヲ加ヘタルトキハ其ノ時々左ノ事項ヲ登錄スヘシ但シ作業會計及造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　所在地名及地番
二　國有財産ノ種目及數量
三　修理ヲ加ヘタル事項及其ノ事由
四　作理ノ費用
五　工事著手及竣工ノ年月日

前項修理ノ費用ハ國有財産ノ臺帳ニハ之ヲ登錄セス

第七章　計算書及報告書

第四十六條　部局長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲計算證明規程ニ依リ國有財産ノ增減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添附シ所定ノ期間內ニ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第四十七條　部局長ハ國有財産法施行規則第三號樣式ニ依リ每會計年度間ニ於ケル國有財産增減報告書ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ之ヲ大臣官房會計課長ニ送付スヘシ

國有財産ノ所在地名ニ變更ヲ生シ又ハ同一敷地內ニ於テ國有財産ヲ移轉シ若ハ建物ノ內部ニ變更ヲ加ヘタルトキハ其ノ報告書ヲ前項ノ國有財産增減報告書ト同時ニ大臣官房會計課長ニ送付スヘシ

第四十八條　部局長ハ國有財産法施行規則第二號樣式ニ依リ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年六月三十日迄ニ之ヲ大臣官房會計課長ニ送付スヘシ

第四十九條　前二條ノ報告書ニハ第一號地圖調製標準、第二號建物圖調製標準及第三號地圖建物圖更正標準ニ基キ調製シタル實測圖ヲ添附スヘシ但シ前條ノ國有財産現在額報告書ニ添附スヘキ圖面ニシテ前回ノ報告ニ對シ異動ナキモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ圖面ノ添附ヲ省略シタルトキハ報告書中ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第八章　官舍

第五十條　部局ニ於テ新築ノ官舍ヲ貸付セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　所在地名及地番
二　敷地坪數
三　官舍ノ棟數及其ノ一住居每ノ坪數
四　建築費ニ對スル年八分ノ割合ヲ以テ宿代ヲ査定シ一住居每ニ其ノ年額ト月額トヲ區分シタル宿代調書
五　第一號地圖調製標準及第二號建物圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面

第五十一條　部局所屬在來ノ建物ヲ以テ新ニ官舍ヲ設置セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ建物ヲ借入レ官舍ヲ設置セムトスル場合亦同シ

一　官舍設置ヲ必要トスル事由
二　前條第一號乃至第三號及第五號ニ掲クル事項
三　評價額ニ對スル年八分ノ割合ヲ以テ宿代ヲ査定シ一住居每ニ其ノ年額ト月額トヲ區分シタル宿代調書

前項第三號ノ評價額ハ二人以上ノ評價人ヲシテ評價ヲ爲サシメ其ノ平均額ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十二條　前二條ノ稟請書ニハ其ノ敷地ニ付當該府縣ニ於テ調査シタル地料ノ年額及其ノ單價調ヲ添附スヘシ但シ建物ヲ借入レ官舍ヲ設置セムトスル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　部局所屬官舍中官舍貸渡規則第一條但書ノ規定ニ依リ公用間席ヲ設置セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　居住者ノ職務上公用間席ノ設置ヲ必要トスル事由
二　所在地名、地番及其ノ官舍ノ番號
三　第五十一條第三號ニ掲クル宿代調書及第二號建物圖調製標準ニ基キ區畫ヲ示シタル實測圖面

第五十四條　前條ノ規定ハ左ノ場合ニ之ヲ準用ス

一　公用間席ヲ變更シ又ハ廢止セムトスルトキ
二　官舍ヲ分割シ又ハ合併セムトスルトキ

第五十五條　官舍貸渡規則第三條ノ規定ニ依リ官舍宿代ヲ改正セムトスルトキハ第五十一條第二項ノ例ニ依リ定メタル評價額ニ對スル年八分ノ割合ヲ以テ宿代ヲ査定シ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得

第五十五條ノ二　部局長前條ノ規定ニ依リ官舍宿代ヲ改正シタルトキハ第五十條第一號及第三號ニ掲クル事項ヲ記シ第五十一條第一項第三號ノ例ニ依リ調製シタル宿代調書ヲ添附シ直ニ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

前項宿代調書ニハ前回分ノ宿代月額ヲ記載シ改正宿代月額ト對比シ其ノ增減ノ割合ヲ示スヘシ

第五十六條　官舍ノ增築、改築、一部取毀其ノ他大修繕ニ因リ建物ニ著シキ變更ヲ生シタルトキハ評價期間中ト雖前條ノ例ニ準シ其ノ宿代ノ改正ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第五十七條　貸渡官舍ヲ一旦返納セシメ之ニ大修繕ヲ加ヘ更ニ之ヲ

貸渡サムトスルトキハ其ノ修繕費ヲ宿代算出ノ基礎タル建築費又ハ評價額ニ加算シ第五十五條及第五十五條ノ二ノ例ニ依リ部局長限リ其ノ宿代ヲ改正シ直ニ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ宿代ヲ改正シタルトキハ其ノ評價期間ハ前回評價ノ時ヨリ之ヲ起算スヘシ

第五十八條　部局長ハ官舍臺帳ヲ備ヘ一住居毎ニ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

一　所在地名及地番
二　敷地坪數
三　地料年額及其ノ單價
四　官舍ノ番號及其ノ坪數（階上ト階下トヲ區別ス）但シ公用間席ノ設置アルモノハ其ノ坪數
五　宿代算出ノ基礎ト爲シタル建築費又ハ評價額
六　宿代ノ年額及其ノ月額
七　建築又ハ評價ノ年月日
八　評價期間
九　居住者ノ官氏名
十　貸付及返納ノ年月日

第五十九條　部局所屬ノ官舍ハ他廳ノ官吏ニ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第六十條　貸付ノ官舍ハ借受人ノ家族及雇人ノ外他人ヲ同居セシムルコトヲ得ス

第六十一條　貸付ノ官舍ハ借受人ニ於テ一切其ノ原形ヲ變更スルコトヲ得ス

第六十二條　官舍貸渡規則第七條ノ規定ニ依リ官舍借受人ニ於テ自費建設ノ出願アルトキハ左ニ掲クル事項ニ限リ必要ノ條件ヲ附シ部局長限リ之ヲ許可スルコトヲ得

一　十坪未滿ノ建物及其ノ他ノ工作物ヲ假設スルトキ
二　瓦斯、電燈又ハ水道ヲ假設スルトキ
三　樹木ノ栽植ヲ爲ストキ

前項ノ規定ニ依リ之ヲ許可シタルトキハ其ノ物件ノ種類、數量、許可ノ條件及年月日竝其ノ位置ヲ表示シタル圖面ヲ添附シ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ其ノ物件ヲ撤去シタルトキ亦同シ

第六十三條　官舍ヲ貸付シタルトキハ部局長ハ第五十八條第一號、第二號及第九號ニ掲クル事項竝貸付ノ年月日ヲ當該府縣知事ニ通知スヘシ其ノ之ヲ返納シタルトキ亦之ニ準ス

第六十四條　官舍ヲ貸付シタル場合ニ於テ官舍居住者ヨリ寄留ノ届書ヲ差出シタルトキハ當該部局長ハ寄留手續令ニ依リ其ノ届書ニ家屋ノ管理人タル旨ヲ記載シ記名捺印ノ上之ヲ居住者ニ返付スヘシ

第六十五條　貸付ノ官舍ヲ返納シタル場合ニ於テ居住者退去ノ後二十日以内ニ原寄留地ノ市町村長ヨリ其ノ通知ヲ受ケサルトキハ當該部局長ハ寄留手續令第三十七條ノ期間内ニ原寄留地ノ市町村長ニ居住者退去ノ旨ヲ届出ツヘシ

第六十六條　官舍借受人ノ故意又ハ過失ニ因リテ貸付ノ官舍及其ノ附屬物ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ當該部局長ハ其ノ事實ヲ詳具シ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ申報スヘシ

第六十七條　貸付ノ官舍返納ノ場合ニ於テハ借受人立會ノ上之ヲ檢査シ異狀ナキヲ認メタル後之ヲ受取ルヘシ

第六十八條　官舍ヲ廢止シタルトキハ其ノ事由竝第五十八條第一號及第四號ニ掲クル事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

第六十九條　第五十八條乃至第六十二條及第六十四條乃至第六十八條ノ規定ハ官舍貸渡内規ニ依ル官舍ニ之ヲ準用ス

附　則

第七十條　本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第七十一條　部局長ハ國有財産法施行規則第二號樣式ニ基キ大正十一年四月一日ノ現在ニ於ケル部局所屬國有財産現在額報告書ヲ調製シ大正十一年七月三十一日迄ニ之ヲ大臣官房會計課長ニ送付スヘシ

前項ノ報告書ニハ國有財産臺帳編綴順序ニ編綴シタル各口座總括ノ謄本竝第一號地圖調製標準及第二號建物圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面ヲ添附スヘシ

第七十二條　大正十年度第二期官有財産增減異動報告書ハ從前ノ例ニ依リ之ヲ大臣官房會計課長ニ送付スヘシ

第七十三條　明治四十四年大藏省訓令第二十一號大藏省所管官有財産取扱規程ハ大正十一年三月三十一日限リ之ヲ廢止ス

第一號　地圖調製標準

第六章　國有財産

第一條　地圖ハ其ノ土地ノ廣狹形狀及方位ヲ測度シ境界ヲ明ニシ國有財産臺帳ノ一口座毎ニ之ヲ調製スヘシ

第二條　地圖ノ縮尺ハ左ノ標準ニ從フヘシ

一　面積五千坪未滿ハ縮尺三百分ノ一（二分ヲ以テ一間トス）
二　面積五千坪以上一萬坪未滿ハ縮尺四百分ノ一（一分五厘ヲ以テ一間トス）
三　面積一萬坪以上ハ縮尺六百分ノ一（一分ヲ以テ一間トス）

第三條　地圖ニハ其ノ方位ヲ明示スヘシ

第四條　地圖ニハ左ニ掲クル記號ニ依リ現在ノ建物、門、圍障、築庭、樹木、池井、水道、下水、橋梁等ヲ登載シ其ノ位置形狀ヲ明示スヘシ

一木造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ樺色ヲ以テ色取リタルモノ
一木造洋式建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ二重ニ畫キ樺色ヲ以テ色取リタルモノ
一土藏造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ薄墨色ヲ以テ色取リタルモノ
一木骨煉瓦造建物　木造建物ノ符合ノ周邊ニ更ニ薄紅色ヲ加ヘタルモノ
一木骨石造建物　木造建物ノ符合ノ周邊ニ更ニ薄墨色ヲ以テ色取リタルモノ
一煉瓦造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ薄紅色ヲ以テ色取リタルモノ

一石造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ二重ニ畫キ薄墨色ヲ以テ色取リタルモノ
一鐵造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ薄藍色ヲ以テ色取リタルモノ
一鐵骨造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ薄紫色ヲ以テ色取リタルモノ
一鐵筋コンクリート造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ帶黑黃色ヲ以テ色取リタルモノ
一建物層階ノ區別　二階ハ墨ニテ數條ノ平行斜線、三階ハ墨ニテ數條ノ縱横平行斜線
一木造門　樺色
一煉瓦造門　薄紅色
一石造門　薄墨色
一鐵造門　薄藍色
一鐵筋コンクリート造門　帶黑黃色
一生垣　綠色ノ線
一竹垣　綠色ノ斷絶線
一木柵　樺色ノ斷絶線
一鐵柵　薄藍色ノ斷絶線
一板塀　樺色ノ線
一土塀　薄墨色ノ線
一石塀　薄墨色ノ平行線
一煉瓦塀　薄紅色ノ線

一鐵筋コンクリート塀　帶黑黃色ノ線
一下水（常ニ水アルモノ）　墨ニテ其ノ兩邊ヲ畫キ藍色ヲ以テ色取リタルモノ
一下水（常ニ水ナキモノ）　墨ニテ其ノ兩邊ヲ畫キ藍色ノ線ヲ中間ニ加ヘタルモノ
一下水（常ニ水アリテ木蓋アルモノ）　墨ニテ其ノ兩邊ヲ畫キ樺色ヲ以テ色取リ更ニ中間ニ藍色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ但シ常ニ水ナキモノハ中間ノ虛線ヲ除ク
一下水（常ニ水アリテ石蓋アルモノ）　墨ニテ其ノ兩邊ヲ畫キ薄墨色ヲ以テ色取リ更ニ中間ニ藍色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ但シ常ニ水ナキモノハ前例但書ニ倣フ
一木造埋下水　樺色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ薄墨色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一煉瓦埋下水　薄紅色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ薄墨色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一石造埋下水　薄墨色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ薄墨色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一土管埋下水　茶色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ薄墨色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一コンクリート埋下水　帶黑黃色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ薄墨色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一木造水道管　樺色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ藍色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ

一鐵造水道管　薄藍色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ藍色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一井（樋側）　樺色ニテ其ノ周邊ヲ畫キ藍色ヲ以テ色取リタルモノ
一井（石又ハコンクリート、鐵筋コンクリート）　薄墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ藍色ヲ以テ色取リタルモノ
一井（水道又ハ吹井）　以上二種ノ中央ニ薄墨色ノ小圈ヲ畫キタルモノ
一芝生　薄綠色（緣ナシ）
一樹木　大小ニ從テ其ノ形ヲ畫キ綠色ヲ加ヘ陰ヲ付ケタルモノ
一池　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ薄藍色ヲ以テ色取リタルモノ
一堤　墨ニテ其ノ底邊及頂邊ヲ畫キ陰ヲ付ケ薄墨色ヲ以テ色取リタルモノ
一石垣　庭石其ノ他類　墨ニテ其ノ外邊ヲ畫キ薄墨ヲ以テ色取リタルモノ
一電燈綠　黃色ヲ以テ支柱ト電燈綠トヲ畫ケルモノ但シ支柱ハ其ノ位置ニ從フ
一電燈　徑五厘以下黃色「火」ノ字ノ隸書
一瓦斯管　朱色ノ虛綠ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ朱色ノ虛綠ヲ加ヘタルモノ
一瓦斯燈　徑五厘以下ノ朱色「火」ノ字ノ隸書
一露燈　徑五厘以下ノ薄紅色「火」ノ字ノ隸書

一電綠支柱　電綠ニテ支柱ト電綠トヲ畫ケルモノ但シ支柱ハ其ノ位置ニ從フ
一軌道　軌距ノ廣狹ニ應シ薄藍色ノ平行線
一煉瓦造煙突　大小形狀ニ從ヒ墨ニテ周邊ヲ畫キ其ノ周邊ニ薄紅色ヲ加ヘ內部ヲ墨色ニ色取リタルモノ
一鐵造煙突　大小形狀ニ從ヒ墨ニテ周邊ヲ畫キ其ノ周邊ニ薄藍色ヲ加ヘ內部ヲ墨色ニ色取リタルモノ
一鐵筋コンクリート煙突　大小形狀ニ從ヒ墨ニテ周邊ヲ畫キ其ノ周邊ニ帶黑黃色ヲ加ヘ內部ヲ墨色ニ色取リタルモノ
一木橋　樺色
一石橋　薄墨色
一鐵筋コンクリート橋　帶黑黃色
一鐵橋　薄藍色
一土橋　薄墨色ヲ以テ外邊ヲ色取リタルモノ
一木造地上境界標　徑五厘以下ノ樺色斜方十字形
一石造地上境界標　徑五厘以下ノ薄墨色斜方十字形
一木造地中境界標　徑五厘以下ノ樺色斜方虛綠十字形
一石造地中境界標　徑五厘以下ノ薄墨色斜方虛綠十字形
一敷地境界綠　朱綠
一水流ノ方向　墨ニテ箭形ヲ畫キ其ノ方向ヲ示ス

前項ニ記號ナキモノハ適宜記號ヲ設ケテ之ヲ圖上ニ表示シ其ノ凡例ヲ示スヘシ

第五條　地圖ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　府縣郡市區町村名字名及地番
二　種目（何々敷地）及縮尺（何百分ノ一）（ト記入ス）
三　縮尺ハ圖面ノ底部ニ間ヲ單位トシタル尺度
四　實測面積
五　敷地周圍ノ間數
六　基線ヲ設ケ其ノ基線ノ方位角度及各邊ノ内角
七　測量ノ年月日
八　測量ノ方法、器械ノ種類
九　測量ニ使用セシ尺ノ單位及之ヲ間數ニ改算セル數率
十　測量者及製圖者ノ官氏名（官吏ニ非サル者ハ其ノ住所氏名）

第六條　實測面積ハ總テ坪數ヲ以テ計算シ才以下ノ端數ハ記入ヲ要セス

第七條　地圖ニハ其ノ境界ヲ明確ナラシムル爲境界標ノ位置ヲ表示シ其ノ近傍ニ於テ天然若ハ人造ノ固定物アルモノハ（其ノ物質名稱ヲ記入ス）該境界標ト、固定物トノ距離方角ヲ記載スヘシ

第八條　地圖ニハ周邊ノ地形即チ山岳、丘陵、森林、原野、河海、湖沼、池澤、溝渠、堤塘、道路、市街、村落、田畑、橋梁、其ノ他神社、佛閣等ノ如キ著シキモノハ其ノ概略ヲ模寫シ名稱地名ヲ掲クヘシ

第九條　圖上ノ建物ニハ總テ國有財産ノ臺帳ニ登錄ノ番號ヲ記シ第二號建物製圖標準ニ基キ調製シタル建物明細圖及臺帳ト對照セシムヘシ

第十條　地圖ニハ其ノ地方刊行ノ地圖ニ基キ其ノ敷地ノ位置ヲ示シタル附近ノ地形圖（重ナルモノノ名稱及地名ヲ記載ス）ヲ添附スヘシ
前項敷地ノ位置ハ朱線ニテ之ヲ示シ其ノ傍ニ其ノ種目（何々敷地）ヲ朱記スヘシ

第十一條　地圖ニ記載スル文字ハ總テ楷書ヲ用フヘシ

第十二條　測量原簿又ハ測量原圖ハ地圖ト共ニ保存スヘシ

第十三條　製圖用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用フヘシ

第二號

建物圖調製標準

第一條　建物圖ハ平面圖トシ其ノ縮尺ハ二百分ノ一トス（三分ヲ以テ一間トス）

第二條　建物層階ノ部分ハ掛紙（貼附ノ箇所ニハ主任官吏ノ契印ヲ要ス）ニ畫クヘシ

第三條　建物ハ總テ其ノ周圍ノ間數ヲ記入スヘシ

第四條　建物ノ坪數ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算スヘシ
一　煉瓦造、石造、コンクリート造、鐵筋コンクリート造其ノ他厚壁ヲ有スル建物ハ其ノ外壁ノ中心トシ控壁、片蓋柱等ハ之ヲ算入セス
二　木造、土造及鐵造ハ柱中心
三　庇ノ坪數ハ第一號ノ建物ニ在リテハ其ノ外壁ノ中心第二號ノ建物ニ在リテハ柱中心ヨリ庇柱若ハ軒桁中心迄ノ距離及腕木又ハ梁眞ノ距離ノ相乘積但シ霧除庇ハ之ヲ除ク

第五條　建物ハ各室毎ニ其ノ坪數（坪數ハ總テ壁ノ中心ニテ計ル）ヲ記入スヘシ

第六條　建物ハ總テ臺帳ニ登錄ノ番號ヲ記入シ地圖ニ登載セル番號ト對照セシムヘシ
前項建物番號ノ外官舍又ハ倉庫ノ如キ別ニ番號アルモノハ各々其ノ番號ヲ朱書スヘシ

第七條　圖上ニ記載スル文字ハ總テ楷書ヲ用フヘシ

第八條　製圖用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用フヘシ

第九條　構造其ノ他ノ區別ハ凡ソ左ニ附記スル所ノ記號ニ從ヒ詳細其ノ形狀ヲ寫スヘシ若記號ナキモノハ適宜記號ヲ設ケ圖上ニ其ノ凡例ヲ示スヘシ

名稱	記號	名稱	記號
上ケ下ケ窓		引違ヒ窓	
兩開キ窓		引込ミ窓	
片開キ入口		室内間仕切手摺	

入口引違	鐵ボールト窓	連子窓	板張	石敷	煉瓦敷
突上ケ窓	木格子窓	無雙連子窓	筋違板張	四盤石敷	敲キ

西洋形便所	板流シ	角椽側	ストーブ	煉瓦爐	廻リ階子段
押入上ケ板	雨便所	床上爐	石爐	階子段	階段

高欄付階段	リノリウム敷	ラセン敷	疊敷
勾配石敷	ヅック敷	絨氈敷	

第三號

地圖、建物圖更正標準

第一條　買入、收用、交換又ハ管理換等ノ爲一敷地ノ一部ニ增減ヲ生シタルトキハ第一號地圖調製標準ニ基キ在來ノ敷地ハ朱線ヲ以テ之ヲ畫キ（全部ノ形狀ヲ示スノ必要ナキモノハ其ノ一部ヲ示シ）增加ノ部分ハ疊ニテ之ヲ畫キ減少ノ部分ハ朱ノ虛線ヲ以テ之ヲ畫キ其ノ增減ノ部分ニハ三斜線ヲ記入シ坪數算出ノ根據ヲ明ニスヘシ權利ニ關スル圖面ニ異動ヲ生シタル場合亦之ニ準ス

前項ノ地圖ニハ國有財産臺帳ノ口座番號ヲ朱記スヘシ

第二條　建物又ハ工作物ニ增築ヲ爲シタルトキハ在來ノ建物又ハ工作物ハ朱線ニテ外形ヲ畫キ增築ノ部分ハ第一號地圖調製標準及第二號建物圖調製標準ニ基キ之ヲ畫クヘシ

第三條　建物又ハ工作物ノ全部ノ改築ヲ爲シタルトキハ舊建物又ハ工作物ハ朱ノ虛線ニテ其ノ外形ヲ畫キ改築ノ建物又ハ工作物ハ前條ノ標準ニ基キ掛紙ニ之ヲ畫クヘシ

其ノ一部ノ改築ヲ爲シタルトキハ現存ノ部分ハ朱線、取拂ノ部分ハ朱ノ虛線ニテ其ノ外形ヲ畫キ改築ノ部分ハ前項ノ例ニ依リ之ヲ畫クヘシ

第四條　建物又ハ工作物ノ移轉、移築ヲ爲シタルトキハ舊位置ハ朱ノ虛線ニテ之ヲ畫キ移轉、移築ノ建物又ハ工作物ハ第二條ノ標準ニ基キ之ヲ畫クヘシ

第五條　建物ノ內部ニ變更ヲ加ヘタルトキハ朱線ニテ其ノ原形ヲ畫キ變更ノ部分ハ第二號建物圖調製標準ニ基キ掛紙ニ之ヲ畫クヘシ

第六條　前各條ノ地圖ニハ其ノ周邊ノ建物及工作物ノ外形ヲ略記シ增築、改築、移轉又ハ移築ノ位置ヲ明瞭ナラシムヘシ

第四號書式

用途ヲ廢止スヘキ公用財産調書

所在	種目	構造	建物番號	數量	臺帳評定價格	建築年月日
	事務所建（何廳舍）				圓	
	倉庫建（何々）				圓	
	工場建（何々）				圓	
	圍障（何々）				圓	
	（何々）				圓	
合計						

價格評定ノ基礎

用途廢止ノ事由

處分ノ方法

備考

一　所在欄ニハ其ノ財産ノ所在地タル道府縣郡市區町村名字名及地番ヲ記載スルコト

二　種目欄ニハ例示ノ如ク其ノ種目及用途ヲ記載スルコト

三　構造欄ニハ木造、煉瓦造、石造、土藏造、鐵造、鐵筋コンクリート造等ノ種類及平家建、二階建等ノ區別ヲ記載スルコト

四　建物ハ一棟每ニ、工作物ハ例示ノ如ク其ノ種目及種類別ニ

之ヲ記載スルコト

五　數量欄ニハ建物ハ建坪及其ノ延坪、工作物ハ國有財産整理種目表ニ基キ其ノ箇數又ハ間數ヲ記載スルコト

六　價格評定ノ基礎欄ニハ其ノ價格算出ノ根據ヲ記載スルコト

七　用途廢止ノ事由欄ニハ其ノ事由ヲ記載スルコト

八　處分ノ方法欄ニハ賣拂又ハ物品ニ組入等ノ如キ其ノ處分ノ方法ヲ記載スルコト

九　一部ノ用途廢止ノ場合ニハ其ノ區域ヲ表示シタル圖面ヲ添附スルコト

●國有財産取扱上質疑ノ件

大正十一年五月二十五日發乙一第一〇二九號
會計課長發食糧局長宛

國有財産取扱ニ關シ別紙甲號ノ伺出ニ對シ乙號ノ通回答致候爲念此段及通牒候也

（甲號）

大正十一年四月十一日北甲第六七號
北條種羊場長發會計課長宛

國有財産取扱上ニ關シ疑義相生シ候ニ付左記事項何分ノ御指示相煩度此段相伺ヒ候也

追テ第一項第二項ニ付テハ國有財産法ノ適用ヲ受ケサルモノトモ被存候ヘ共疑義有之候ニ付伺度申添候

一　當場用地ハ民有地ニシテ該土地ヲ種羊場ニ於テ賃貸スル爲兵庫縣加西郡長カ右土地ニ三十箇年ノ永小作權ヲ設定シ別紙ノ通土地賃貸借契約相成居候處右土地ハ國有財産法施行令第一條第四項ノ地上權（其他之ニ準スヘキ權利）トシ國有財産法第一條ノ所謂勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利トシ國有財産ノ取扱ヲ爲スヘキモノニ候哉

二　右賃貸借地ノ民有地ニ新營費ヲ以テ道路ヲ新設シタル時ハ國有財産トシ取扱フヘキモノニ候哉

三　國有財産法施行令第一條第三項ノ事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具ハ國有財産トストアリ無論廳費ヲ以テ購入シタル物品モ包含致居候儀ト心得居候就テハ右ハ物件ノ購入價格ニヨリ之ヲ區分決定スヘキモノニ候哉果シテ然ラハ大體ニ於ケル其制限價格御指揮相煩度併テ伺上候

（乙號）

大正十一年五月二十五日發乙一第一〇二九號
會計課長發北條種羊場長宛

四月十一日附北甲第六七號ヲ以テ照會ノ國有財産取扱上質疑ノ件左記ノ通ニ有之候此段及回答候也

記

一　國有財産トシテ取扱フヘキモノニアラス

二　民有地ナルト國有土地ナルトニ不拘舗床等ノ整理ヲ爲スヘキモノハ格別特ニ工作物トシテ通路ノ種目ヲ設ケ整理スルヲ要セス

三　貴場ハ事業所ニアラサルヲ以テ機械類ハ國有財産トシテ取扱フヘキモノニアラス

〔參考〕

大正十一年四月二十九日發乙一第一〇二九號
本省會計課長發大藏省主計局長宛

國有財産取扱上敷地内ニ通路ヲ新設シタル場合ニ於テハ國有財産整理種目表中ノ種目ニ道路若ハ通路ノ種目無之右ハ全ク國有財産トシテ臺帳ニ登錄ヲ要セサル儀ニ候哉將又工作物及器具機械ノ區分中ニ通路ノ種目ヲ設ケ臺帳ニ登錄スヘキ哉疑義相生シ候ニ付折返御回報煩度此段及照會候也

大正十一年五月十一日藏第五一九〇號
大藏省臨時國有財産整理部長發本省會計課長宛

客月二十九日發乙一第一〇二九號ヲ以テ通路ノ取扱ニ關シ御照會相成候處右ハ舗床等ノ整理ヲ爲スヘキモノハ格別特ニ工作物トシテ通路ノ種目ヲ設ケ整理スルヲ要セサルモノト存候

●國有財産タル竹ノ數量ノ單位「束」ノ算出ニ關スル件

昭和七年八月十一日會乙第一六〇八號
會計課長發米穀部長宛

國有財産タル竹ノ數量ノ單位「束」ノ算出方ニ關シ營繕管財局總務部長ヨリ別紙ノ通通知有之候條右ニ依リ取扱相成度此段及通知候也

（別紙）

昭和七年八月一日營管國第一八〇九號ノ二
營繕管財局總務部長發本省會計課長宛

今般司法省ヨリ國有財産タル竹ノ數量ノ單位「束」ノ算出方ニ關シ別紙甲號ノ通リ照會有之乙號ノ通リ回答致候ニ付爲念及御通知候也

（甲號）

昭和七年七月十八日司法省會甲第二〇三七號
司法省會計課長發營繕管財局總務部長宛

國有財産立木竹ノ材積ハ樹木ハ石、竹ハ束ヲ以テ數量ノ一單位ト爲スヘキ記載例ニ有之候處從來竹ニ付テハ未タ曾テ報告ノ例ナク又記載例ニ於テモ算出ノ基準ニ關シ何等明示無之候ヘトモ這回昭和七年三月末日國有財産現在額報告書ニ於テ之カ報告ヲ要スルモノ相生シ候處竹ノ一束トハ如何ナル方法ニ依リ算出スヘキモノナル哉其ノ基準ニ付聊カ疑義有之候條至急何分ノ御回示煩度候也

（乙號）

昭和七年八月一日營管國第一八〇九號
營繕管財局總務部長發司法省會計課長宛

七月十八日附司法省會甲第二〇三七號ヲ以テ國有財産タル竹ノ數量ノ單位「束」ノ算出方ニ關シ御照會相成處右ハ「三尺繩〆」ヲ以テ一束トシテ御取扱相成可然ト存候此段及回答候也

●國有財産事務取扱方ニ關スル件

昭和八年五月十九日會第八四六號
會計課長發米穀部國有財産管理分掌官宛

改正　昭和九年六月會第九〇三號

標記ノ件ニ關シ各省國有財産事務協議會ノ決定ニ基キ大藏省營繕管財局總務部長ヨリ別紙ノ通リ通知有之候條夫々御實行相成候樣致度此段及通知候也

追而別紙協議事項第六項中昭和七年五月二十八日附營管國第一四六八號ヲ以テ御照會トアルハ貴官ニ宛テ同年六月十八日附七會乙第一一三一號ヲ以テ國有財産增減表ニ關シ照會セシ件ニ候尙同項中增減報告書提出ノ年十二月二十日迄ニ提出ノコトヽアルハ當省ヨリ大藏省ヘノ提出期限ニ付當省ヘハ遲クモ十一月末日限リ御提出相成度申添候也

（別紙）　協議事項

一、國有財産增減報告書ノ備考欄ニ記入スヘキ增減事由ノ用語統一ニ關スル件

國有財産增減報告書ニ記載スヘキ增減ノ事由ハ之ヲ備考欄ニ簡明ニ記入スルコトトナリ居レルカ餘リニ簡單ニ過キテ其ノ意味ノ不明瞭ナルモノ若ハ同一事由ニ對シ各省區々ノ用語ヲ用ヒタルモノ等アリテ取扱上不便尠カラサルヲ以テ昭和七年度國有財産增減報告書ヨリ別表ノ通リ用語ヲ統一ノコト但シ特別ノ事由アル省ニ於テハ昭和八年度國有財産增減報告書ヨリ實施スルヲ妨ケス

二、各省ニ於テ賣拂讓與又ハ交換ヲ爲シタル國有財産ノ臺帳整理方ニ關スル件

各省所管公用財産ニシテ大藏大臣ト協定ノ上大藏大臣ニ引繼カスシテ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタルモノニ付テハ昭和七年度分ヨリハ必ス一旦雜種財産トシテ臺帳ニ登錄シタル上之カ拂出ヲ爲スコト

三、土地及立木竹ノ實測ニ因ル增減ノ臺帳記載方ニ關スル件

本件ニ關シテハ從來數量ノミヲ掲ケ價格ハ價格改定ノ時期ニ至ルマテ之カ訂正ヲ爲ササルノ取扱例ナリシカ昭和七年度ヨリハ增減數量ニ對スル價格モ數量ト共ニ之ヲ計上スルコト

四、增減報告書中二以上ノ增減事由ヲ同一備考欄ニ於テ合記シタル場合ニ於テハ之カ內譯書添附ノ件

增減事由二以上ヲ同一備考欄ニ合記シタル場合ニシテ右事由中、管理換、交換、引繼、引受ニ係ルモノハ數量價格及事由ヲ明記シタル內譯書ヲ作成シ增減報告書ト同時ニ提出ノコト

五、增減報告書調製前營繕管財局ニ備フル國有財産總括簿ノ現在高ト各省ニ備フル總括簿等ノ現在高ト照合ノ件

各省ニ於テハ每年度初メニ於テ所管各部局ニ備フル國有財産臺帳現在高ト各省ニ備フル國有財産總括簿ノ現在高トヲ前々年度分ニ付テ照合シ更ニ其ノ年六月中ニ各省ニ備フル國有財産總括簿ノ現在高ト營繕管財局ニ備フル國有財産總括簿ノ現在高トヲ前々年度

分ニ付テ照合スルコト

六、國有財産增減事由別調ニ關スル件

昭和六年度分ニ關シテハ昭和七年五月二十八日附營管國第一四六八號ヲ以テ御照會致シタルモ本調ハ國有財産增減總計算書竝同報告書ニ對スル議會參考資料トナルヘキヲ以テ昭和七年度分以降ニ於テハ必ス其ノ增減報告書提出ノ年十二月二十日迄ニ提出ノコト

七、メートル法實施ニ關スル件

メートル法實施ノ猶豫期間ハ昭和九年六月三十日ヲ以テ滿了ニ付昭和九年度國有財産增減報告書ハメートル法ニ依リ之ヲ作製スルノ必要アリ仍テ國有財産法施行規則ヲ改正シ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ實施ノコト

國有財産增減事由用語記載例

昭和八年四月十四日各省國有財産事務協議會決議

一、國有財産增減報告書備考欄ニ記入スベキ增減事由ノ用語ハ總テ本表ニ依ルモノトス

二、本表ニ依リ難キモノアルトキハ各省主務課ヨリ營繕管財局總務部國有財産課ニ記載例設定ノ協議ヲ爲スコト

三、右協議ノ結果新ニ記載例ガ追加セラレタルトキハ營繕管財局總務部國有財産課ハ直ニ各省主務課ニ對シ之ガ通知ヲ爲スコト　各省主務課ニ於テ右通知ヲ受ケタルトキハ直ニ各部局ニ對シ其ノ旨通知ヲ爲シ本表ノ整理ヲ爲サシムルコト

目次

甲、公用財産
土地……六七六頁
立木竹……六八二
建物……六八四
工作物……六八六
器具機械……六八八
船舶……六九〇
鑛業權、砂鑛權……六九一
乙、營林財産

土地……六九二
立木竹……六九四
建物……六九五
工作物……六九六
船……六九七
丙、雜種財産
土地……六九八
立木竹……七〇〇
建物……七〇二
工作物……七〇三
船……七〇四
株式及持分……七〇五

甲、公用財産

區分	增	減	摘要
土地購入			〔一、同一種目欄ニ增減アリタルトキハ增ハ、、減ハ、、トスルコト 二、同一種目ニ對スル增減事由二以上アル場合ハ句讀點ヲ用フルコト〕
宮內省ヨリ讓受			〔公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ヲ購入シタル場合營繕管財局ニ於テ購入ノ上各省ニ引繼タルモノニ付テハ「購入（大藏省ヨリ引受）」トスルコト、土地ト共ニ樹木ヲ購入シタルトキハ其ノ數量及價格ヲ併記スルモノトス〕
寄附			御料地ノ讓與ヲ受ケタル場合 寄附受納ノ場合

收用			土地收用法ニ依リ收用シタル場合
收用補償追拂			訴願、訴訟ノ結果追拂又ハ過拂ノ爲戻入ヲ爲シタル場合
埋立			水面ノ埋立ヲ爲シタル場合
地均			盛土ノ場合ヲ含ム
地上權、坪價格、圓	取得		地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ皆此ノ例ニ做フ
新規登載樹木、本價格、圓			從來國有財産トシテ取扱ハレサリシ樹木ヲ新ニ國有財産トシテ編入スル場合
新植樹木、本價格、圓			新ニ樹木ヲ植栽シタル場合
實測價格改定			境界査定ノ結果增減シタルモノヲ含ム 樹木ノ價格改定ハ「樹木價格何圓」ト併記スルコト
收用補償追拂		地上權、坪價格、圓消滅	〔國有財産臺帳ニ登載シアルモ大正十一年四月一日現在額報告書ニ記載セラレサリシモノハ此ノ記載例ニ依リ整理シ其ノ後ノ增減ニシテ增減報告書ニ記載洩ノモノハ其ノ增減ノ事由ヲ記入シ〔何年度報告洩又ハ何年度報告洩ヲ含ム〕ト〕 〔スルコト 土地ト共ニ樹木ノ報告洩アリタルトキハ其ノ數量及價格ヲ併記スルコト〕
實測價格改定			
報告洩			
端數合算		端數切捨	
誤謬訂正		誤謬訂正	減失
			〔流失、陷沒シタル如キ場合 土地ト共ニ樹木ノ流失アリタルトキハ其ノ數量價格ヲ併記スルコト〕

水面ニ編入		人工ヲ以テ水面ニ編入シタル場合ニシテ土地トシテ整理シ難キモノ
燒失 樹木、本 價格、圓		土地ノ備考ニ登載シタル樹木燒失ノ場合
伐採 樹木、本 價格、圓		枯損木タルト障害木タルトヲ問ハス用途廢止ノ上伐採シタル場合
倒壞 樹木、本 價格、圓		
交換		
(何々)ヨリ管理換	(何々)ヘ管理換	各省間又ハ各省ト植民地各廳間ニ異動アリタル場合ニシテ他ノ記載例ニ該當セサルモノ
(何管理廳)ヨリ所屬換	(何管理廳)ヘ所屬換	同一省ニ於テ管理廳ニ異動アリタル場合
(何口座)ヨリ整理替	(何口座)ヘ整理替	同一管理廳ニ於テ目的ニ異動ナキモ所屬口座ニ異動アリタル場合
土地區劃整理換地	土地區劃整理引渡	
耕地整理換地	耕地整理引渡	
(何口座)ヨリ用途變更	(何口座)ヘ用途變更	土地ト共ニ樹木ニ異動アリタルトキハ其ノ數量及價格ヲ併記スルコト
(何口座)建築敷地ヨリ分割	(何口座)ヘ分割	口座名二以上ニ亘ル場合ハ「何口座外何口座ヘ分割」トスルコト

官制改正ニ因リ(何々)ヨリ引受	官制改正ニ因リ(何々)ヘ引繼	
社格昇格	社格昇格	神社ノ社格昇格ニ因ル增減ノ場合
行政區劃變更ニ因リ何(縣、郡、市)ヨリ整理替	行政區劃變更ニ因リ何(縣、郡、市)ヘ整理替	神社用地ニシテ行政區劃變更ニ因リ異動アリタル場合
公共用財産ヨリ種別替	公共用財産ヘ種別替	公共用財産ヲ內務省所管公用財産ヘ又ハ同省所管公用財産ヲ公共用財産ヘ種別替ヲ爲シタル場合
營林財産ヨリ種別替	營林財産ヘ種別替	內務省及農林省所管公用財産ヲ同省所管營林財産ヘ又ハ同省所管營林財産ヲ同省所管公用財産ヘ種別替ヲ爲シタル場合
雜種財産ヨリ種別替		各省ノ管理ニ屬スル雜種財産ヨリ其ノ省所管公用財産ニ種別替ヲ爲シタル場合
區域名變更	區域名變更	鐵道省所管ノミ
線路名變更	線路名變更	同
引繼取消		
移植 樹木、本 價格、圓	移植 樹木、本 價格、圓	
	積ニ整理替 樹木、本 價格、圓	
文部省ヨリ引受	文部省所管ノミ	
何學校ヘ引繼	大藏省ヘ引繼ヲ爲サズ各省ニ於テ管理又ハ處分ヲ爲ス場合	
用途廢止	用途廢止ノ上大藏省ニ引繼タル場合	
大藏省ヘ引繼	名勝地、天然紀念物ハ此ノ例ニ依ル	
(史蹟地)トシテ文部省ヘ引繼		

備考脱漏（何年度）		脱漏シタル備考ヲ併記スルコト
借地何坪 増借地何坪	減借地何坪	國有地ヲ使用スル外尚借地ヲ爲シタルトキハ「外ニ借地何坪」ト記載スルコト 増借地ハ借地ヲ借増シタル場合 減借地ハ借地ヲ返還シタル場合等借地ノ減少シタル場合
何々敷地何坪供用（又ハ何々敷地何坪使用） 何々敷地何坪供用増（又ハ何々敷地何坪使用増）	何々敷地何坪供用廢止（又ハ何々敷地何坪使用廢止）	國有地ヲ供用又ハ供用ヲ廢止シタル場合
民有地何坪使用	民有地使用廢止	借地關係ナク事實上民有地ヲ使用スル場合
備考誤謬訂正（何年度）	備考誤謬訂正（何年度）	增減シタル數量價格ヲ併記スルコト
借家	減借家	國ニ於テ工作物ヲ所有スル場合ニ限リ敷地ノ備考欄ニ記入スルコト
立木竹購入 寄附 新植 新規登載		從來國有財産トシテ登載セザリシモノヲ登載シタル場合

實査報告	實査	
價格改定	價格改定	
誤謬訂正	誤謬訂正	
	倒壞	採伐
	燒失	伐採
	盜失	伐採
	流失	伐採
交換	交換	
移植	移植	
（何々）ヨリ管理換	（何々）ヘ管理換	
（何管理廳）ヨリ所屬換	（何管理廳）ヘ所屬換	
（何口座）ヨリ整理替	（何口座）ヘ整理替	
樹木ヨリ整理替		

建物購入	用途廢止	大藏省ニ引繼ヲ爲サズ各省ニ於テ管理又ハ處分ヲ爲ス場合
寄附	大藏省ヘ引繼	名勝地、天然紀念物ハ此ノ例ニ依ル
新築	(史蹟)トシテ文部省ヘ引繼	
增築	新規登載	營繕管財局ニ於テ工事ヲ施行シタルモノヲ引受ケタルトキハ新築(大藏省ヨリ引受ノ分)ト記載シ各省ニ於テ工事ヲ施行シタルモノト營繕管財局ニ於テ工事ヲ施行シタルモノトヲ同時ニ記載スルトキハ新築(大藏省ヨリ引受ノ分ヲ含ム)ト記載スルコト工作物ニ付テモ亦同シ
修繕		右ノ例ニ依ル
報告		假設物ヲ國有財産ニ編入シタル場合
價格設定		價格遞減ノ結果財産價格皆無トナリタルニ因リ更ニ價格ヲ設定シタル場合工作物竝器具機械ニ付テモ亦同シ
從物增設		
從物新設		

端數合算	端數切捨	
誤謬訂正	誤謬訂正	取毀ノ上物品ニ編入シタル場合、工作物ニ付テモ亦同シ
取毀	取毀	
焼流失	焼失	
倒壞	倒壞	
價格遞減	價格遞減	
從物除斥	從物除斥	
改築	改築	
移築	移築	
移轉	移轉	
模樣替	模樣替	
種目變更	種目變更	名勝地、天然紀念物ハ此ノ例ニ依ル
(何々)ヨリ管理換	(史蹟)トシテ文部省ヘ引繼	
	(何々)ヘ管理換	

	(何管理廳)ヨリ所屬換	(何管理廳)ヘ所屬換
	(何口座)ヨリ整理替	(何口座)ヘ整理替
	工作物ヨリ整理替	
	文部省ヨリ引受	何學校ヘ引繼
	官制改正ニ因リ(何々)ヨリ引受	官制改正ニ因リ(何々)ヘ引繼
	復舊	從物改設
	從物改設	從物移設
	從物移設	用途廢止
		大藏省ヘ引繼
	區域名變更	區域名變更
	線路名變更	線路名變更
		營林財産ヘ種別替
工作物購入	雜種財産ヨリ種別替	
寄附		

文部省所管ノミ

鐵道省所管ノミ

同

新設	取流燒除破倒價格遞減失壞斥壞失毀正訂誤謬訂正	新設
增設		增設
修繕		修繕
新規登載		新規登載
報告洩		報告洩
價格設定		價格設定
誤謬訂正		誤謬訂正
改設		改設
移設		移設

器具機械	移轉	移轉
新設	模様替	模様替
	種目變更	種目變更
	交換	交換
	文部省ヨリ引受	何學校ヘ引繼
	(何々)ヨリ管理換	(何々)ヘ管理換
	(何管理廳)ヨリ所屬換	(何管理廳)ヘ所屬換
	(何口座)ヨリ整理替	建物ヘ整理替
	雜種財産ヨリ種別替	(何口座)ヘ整理替
	官制改正ニ因リ(何々)ヨリ引受	官制改正ニ因リ(何々)ヘ引繼(史蹟)トシテ文部省ヘ引繼名勝地、天然紀念物ハ此ノ例ニ依ル
	區域名變更	區域名變更
	線路名變更	線路名變更
		用途廢止
		大藏省ヘ引繼

增設	設	設
修繕		
價格設定		
誤謬訂正	誤謬訂正	燒失止
		用途廢止
		價格減
改設	改設	設
移設	移設	設
模様替	模様替	替
車種變更	車種變更	鐵道省所管ノミ
(何々)ヨリ管理換	(何々)ヘ管理換	
(何管理廳)ヨリ所屬換	(何管理廳)ヘ所屬換	
整理替	整理替	
區域名變更	區域名變更	
線路名變更	線路名變更	

鑛業權	改造	改造
砂鑛權	模様替	模様替
	種目變更	種目變更
	（何々）ヨリ管理換	（何々）ヘ管理換
	（何管理廳）ヨリ所屬換	（何管理廳）ヘ所屬換
	（何口座）ヨリ整理替	（何口座）ヘ整理替
購入		用途廢止
設定		
誤謬訂正	誤謬訂正	誤謬訂正
		價格遞減
		消滅
		增區ノ場合ヲ含ム
		減區ノ場合ヲ含ム

舶		
新造		
購入		
寄附		
價格追加		
修繕		
改測		
新規登載		
報告洩		
屬具取付	屬具除斥	
誤謬訂正	誤謬訂正	流失
	燒流失	減失
	屬具價格遞減	破損

乙、營林財産

區分	増	減	摘要
土地	購入		
	寄附		
	脫落地登載		
	實測	實測	
	價格改定	價格改定	
	地上權取得（、、歩　價格、、圓）	地上權消滅（、、歩　價格、、圓）	地役權其ノ他之ニ準ズベキ權利亦同ジ
	官行造林設定（、、、、歩）	官行造林解除（、、、、歩）	保安林、部分林、委託林、保管林、官地民木林等總テ此ノ例ニ依ル
		官行造林燒失（、、、、歩）	
	誤謬訂正	誤謬訂正	増ニハ殘地復活ヲ含ム
		下戻	
		滅失	
	交換		
	種目變更	種目變更	

	（何省）ヨリ管理換	（何省）ヘ管理換	
	（何管理廳）ヨリ所屬換	（何管理廳）ヘ所屬換	
	（何事業區）ヨリ整理替	（何事業區）ヘ整理替	土地ト共ニ保安林其ノ他備考ニテ整理スルモノノ異動アリタル場合ハ其ノ異動數量ヲ併記スルモノトス
	公共用財産ヨリ種別替	公共用財産ヘ種別替	増ハ公共用財産ヲ内務省所管營林財産ニ種別替シタル場合 減ハ内務省所管營林財産ヲ公共用財産ニ種別替シタル場合
	公用財産ヨリ種別替	公用財産ヘ種別替	内務省及農林省所管公用財産ヲ同省所管營林財産ニ又同省所管營林財産ヲ同省所管公用財産ニ種別替シタル場合
	雜種財産ヨリ種別替		
		目的廢止	
	借地何坪	減借地何坪	
	増借地何坪		
	備考脫漏（何年度）		脫記シタル種目（保安林保管林ノ如キ）數量ヲ併記スルモノトス
	備考誤謬訂正（何年度）	備考誤謬訂正（何年度）	

立木竹	購入	
	寄附	
	新規登載	
	實價格改定査	實價格改定査
	誤謬訂正	誤謬訂正
		盜伐
		燒失
(何省)ヨリ管理換	(何省)ヘ管理換	
(何管理廳)ヨリ所屬換	(何管理廳)ヘ所屬換	
(何事業區)ヨリ整理替	(何事業區)ヘ整理替	
樹木ヨリ整理替		
交換		
公共用財産ヨリ種別替	公共用財産ヘ種別替	
公用財産ヨリ種別替	公用財産ヘ種別替	

建物	購入	
	寄附	
	新築	
	增築	
	報告	
	新規登載	
	從物新設	從物除斥
	從物增設	
	誤謬訂正	誤謬訂正
		取毀
		燒失
		流失
		倒壞
雜種財産ヨリ種別替	目的廢止	

	改築	改築
	移築	移築
	移轉	移轉
	種目變更	種目變更
	模樣替	模樣替
	從物改設	從物改設
	從物移設	從物移設
	（何省）ヨリ管理換	（何省）ヘ管理換
	（何管理廳）ヨリ所屬換	（何管理廳）ヘ所屬換
	（何事業區）ヨリ整理替	（何事業區）ヘ整理替
	公共財産ヨリ種別替	公共財産ヘ種別替
	公用財産ヨリ種別替	公用財産ヘ種別替
	雜種財産ヨリ種別替	目的廢止
工作物新設		

	增設	改設
	誤謬訂正	誤謬訂正
	燒失	燒失
	喪失	喪失
	倒壞	倒壞
	改設	改設
	移設	移設
	（何省）ヨリ管理換	（何省）ヘ管理換
	（何管理廳）ヨリ所屬換	（何管理廳）ヘ所屬換
	（何事業區）ヨリ整理替	（何事業區）ヘ整理替
	目的廢止	
船舶新造購入		
	誤謬訂正	誤謬訂正

區分	增	減	摘要
	（何省）ヨリ管理換 （何管理廳）ヨリ所屬換 （何事業區）ヨリ整理替 改造	（何省）ヘ管理換 （何管理廳）ヘ所屬換 （何事業區）ヘ整理替 改造 目的廢止	
丙、雜種財産			
土地	史蹟地トシテ購入 史蹟地トシテ寄附 賣拂取消 賣拂解除 讓與取消 實測	實測	名勝地、天然紀念物亦此ノ例ニ依ル 同
	報告洩 脫落地登載 引繼洩發見登載 相續人曠缺 誤謬訂正	誤謬訂正 賣拂 讓與 伐採 樹木、本價格、圓下戻 減失 宮內省ヘ讓渡	樹木ノ賣拂ヲ爲シタルモノアルトキハ左傍ニ種目、數量及價格ヲ記載スルモノトス 同
	何省ヨリ引受 史蹟地トシテ何省ヨリ引受元、、 公用財産ヨリ種別替 營林財産ヨリ種別替 交換	史蹟地トシテ文部省ヘ引繼 公用財産ヘ種別替 營林財産ヘ種別替 交換	名勝地、天然紀念物ノ引繼、引受ハ此ノ例ニ依ル

耕地整理換地	耕地整理引渡	
土地區劃整理換地	土地區劃整理引渡	
種目變更	種目變更	
行政區劃ノ變更ニ因リ（何縣、郡、市）ヨリ編入	行政區劃ノ變更ニ因リ（何縣、群、市）ヘ編入	
	營林財産トシテ何省ヘ引繼	
	公共用財産ヘ種別替	
	大藏省ヘ引繼	
	何々敷トシテ何省ヘ引繼	
	引繼誤謬ニ因リ何省ヘ返還	植民地各廳ニ管理換ヲ爲シタル場合ハ此ノ例ニ依ル
備考脱漏（何年度）樹木、本價格、圓備考誤謬訂正	備考脱漏（何年度）樹木、本價格、圓備考誤謬訂正	異動アリタルモノノ種目、數量及價格ヲ併記スルコト
立木竹新規登載報告洩		
賣拂取消		

賣拂解除		
讓與取消		
實査	實査	
價格改定	價格改定	
誤謬訂正	誤謬訂正	
	賣拂與	
	讓與	
	盜伐	
何省ヨリ引受		
史蹟トシテ何省ヨリ引受	史蹟トシテ文部省ヘ引繼	名勝地、天然紀念物ノ引繼、引受ハ此ノ例ニ依ル
公用財産ヨリ種別替	公共用財産ヘ種別替	
營林財産ヨリ種別替	公用財産ヘ種別替	
交換	營林財産ヘ種別替	
行政區劃ノ變更ニ因リ（何縣、郡、市）ヨリ編入	交換	
	行政區劃ノ變更ニ因リ（何縣、郡、市）ヘ編入	
	大藏省ヘ引繼	

建物	何々數ト共ニ何省ヘ引繼	
賣拂取消		
賣拂解除		
讓與取消		
端數合算		
誤謬訂正		
	（何省）ヨリ引受	元何々省ヨリ引受史蹟トシテ何省ヨリ引受
切捨	（何省）ヘ引繼	
訂正		
拂與		
失壞		
燒失		
流倒		
讓賣		
端數誤謬訂正		
取毀		

工作物	行政區劃ノ變更ニ因リ（何縣、郡、市）ヨリ編入公用財産ヨリ種別替營林財産ヨリ種別替	行政區劃ノ變更ニ因リ（何縣、郡、市）ヘ編入公用財産ヘ種別替營林財産ヘ種別替
新設		
增設		
報告洩		
賣拂取消		
賣拂解除		
讓與取消		
誤謬訂正		
賣拂與		
讓賣		
倒壞		
棄却		

交換	何省ヨリ引受	史蹟トシテ何省ヨリ引受	行政區劃ノ變更ニ因リ（何縣、郡、市）ヨリ編入
		公用財産ヨリ種別替	營林財産ヨリ種別替
		營林財産ヨリ種別替	（何管理廳）ヨリ所屬換
		（何々廳）ヨリ整理替	
船舶賣拂取消			
船舶賣拂解除			
譲與取消			
誤謬訂正			

交換	何省ヘ引繼	史蹟トシテ文部省ヘ引繼	行政區劃ノ變更ニ因リ（何縣、郡、市）ヘ編入
		公用財産ヘ種別替	營林財産ヘ種別替
		（何管理廳）ヘ所屬換	
		（何々廳）ヘ整理換	
誤謬訂正			
賣拂與譲			

株式及持分	出資	（何省）ヨリ引受	相續人曠缺
		公用財産ヨリ種別替	營林財産ヨリ種別替

擊流解	沈没失	資本減少	賣拂

●國有財産增減事由別調ニ關スル件

昭和七年六月十八日會乙第一一三一號
會計課長發農務局長宛

昭和六年度國有財産增減ノ事由別ニ依ル數量、價格承知致度候條乍御手數左記記載例ニ依リ御取調ノ上來ル九月三十日迄ニ御回答相煩度此段及照會候也

記（本表ハ各會計別、財産種類別ニ作製ノコト）

一般會計（又ハ特別會計）公用財産（又ハ營林、雜種財産）

區分	事由	增 數量	增 價格	區分	事由	減 數量	減 價格
土地	購入	何々	、、坪	土地	賣拂	何々	、、坪
			、、坪				、、坪
立木竹	編入	何々	、、石	立木竹	伐採	何々	、、石
			、、束				、、束
建物	新築		、、坪	建物	用途廢止		、、坪
	改築		、、坪		取毀		、、坪
	附屬物取付	何々	、、		何々		、、
			、、				、、

工作物	增設	何々	
船舶	何々	、、隻	
		、、	、、
計			、、
工作物	取毀	何々	
船舶	何々	、、隻	
		、、	、、
計			、、

●國有財産管理換事務取扱ニ關スル件

大正十三年四月二十九日會第七一八號
會計課長發食糧局長宛

河川、堤塘、溝渠等公共用財産ヲ公用財産トタル場合ニ於テハ各省部局長トノ協議ヲ以テ國有財産法施行令第三條ノ手續ヲ了スルコトニ取扱タキ件ニ付御協議相成候處右ハ異存無之候此段及回答候也

大正十一年十一月內務、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信及鐵道大臣發大藏大臣宛

國有財産ノ管理換ニ付テハ國有財産法施行令第三條ニ依リ所管大臣及大藏大臣ニ協議ヲ要スル定ナルモ左記ノ場合ハ其事實尠カラサルノミナラス事理簡單明白ノモノニ之アリ然ルニ一々各省大臣間ニ於テ協議スルハ何等實益ナキノミナラス徒ニ手數ヲ滋クシ事務ノ敏活ヲ缺クノ憾アリ依テ之ヲ關係各省部局長間ノ交渉ヲ以テ其手續ヲ了スルコトヽ致候ハヽ事務簡捷ノ趣旨ニ副ヒ時宜ニ適スルノ處置ト被存候間御同意ヲ得度及協議候也

記

一　河川、堤塘、溝渠等公共用財産ヲ公用財産トナス場合

一　公用財産ヲ河川、堤塘、溝渠等公共用財産トナス場合

●公用財産用途廢止事務取扱ニ關スル件

大正十二年一月八日發乙三第六七八號
會計課長發食糧局長宛

公用財産ノ用途廢止ノ場合ニ當リ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答有之候條爾今右ニ依リ處理相成度此段及通知候也

（甲號）

大正十一年十二月十五日會第一七八四號
本省大臣發大藏大臣宛

當省竝ニ所管官衙ニ於ケル公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ貴省ニ通知シ用途廢止後引繼可致ノ處左記各項ニ該當スル部分ハ貴省ニ引繼ヲ爲サス適宜處分致度國有財産法施行令第二條第一項ニ依リ此段及協議候也

左　記

一、建物又ハ工作物ニシテ取毀ノ目的ヲ以テ其用途ヲ廢止スルモノ

二、立木竹但土地ノ用途廢止ニ伴フ場合ヲ除ク

（乙號）

大正十一年十二月二十二日藏第一四〇〇〇號
大藏大臣發本省大臣宛

十二月十五日附會第一七八四號ヲ以テ公用財産ノ用途廢止ノ場合ニハ單ニ事前ノ通知ニ止メ之カ引繼ヲ爲ササルモノニ付御協議相成候處右ハ御申出ノ通異存無之候此段及回答候也

●公用財産用途廢止事務取扱ニ關スル件

昭和三年五月二十五日會第六二七號
會計課長發農務局長宛

公用財産タル立木竹ノ內庭木其ノ他拔積ヲ基準トシテ算定シ難キ樹木及工作物中臺帳價格千圓以下ノ工作物ニ付取毀ノ目的ヲ以テ用途

廢止ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ各省部局長ヨリ所轄稅務監督局長ニ對シ事前ノ通知ヲ爲シ以テ國有財産法施行令第二條第一項ノ手續ヲ了スルコトニ大藏大臣ヨリ申越ノ次第モ有之候條該當事項ニ付テハ右ニ依リ貴官限リ專行相成度依命此段及通牒候也

追テ右工作物ノ用途廢止ハ大正十二年一月八日附發乙三第六七八號ヲ以テ通知ニ係ル取毀ノ目的ヲ以テ其ノ用途ヲ廢止スル場合ノモノニシテ其ノ內臺帳價格千圓以下ノ工作物ニ付テハ貴官限リ所轄稅務局長ニ對シ單ニ事前ノ通知ニ止メ之カ引繼ヲ爲サヽル儀ニ付右御了知相成度爲念申添候

●國有財産引繼、引受及管理換ニ關スル件

大正十三年八月十五日會乙第一六六八號
會計課長發食糧局長宛

國有財産引繼、引受及管理換ノ件ニ關シ別紙寫ノ通國有財産整理局長ヨリ照會有之候條此段移牒候也

（別紙）

大正十三年七月二十四日藏第九一二一號
國有財産整理局長發本省會計課長宛

貴省及稅務監督局ヨリ送付ニ係ル大正十一年度國有財産增減報告書中雜種財産ノ引繼、引受及管理換ニ於テ一方ニハ引受ノ報告アルモ他ノ一方ニハ之ニ相當スル引繼ノ報告ナキモノアリ又數量價格ニ於テモ符合セサルモノ有之候處右ノ中ニハ單ニ報告ヲ脫漏セシモノモ可有之ト存ラレ候ヘ共要スルニ如此ハ貴省部局ト稅務監督局トノ間ニ於テ其ノ取扱ヲ異ニセルモノアルカ爲不符合ヲ生シタルモノト認メラレ候ニ付右財産ノ授受ニ付テハ其ノ數量價格及授受ノ年月日等双方必ス一致セシムルノ必要有之候ニ付自今左記各項ニ依リ御扱相成候樣致度此段依命及照會候也

追テ本件ニ付テハ稅務監督局ニ對シテモ左記ノ趣旨ニ依リ取扱フコトニ通牒致置候ニ付御了知相成度尙來ル八月三十一日限リ送付可相成大正十二年度國有財産增減報告書ニ付テハ双方必ス一致スル樣致度候ニ付特ニ御配意相成度申添候

記

一、貴省部局長ヨリ稅務監督局長ニ雜種財産ノ引繼アリタル場合ノ財産ノ授受ニ付テハ引受廳ヨリ送付セル引受書ノ日附ヲ以テ臺帳ヲ整理スルコト

二、數量價格ハ臺帳記載ノモノニ依リ之カ引繼ヲ爲スコト但シ引繼ニ際シ實測ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ實測數量ニ依リ之カ引繼ヲ爲スコト

三、右實測ノ結果數量ニ異動ヲ來ス場合アリト雖其ノ價格ハ之カ定ヲ要セサルニ付其ノ儘引繼ヲ爲スコト

四、雜種財産ノ管理ニ依ル財産ノ授受ニ付テハ引渡廳ニ對シ送付スル引受書ノ日附ヲ以テ臺帳ニ登錄スルコト

五、各省間ニ於ケル國有財産ノ管理換ニ依ル財産ノ授受ニ付テハ前項ノ例ニ依リ處理スルコト

●各省ノ所管ニ係ル不動産登記ノ囑託ニ關スル件

明治三十五年一月十八日
勅令第五號

各省大臣カ其ノ所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ省令ヲ以テ指定シタル官吏ハ不動産登記法第三十五條第五號ノ書面ヲ提出スルヲ要セス

●農林省所管不動産登記囑託ニ關スル代理官指定ノ件

改正　昭和二年第二三號、四年第五號、八年第二二號、九年第二五號

大正十四年四月一日
農林省令第二號

不動産登記囑託ニ關スル代理官指定ノ件左ノ通定ム

大臣官房會計課長、米穀局長、農事試驗場長、蠶業試驗場長、生絲檢査所長、茶業試驗場長、園藝試驗場長、營林局長、營林署長、林業試驗場長、水産講習所長、水産試驗場長、畜産試驗場長、獸疫調査所長、種羊場長、種馬牧場長、種馬育成所長、種馬所長及種鷄場長ハ當省所管ニ係ル不動産及船舶登記囑託ニ關シ本官ノ代理官ト

ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●雜種財産ノ管理ヲ爲スニ伴ヒ生スル收入金取扱ニ關スル件

昭和三年三月十九日會第三一八號
會計課長發農務局長宛

雜種財産ノ管理ヲ爲スニ伴ヒ生スル收入金取扱方ニ關シ別紙寫ノ通大藏大臣ヨリ通牒有之候條該當事項アル場合ハ右ニ依リ取扱相成度此段及通知候也

（別紙）

昭和三年三月六日藏營第五八三號
大藏大臣發本省大臣宛

雜種財産ノ管理ヲ爲スニ伴ヒ生スル收入例之貸付料、使用料、辨償金又ハ下草拂下代等ハ從來總テ國有財産ノ整理處分ニ因ル收入ニアラストシテ一般會計ノ歲入ニ收納スルコトニ相成居候處今般之等ノ收入ニ付テハ別紙ノ通決定致候ニ付貴省ニ於テ之ニ該當スルモノ有之候ハヽ該收入ハ昭和三年度ヨリ國有財産整理資金特別會計ノ歲入ニ收納スルコトニ御取扱相成度此段及通牒候也

追テ該收入ニ關スル歲入科目ハ昭和三年度ノ初頭ニ於テ官報ヲ以

テ告示ノ見込ニ有之候尚右收入ニ關シテハ貴省所管部局長ニ對シ可然御取計相成度申添候

雜種財産ノ管理ニ伴フ收入ヲ國有財産整理資金特別會計ノ歲入ト爲スノ件

雜種財産ノ管理ヲ爲スニ伴ヒ生スル收入例之貸付料、使用料、辨償金又ハ下草拂下代等ハ從來總テ國有財産ノ整理處分ニ因ル收入ニアラストシテ一般會計ノ歲入ニ收入スルコトニ相成居候處右ノ内將來整理處分ヲ目的トスル雜種財産ニシテ之カ處分ヲ爲スニ至ル迄之カ管理行爲トシテ當該財産ノ用途ニ從ヒ一時之ヲ貸付又ハ其ノ下草ヲ刈取ルカ如キコトヲ爲スニ當リ生スル收入ハ整理處分ヲ目的トスル國有財産ノ管理ニ依ル收入トシテ同特別會計法第二條ノ附屬雜收入ト認メラル而シテ此ノ事ハ整理處分ヲ目的トスル雜種財産ノ管理ニ要スル費用カ國有財産整理資金特別會計ニ於テ負擔セラルルト相反映スルモノナリ依テ雜種財産ノ管理ヨリ生スル收入ハ之ヲ國有財産整理資金特別會計法第二條ニ該當スルモノトシ昭和三年度ヨリ同會計ニ收納スルコトト致度

〔參照〕

大正十一年三月二十八日公布國有財産整理資金特別會計法抄錄

第二條　國有財産整理資金ハ國有財産ノ整理處分ニ因ル收入及附屬雜收入ヲ以テ之ニ充ツ但シ其ノ收入ニシテ他ノ特別會計ノ歲入ニ屬スルモノ及國有林野又ハ北海道國有未開地ノ處分ニ因ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

●國有財産整理資金特別會計歲入徵收報告ニ關スル件

昭和九年九月八日營管國第一一九三號
營繕管財局長官發本省米穀局長宛

國有財産整理資金特別會計歲入徵收報告書寫提出方ニ關シ別紙ノ通各歲入徵收官宛及御依頼置候處當官ニ於テモ右同樣御取計相成度此段及御依頼候也

（別紙）

昭和七年八月十五日營管國第一八八五號
營繕管財局長官發各歲入徵收官宛

調査上必要有之候條國有財産整理資金特別會計歲入徵收報告書ハ昭和七年八月分ヨリ大藏大臣ニ報告ノ都度其ノ副本ヲ當局ニ御送付相成度此段及御依頼候也

●大藏省所管國有財産整理資金特別會計歲入徵收官指定ノ件（抄錄）

昭和九年九月四日
大藏省達第一號

大正十五年六月大藏省達第一號大藏省所管國有財産整理資金特別會計歲入徵收官左ノ通改正ス

農林省米穀局長

●官舍貸渡規則

明治九年五月十五日
太政官達第五十三號

改正　明治一〇年第三七號、第八七號

院省【使】廳府縣

明治七年七月第九十三號同八年五月第八十八號達ヲ廢シ更ニ官舍貸渡規則別紙ノ通相設候條從來ノ官舍或ハ官廳附屬ノ家屋等貸渡候向ハ本年一月一日ヨリ宿代取立大藏省ヘ可相納尤元金建坪等取調ノ義院省【使】ハ大藏省廳府縣ハ内務省ヘ可申出此旨相達候事

但借地料ノ義ハ明治八年七月第百十四號布告官有地第二種但書ノ通可相心得事

（別紙）

第一條　官舍貸渡ス時ハ毎月宿代取立ツヘシ

但獄舍【懲役場】倉庫定番見張番等並ニ鐵道各驛長各所燈明番等ハ此限ニアラス其他公務ノ都合ヲ以テ官舍貸渡ス者ト雖モ宿代取立ルハ勿論ナレトモ該官舍ノ内公用私用ニ供スル間席ヲ區劃シタル向ハ其私用ニ供スル間席ノミ宿代取立ツヘシ

第二條　宿代ハ元金ノ八分ヨリ一割迄ヲ制限トシ適宜斟酌シテ取立ツヘシ【右取立高ノ内七分ハ上納三分ハ其廳ニ備置修繕費ニ充ツヘシ】

第三條　官舍新營ノ分ハ其建築費ノ總額古家作ノ分ハ買上値段或ハ當時賣買スヘキ直段ヲ以テ滿三年間ノ元金ト定メ爾後滿三年毎ニ一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ目今新營或ハ買上ノ年度ヨリ既ニ滿三年ヲ過ルモノハ此節一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ

但新營ノ分元金ハ石礎入費ヨリ計算スヘシ且貸渡ノ節修繕ノ分ハ其費額ヲ元金ニ加ヘ爾後修繕ノ費額ハ加ヘサルヘシ

第四條　宿代ハ年ヲ以計算スヘシト雖モ取立方ハ月割タルヘシ

但十六日以後ニ貸渡タル時又ハ十五日以前ニ返却シタル時ハ半月分取立ヘシ

第五條　【宿代上納方ハ三ヶ月毎ニ取調修繕費遣拂ノ分ハ毎年六月迄ニ精算帳差出シ殘金アラハ後日ノ費用ニ充置ヘシ】

第六條　官舍外廻リ雨漏又ハ臨時大破ノ外一切ノ修繕ハ自費タルヘシ

第七條　拜借人自費建增等願出ル時ハ實地檢査ノ上差支無之分ハ允許スヘシ

第八條　拜借人交換ノ節ハ篤ト檢査ヲ遂ケ若シ毀損スル所アルカ又ハ附屬品等不足スル時ハ辨償セシムヘシ

但自費建增等ノ存廢ハ新舊拜借人ノ示談ニ任スヘシ

●官舍貸渡内規

明治二十一年十二月
内閣總理大臣發本省大臣宛

改正　明治二二年達第六號
大正八年内閣内甲第八五號、一〇年内閣甲第七九號、一三年内閣農第一四號

明治九年太政官第五十三號達官舍貸渡規則ノ不完全ナルニ依リ管理上不都合不少ニ付今般別紙ノ通リ内規ヲ定メ其足ラサル所ヲ補ヒ明治二十二年一月一日以降之ヲ施行ス依テ此意ヲ諒セラルヘシ

（別紙）

官舍貸渡内規

第一條　別表ニ掲クル所ノ官吏ハ官舍ニ居住スヘキモノトス
但公務上差支ナキ者ハ所屬長官ノ意見ニ由リ又ハ其認許ヲ經テ官舍ニ居住セサルモ妨ナシ

第二條　官舍相當ノ建具疊敷物窓掛煖爐通信器點火器及對客必要ノ椅卓ニ限リ官費ヲ以テ之ヲ設クルモノトス
但大臣ノ官舍ニ限リ以上物品ノ外接客用飲食器接客室ニ備フル所ノ花瓶書棚物置臺鏡時計ハ官費ヲ以テ之ヲ設ケ且公用室客室及館外ノ點火竝ニ公用室及客室ノ石炭ハ官費供用スルコトヲ得

第三條　官舍及官舍附屬ノ建物物品等ノ保存上必要ナル手入ハ一切居住人ノ自費トス天災若クハ自然ノ腐朽ニ由リ修繕ヲ加フルコトヲ必要トスル時ハ官費ヲ以テ支辨ス

第四條　官舍居住人ノ不注意ニ因リ官舍及其附屬ノ物品ヲ毀損シタルトキハ自費ヲ以テ支辨セシム

第五條　各廳ノ便宜ニ由リ其長官ニ於テ別表外ノ官吏ヲ官舍ニ居住セシムル時ハ總テ官舍貸渡規則ニ據ルヘキセノトス

（別紙）（抄錄）
各省大臣
大臣秘書官
農商務省山林局試驗場詰官吏、農商務大臣ニ於テ特ニ官舍居住ヲ命スル食糧局出張所職員
其他各廳ノ技術官ニシテ必要アルトキ各廳長官ニ於テ大藏大臣ト協議ノ上官舍居住ヲ命スル者帝室費及地方稅經濟ノ支辨ニ屬スル官舍ハ本表ノ外トス

●米穀事務所構内現居住者報告ニ關スル件

昭和七年十一月二十一日米部第一九九八號
米穀部長發各米穀事務所長宛

首題ノ件ニ關シ左記要領ニ依リ報告相成度此段及照會候也
尙官舍其ノ他ノ使用ニ關シテハ從來ノ慣例モ有之候得共自今ハ次ノ通處理相成度

一、職員ノ官舍其ノ他ノ居住退去ハ豫メ內申シ傭人ニ關シテハ所長專決スルコト
一、官舍其ノ他ノ居住退去ニ付テハ其ノ年月日官職氏名建物ノ名稱番號等遲滯ナク報告スルコト

記

名稱	建物番號	戶別番號	官職	氏名	居住年月日	備考
官舍	建物第何號	第一號	技師			
官舍	何々	第二號	屬			
官舍	同	第三號	技手			
傭人詰所	同	第一號	倉手			
人夫詰所	同	第二號	工手			
休憩所	同	何號	何々			
何々	同	同	同			

●官舍居住ニ關スル件

大正十五年七月二十四日
經理課長發〇〇米穀事務所長宛

貴所增設官舍居住命令別紙ノ通發令相成候然ル處本件ニ關シテハ曩ニ六月三十日附農〇米第八六一號ヲ以テ御申出ノ次第了承右ハ種々御考慮ノ上御稟請相成候事トハ被存候得共義務官舍ノ制度ニ鑑ミ事故發生ノ際ニ於ケル責任關係等ニ付テモ考慮ヲ要スルモノ有之本官以外ノ者ニ對シテハ居住セシメサルヲ適當トスルモノト被認候ニ付テハ甲號官舍ハ當分其儘使用セサルコトニ取計度候間右ニ御了知ノ上可然御處理相成度此段申進候也

（別紙略ス）

●國ノ事業ニ對スル寄附ノ件

昭和四年七月十五日內務省發地第四八號
內務次官發本省次官宛

標記ノ件ニ關シ今般別紙ノ通各地方長官ヘ通牒相成候條御了知相成度

（別紙）

昭和四年七月十五日內務省發地第四八號
內務省地方局長發北海道廳長官及府縣知事宛

標記ノ件ニ關シテハ大正六年十月二十二日內務省發地第二二四號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之候處右ハ爾今內申ヲ要セサルコトニ省議決定相成候條御了知相成度
追而地方公共團體ニ於テ寄附ヲ爲スハ其ノ工事カ團體ノ公益ニ直接關係アルカ又ハ其ノ利害ニ重大ナル關係アルモノノミニ限ラルヘキハ勿論ノ義ナルモ之カ爲課稅重課ニ涉リ若ハ其ノ財源ヲ起債ニ依ルカ如キハ地方財政ノ現狀ニ鑑ミ適當ナラサルヲ以テ特ニ此ノ點ニ留意シ財政監督上萬遺憾ナキヲ期セラレ度

●公有水面埋立法同施行令ニ關スル件

大正十一年四月二十五日文第一五二號
文書課長發食糧局長宛

公有水面埋立法及同法施行令ハ本年四月十日ヨリ施行相成候處右ニ關シ內務次官ヨリ別紙寫ノ通申越候ニ付御了知相成度此段及通牒候也

（別紙）

大正十一年四月二十日內務省發土第三五號
內務次官發本省次官宛

公有水面埋立法及同法施行令本年四月十日ヨリ施行セラレ候ニ付テ

ハ左記事項御承知相成度

記

一　國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ於ケル公有水面埋立法第四十二條ノ規定ニ依ル埋立ノ承認又ハ竣功ノ通知ニ付テハ同法施行令第二條又ハ同令第二十五條ノ規定スル所ニ準シ必要ナル手續ヲ履踐スルコトニ致度

二　埋立地（陸地）ト公有水面トノ境界ハ潮汐干滿ノ差アル水流、水面ニ在リテハ春分秋分ニ於ケル滿潮位、其他ノ水流、水面ニ在リテハ高水位ヲ標準トシ之ヲ定ムルコト

●建物其ノ他營造物ノ火災防備ニ關スル件

明治四十四年三月
本省内訓會第一六七號
各部局長

各官衙ニ於ケル諸般建物其ノ他營造物ノ漸次增加スルニ隨ヒ年々火災ニ罹ルモノ尠カラサルハ甚遺憾ニ堪ヘサル所ナリ各部局ハ其ノ保管ノ營造物火災防備ニ關シ平素適當ノ注意ヲ怠ラサルヘシト雖爾今一層部下ヲ督勵シ火元ノ取締ヲ嚴ニシ夜警ノ巡視ヲ周到ニシ又豫テ火災防備ノ途ヲ講シ毫モ遺漏ナキヲ期ス可シ

右内訓ス

●倉庫名稱ニ關スル件

昭和四年十一月二十日農局第三三九〇號
農務局長發新潟米穀事務所長宛

十一月五日附四新米第三七一號ヲ以テ伺出相成候倉庫ノ名稱ニ付テハ左記ノ通御了知相成度此段及通牒候也

記

一、倉庫ノ門標ハ「農林省新潟米穀事務所倉庫」トスルコト

二、貴官ノ所謂分廳舍ニハ其ノ入口ニ「事務室」ノ小札ヲ掲ゲ別ニ門標ヲ掲ゲザルコト

昭和四年十一月五日新米第三七一號
新潟米穀事務所長發農務局長宛

當政府倉庫及分廳舍ハ本廳舍ト分離シ新潟市沼垂牛街道ニ建設被致候ニ付テハ右ニ對シ如何ナル名稱ヲ附スベキモノニ有之候哉門標掲記、其ノ他契約上ニモ必要ヲ生ズ可ク候ニ付何分ノ御指令ヲ仰度此段及伺出候也

追テ農林省新潟米穀倉庫或ハ農林省新潟米穀事務所倉庫ノ名稱適當カト被存候得共一應相伺度候也

●倉庫名稱變更ノ件

昭和五年五月七日農局第一三八一號
農務局長發各米穀事務所長宛

從來國有財産上口座名ヲ何々倉庫ト稱シタルヲ昭和四年度末ヨリ何々米穀事務所倉庫ト改稱致候條了知相成度此段及通牒候也

第七章　物品

第七章　物　品

●物品會計規則

明治二十二年六月十二日
勅令第八十四號

改正　明治二四年第七七號、三三年第三一八號
大正一一年第四八號
昭和六年第一三三號

第一條　此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具機械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動產ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關スルモノハ各其ノ規則ニ依ル

政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ各省大臣ニ於テ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ各省大臣ヨリ會計檢査院ヘ通知スヘシ

第二條　物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ每年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條　物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條　物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條　總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第五條ノ二　所管大臣ハ會計法第三十七條ノ規定ニ依リ專賣官署ノ事務員ヲシテ物品ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大藏大臣ト協議シ其ノ廳ノ事務員ヲシテ物品ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第五條ノ三　前條ノ規定ニ依リ物品ノ出納保管ニ關スル事務ノ分掌ヲ命セラレタル事務員ハ物品會計官吏所屬ノ物品出納員トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ

第六條　物品會計官吏又ハ物品出納員ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條　物品會計官吏又ハ物品出納員ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條　各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條　物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第十條　物品會計官吏又ハ物品出納員ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生產ノ爲メノ消費及其ノ他物品會計官吏又ハ物品出納員ノ保管ヲ離ルヽヲ出トシ買入生產及其ノ他其ノ保